

基キ二十年度ノ小區會ニ於テ貿易商ニ引渡セト議決シタリト云フ
ナリ

今村曰 既ニ歩合金ト稱シ、之ヲ取立テ又之ヲ仕拂フ方法等ニ付
テハ、大塚代言人之ヲ盡セリ依テ聊カ之ヨリ歩合金ノ性質ヲ陳
述セン

抑モ歩合金ハ何人カ出シタルモノナリヤ、從來貿易商ノ懷口合
ヒヨリ出シモノナリヤ、又賣込引取ノ營業者ヨリ、横濱ノ公
費ノ爲メニ積立テタルモノナリヤ、原告ハ更ニ之ヲ述ヘス、
倍テ歩合金ハ一應ハ貿易商ノ懷ヨリ出シタルカ如キモ其實ハ賣買
各荷主ヨリ、相當ノ營業口錢ノ外ニ於テ取立タルモノナルコト
ハ事實爭フベカラサルモノナリ、又町費ヲ補助シテ餘リタルモ
ノハ積立置クベキヲ、貿易商ニ割戻シタルモノ、割戻ト云ハス

シテ單ニ「預リ」ト稱セリ而シテ己ニ「預リ」トアル上ハ一旦必要ノ場合
生シタラズニハ何時ニテモ差出サ、ルベカラサルモノナリ、
「割戻」ト云ハスシテ「預リ」ト云フ、荷主ノ出セシモノヲ自分等ニ於テ
割戻ヲ受クル謂レナケレハナリ故ニ何時タリトモ之ヲ要スルコト
アレハ其預リヲ出サ、ルベカラサルナリ、而シテ荷主等カ歩合
金ヲ出スハ貿易商ノ爲メニ財産ヲ持テ遣ラントノ意思ニ出テタ
ルニアラスシテ畢竟横濱ノ公費ヲ補助セントノ精神ニ出テタルモ
ノナリ且夫レ歩合金ハ賣買者ヨリ縣聽、舊大區、今日ノ所謂
ル兵長役場、ニ差出シタル後ハ其性質異ルモノニシテ公費ト變
スルモノナリ、又歩合金ハ唯リ原告人ノ地位ニ立ッ人々ノミ出
セシモノニアラス植木屋、大工、左官、荷車、肴屋、
元町歩合、市場歩合、凡ソ此類枚舉ニ堪ヘス決シテ賣込引取

ノ營業ニ從事スルモノ、ミ出セシニハアラサルナリ況ンヤ其分ス
 テモ其本ヲ尋ヌレハ、各荷主ヨリ公費ノ爲ニトテ徵集シタルモ
 ノナルニ於テチヤ、且夫レ歩合金ニ於ケル本來ノ成立ハ如何ナ
 ルニモセヨ共有物ハ歩合金ノ其性質ヲ變シテ町費トナリタル後ニ
 於テ買入レタルモノナリ否ナ本訴物件中ニハ歩合金外ヨリ成立セ
 シモノモ又之ナキニアラス、之ヲ要スル本訴共有物件ハ町會ノ
 決議ニ依リ、營業稅其他ノ取立物及ヒ歩合金等カ其性質ヲ變シ
 テ公費トナリシ以後ニ於テ買得シタルモノナレハ其何レノ分ガ果
 シテ歩合金ヨリ成立セシカ甚タ判明セサルナリ、蓋シ純粹ナル
 歩合金ニテ買得シタルモノハ一モ之アルナシト信ス、自身番、
 元ノ町會所、ノ類アルカ是等ハ一文モ出サスシテ十四ヶ町ノ
 共有物ニ流レ込ミシナリ官ヨリ無代價ニテ拂下ケタルモノナリ、

夫レ如此歩合金ノ性質ナリ、今原告カ斯ル流レ込ミ物マテチモ
 歩合金ニテ買得シタルモノ、如ク唱道スルハ甚ダ不當ナリ、
 澁谷曰 本訴共有物件ハ歩合金ヲ以テ直接ニ買入レシモノナリヤ又
 ハ公費ト變シタル金ニテ買入レシモノナリヤ、此ノコトニ付テ
 ハ歩合金ニテ買入レシト云フ証ヲ擧クベシ、又被告ハ乙第三號
 証ニヨリ歩合金ノ租稅ノ一種ナルコトヲ主張スト雖トモ是レ事實
 チ誤リタルモノナリ維新ノ始メ縣廳ニ市政課ナルモノアリテ歩合
 金ノコトヲ管理セシガ、歩合金等ノ仕拂不明ナリトノ風評アリ
 シ爲メ、其疑ヲ晴ス爲メ、他ノ稅目ト共ニ一表ニシテ示メス
 爲メ、作リシ表ナルヲ以テ、之ヲ以テ一概ニ歩合金ハ租稅ナ
 リトハ云フベカラス故ニ該表ハ明治四年一月限リシカ、作ラサ
 リシニアラスヤ要スルニ該表ノ如キハ縣廳ニテ勝手ニ作リタル表

タルニ過ギザルニヨリ是ヲ以テ歩合金ハ租稅ナリトハ斷シ難シ
 ……
 關嶋曰 理由ハ已ニ大塚今村ノ兩代言人ニ於テ之ヲ述ヘ盡シタルコ
 トナルカ尙其陳述ニ付必要ノ点ヲ補足スベシ、明治十一年ニ至
 リ、歩合金ハ民費即チ公費トナレリ、明治十一年ノ大區會ノ
 トキ其第一條ニ項目ヲ掲ケテ八項トシ、歩合金ハ第一民費トア
 リ又全年縣廳ニ伺出シ處、第一民費ト可心得下指令シマリ由是
 觀之歩合金ハ公費補助ノ爲メニ取立テタルモノニシテ貿易商人等
 利益ノ爲メニ積立タルモノニハアラサルナリ又全年大區會ハ町會
 所建物及敷地、町會所附屬地、横濱瓦斯局及敷地ハ其買入金員ノ出所
 并ニ其性質ニ就テ視ルトキハ一小區ノ共有物ナルコト明ナルヲ以
 テ其保存維持ノ方法ハ小區會ニ付シテ議定セシムベシトノ議決ヲ

ナシタルコトハ乙第六號証ノ如シ、而シテ小區會ハ本町外十三
 ケ町ヲ云フモノタルコトヲ明示シタル以上ハ明ニ十四ケ町ノ共有
 物タルコトヲ認メタルモノト云ハサルベカラス、決シテ十四ケ
 町ノ貿易商人ニ引渡ストノ意味ニハアラザルナリ、而シテ當時
 大區會議員中ニハ議長小野光景ヲ始メトシ原善三郎、平沼專藏、本多
 武右門等八九名アリ、是皆ナ今ノ原告人中録々タル人物ナリ又
 乙第七號証ノ如ク明治十二年ニハ議長原善三郎等ハ明ニ十四ケ町
 ノ共有物タルコトヲ認メテ聯合會ヲ開キタルモノナリ、夫レ如此
 今日原告中ノ録々タル人物ハ當時ノ會議ニ於テ現ニ一小區ノ共有
 物ナリト云フコトヲ認メ居リ乍ラ今日ニ至リ突然、我々貿易商
 ノ共有物ナリト云フハ甚ダ其意ヲ得サルナリ
 澁谷曰 營業割、民費、歩合金ノ性質變シタルカ如クニ至リテ

ルヲ以テ原告ハ斷然之ヲ拒絕シ、然ル上ハ最早歩合金ヲ出サ、
 ルベシ、ト云ヒタルヲ以テ縣廳ニテモ其非ヲ悟リ直ニ之ヲ廢止
 シタリ左スレハ歩合金ノ性質ニハ毫モ變更ヲ來ヌサルナリ
 大塚曰 明治十年五百六號、時ノ縣令野村靖ノ布達ニヨレハ歩合
 金ニ復シテ可ナリトハ云ハス、民費ト可心得下アリ、即チ何
 處マテモ民費ナルベキコトヲ示シタリ、理事者カ常ニ民費ノ性
 質ヲ以テ取扱ヒシハ終始一貫セリ、尤モ荷主ヨリ取立ルトキハ
 歩合金トシテ取立ルコトハ默認シ居レリ

判事曰 時既ニ正午ニ近キタルヲ以テ一先閉廷シ晝餐ノ上午後一時
 ヨリ再ヒ開廷スベシ

午前十一時四十分休廷
 午後一時開廷

判事曰 原告代言人ヨリ呈供セル証据物ノ説明ヲ望ム、何レ事實
 モアルコトナランガ、確メラル、丈ハ確メラレノコトヲ望ム、

大谷木曰 敬承順次之ヲ説明スベシ

甲第一號証ハ明治二十年三月中本訴ノ財産ヲ聯合町會ニ於テ本町
 外十三ヶ町ノ貿易商人ニ引渡スベク決議シタル事實ヲ證明スルモ
 ノナリ此中ニ、第一條ト第二條トアリ、其第一條ノモノハ貿
 易商ノ所有物ナリ、第二條ノモノハ本町外十三ヶ町人民大体ノ
 所有物ナリ、斯クニ區別ヲ立テ、議決ヲナセリ
 甲第二號証ハ明治二十二年三月廿三日ニ、被告ヨリ町會議員ヘ
 宛テ、出シタル通知書ニシテ、文中ニ臨時會ハ三日間ノ成規ニ
 付云々ノ句アリ、之ヲ以テ臨時會ノ繼續期限ハ三日間ナル事實

ヲ證明ス甲第三號及第四號證ハ全一ノ事柄ヲ證明スルモノニシテ
、、即チ被告ハ數回町會ヲ開キシモ明治廿二年三月卅日ニテ終結
ヲ告ケタリ、、之ヲ以テ被告ノ呈出スル乙第一號證ノ議案ニ付被
告カ臨時會ヲ開會シタルハ三月三十一日ノ一日ノミナルコトヲ證
明ス

甲第五號證ハ甲第三四號證ト全一ノ事實ヲ證明ス

甲第六號證ハ明治廿二年四月一日ヲ以テ被告ヨリ縣知事ニ差出シ
タル上申書ニシテ、、此上申書ニ依レハ、、元來臨時會ハ三日間
ノ成規ナルニモ拘ラス三月卅一日ノ一日丈ニテ開期ノ終リシモノ
トナシテ、、翌四月一日ヨリハ市町村制實施ノ爲メニ町會ヲ開ク
コト能ハスト誤解シテ遂ニ開會セス、、依テ以テ原案認可ノ上申
ヲ爲シタル事實ヲ證明ス

甲第七號證ハ明治二十二年二月廿九日ニ、、被告ヨリ町會議員ニ
出セシ通知書ナリ之ヲ以テ通常町會ヲ三十一日ヨリ開會スル趣ヲ
通知セシ事實ヲ證明ス

甲第八號及第九號證ハ甲第七號證ノ如ク三月三十一日ヨリ引續キ
四月六日マテ都合七日間通常會ヲ開會セル事實ヲ證明ス

甲第十號證ハ明治十七年ニ於ケル神奈川縣ノ達ナリ、、之ヲ以テ
町村會ノ議決ハ區戸長ヨリ縣知事へ報告スル丈ノ者ニテ認可ヲ求
ムベキ筋合ノモノニアラザルコトヲ證明ス

甲第十一號乃至第十五號證ハ皆同一ノ事柄ヲ證明スルモノニシテ
、、積立テタル歩合金ハ貿易商ノ承諾ヲ得タル後ニアラサレハ町
村費等ノ補助ニ使用シ得ラレサル事實ヲ證明ス

甲第十六號證ハ明治廿年四月十五日ニ被告カ甲第一號證決議ノ認

可ヲ求メタル事實ヲ証明ス
甲第十七號証ハ右認可ヲ求メ出テシニ乘シテ縣知事カ決議ノ實行
ヲ見合セシメタル事實ヲ證明ス
甲第十八號証ハ本訴共有財産ノ起因沿革等ヲ證明ス而シテ之ハ明
治二十年甲第一號証ノ決議ヲナセシトキ原案者ノ作為シタル説明
ナリ

判事曰 被告モ證據物ノ説明ヲナスベシ

大塚曰 敬承

乙第一二號証ハ甲第二號証以下第九號証マテト全性質ノモノニシ
テ被告ノ証トシテ差出スベカリシテ原告ニテモ差出セシナリ、
即チ乙第一二號証ハ本訴ノ争ニ係ル共有物件ヲ本町外十三ヶ町ノ
共有財産ニスルニ付キ之ヲ維持スル費用ノ徵集方ヲ定メシ議案ナ

リ、即チ之ヲ以テ原告ノ甲第二號以下第九號証マデニ示セル如
ク臨時會ヲ招集セシニ何日モ開カレザリシ事實ヲ証明ス
乙第三號証ハ明治四年辛未十一月ヨリ全五年壬申十月マテ壹ヶ年
分ニ對スル歩合金決算ノ報告書ナリ其取立ノ部ハ、第一項賣品步
合四万三千八百八十九兩一步永五十八文四分、第二項買品步
合三万八千三百二十八兩永二百四十二文四分、第三項元町步合二
百十兩永三十文九分、等ニシテ原告ノ云フ賣買歩合モ他ノ三十
餘科目ト全ク皆歩合金ノ名ニテ取立テ悉ク公共ノ用ニ供シタル
ナリ、又支拂ノ部ニハ道普請費、町役人月給、町會所小買
物、町入用、人足賃、斷獄入費、邏卒入費、等ノ目ア
リ而シテ其末項ニ通計ヲ舉ケテ取立ノ部、十二万二千七百七十三
兩永五十三文三分洋銀二百十二弗二セント、仕拂ノ部、九萬

七千九百九十六兩二分永十一文二分、トアリ即チ差引二萬四千二百十六兩二分永四十二文壹分洋銀二百十二弗二セントニシテ之ヲ仕拂殘リタル九萬二千五百二十五兩永百三十五文六分ニ加レハ總計十一萬六千七百四十一兩二分永百七十七文七分洋銀二百十二弗二セントナリ、是等ノ殘リシ金ガ町會所ノ敷地及建物ヲ買ヒシ金ニテ町會所ハ明治六年ニ作りシナリ然レトモ是レハ步合金ト云フ名目ニテ納メタルニハアラス、種々ノ名稱ニテ收納シタルモノガ右ノ十壹萬餘兩トナリシモノナリ、第三號證ハ此ノ事柄ヲ証明ス

乙第四號證ハ、原告ノ云フ所ニヨレハ戶長ハ誤テ步合金ヲ管理シタル如クナレトモ從來縣知事カ直轄シタルヲ、明治六年ニ至リ第百三號ノ達ヲ以テ同年十月以來第一大區々長へ更ニ任セルニ

付テハ從前步合金ヨリ支拂ヒタル區長以下月給及ヒ町會所諸入費出納ヲ正確ニシ、灑卒費用等モ步合金ヨリ支拂フコトヲ達シタルニヨリ戶長カ職務上之ヲ管理シタルモノナルコトヲ證明ス

乙第五號證ハ乙第四號證ト同性質ノモノニシテ、前年ノ第百三號ニテ區長へ步合金ヲ任セタレトモ詮議ノ次第アルニ付直ニ縣廳へ納ムベク、又任セテ以來ノ精算書ヲ出スヘキコトヲ達シタル事實ヲ明ニスルモノナリ、之ヲ要スルニ本証ハ、以來縣廳自ラ、縣令中島信行自ラ、直轄シタル事實ヲ證明スルモノナリ

乙第六號證ハ原告ノ訴狀ニ記載シアル大區會ノ決議ナリ、其第三條ニ町會所建物及敷地會所附屬地橫濱瓦斯局及敷地、トアリ又其次ニ前項ニ掲クル地所及建物ハ買入金員ノ出所并ニ其性質ニ付テ見レハ一小區ノ共有物ナルヲ以テ其保存維持ノ方法ハ小區會

ニ付シ議定スベシトノ文字ヲ置ケリ、、、當時神奈川縣ハ十五大區ニ分タル横濱ハ即チ其一大區ナリ、、、一大區丈ヲ分ツテ五小區ト爲シ本町外十三ヶ町ハ即チ一小區ナリ、、、右ノ共有物ハ一小區ノ入費ニテ維持スルカ相當ニ付同區會ニ付スト議決セルナリ、、、又其第七條ニ前數條ニ係ル各種ノ所有物収益金ハ別途ニ積立置クモ出納方法ノ如キハ小區會ニ付シ議定スベシトアリ蓋シ明治十二年以來其性質ヲ民費ニ變更セシハ則チ此第七條ヨリ起ルモノナリ、、、又其第八條ニ横濱町會所建物ハ第三條ニ於テ一小區ノ所有物ト決定シタリ、、、故ニ其保存ニ係ル火除地買入方ハ小區會ニ付シ議定スベシトアリ、、、之ヲ以テ町會所付屬火除地ハ小區會ノ決議ヲ經テ購買シタルコトヲ證スルニ足レリ、、、又最モ必要ナルハ第九條ナリ同條ニハ今回議定ノ條款ニテ明治九年臨時區會議定ノ箇條

ニ抵觸スルモノハ今回ノ決議ニ準據スルモノトストアリ、、、之ヲ以テ此以前ノ決議ニシテ相抵觸スルモノアラハ此度ノ評決ニ準據スルモノナルヲ證スルニ足レリ而シテ此議決ヲ爲セシ人々ノ中ニハ大濱忠三郎、、、馬越恭平、、、本多武右衛門、、、茂木惣兵衛、、、原善三郎、、、渡邊福三郎、、、平沼專藏、、、ノ如キ皆今日原告ト爲リ居ル人士中ノ重ナル人加ハリ居レリ而シテ是等ノ人々ハ其當時ニ在リテハ本訴共有物ハ十四ヶ町ニ於ケル團體ノ所有物ナリトノコトヲ決議シ維持入費ハ聯合町會ニテ議スルコトヲ決議シタリ、、、而シテ今日ノ原告小野光景ノ如キハ當時之カ議長タリシ、、、而シテ此議決ハ當時皆縣令ノ認可ヲ得タルモノナリ

乙第七號証ハ乙第八號及九號証ト共ニ只今迄申立テタル處ノ理由ヲ証明スルモノナリ即チ本訴物件ニ付テノ維持保存ノ入費ハ大區

會ノ決議通り十四ヶ町々會カ歩合金ノ内ヨリ其名ヲ換ヘテ出シタルコトヲ証ス、、當時ノ議長ハ今日原告中ノ一人ナル原善三郎ナリ、、、

乙第十號証ハ小學校、、、商法學校、、、ノ建増地購求費ハ明治十五年ニ於ケル十四ヶ町々會ニテ決議シタルコトヲ証ス

乙第十一號証ハ前ト同一ノ精神ニテ引續キ居ルコトヲ証シ且ツ原告カ請求スル物件中ノ一部タル瓦斯局隣地ハ此時ノ決議ニテ買入レタルモノナルコトヲ証ス

乙第十二號証ハ十七年度ノ、、、

乙第十三號証ハ十八年度ノ、、、

乙第十四號証ハ十九年度ノ、、、

乙第十五號証ハ廿二年度ニ於ケル決議ヲ証ス、、、此時ニ當リテハ

原告人中ノ議員ハ一人モ町會ニ出テサリシニ依リ上官ノ命令ニテ原按ノ通り施行シタリ、、、又本證ハ歩合金カ一旦歩合掛ノ手ヲ放レテ戸長ノ手ニ入レハ其性質ヲ租稅ト變更スルモノナルコトヲ併セテ證ス

乙第十六號証ハ明治九年百三十號ノ布告ニシテ本按共有物ノ如キハ區町村會ノ下ニ立ツヘキモノナルコトヲ証ス

乙第十七號証ハ明治十二年六月第二十二號ノ布告ニシテ區町村會ノ沿革ヲ明カニスルカ爲メニ提出シタリ、、、即チ前年ノ區町村會規則ニテハ漠然タリシヲ以テ之ヲ補充シタルノ布告ナリ此布告ニ依レハ凡ソ共有物ニ對スル事柄ハ、、、獨リ賣買ニ止マラス苟クモ區町村會ノアル地方ニテハ何等ノ事ト雖モ第百卅号ノ布告ニアルコトヲ議スルノ權限アルコトヲ証ス

乙第十八号證ハ明治十七年四月十八日ノ達ニシテ共有物ノ争ヒニ付テハ戸長ノ必ス原被タルヘキコトヲ證ス

乙第十九号證ハ明治十三年一月第六号ノ達ニシテ明治七年九月第百卅一号ノ教育令ニ基キ公立學校ヲ立ツルルルハ小學校ハ五百坪、中學校ハ千坪以内ノ地ヲ無代價ニテ下渡スコトヲ明ラカニシタルモノナリ、然シテ其無代價ニテ下渡シタル地所モ尙本訴原告請求ノ物件中ニ存在セリ、本證ハ其不當ヲ證スル爲メニ提供セリ

乙第二十号證ハ乙第十九号證ヲ確カムル爲メニ提供セリ、學校ノ敷地ハ地租ヲ免シタリ、本證ハ斯ノ如キ無稅地ノモノマデモ貿易商人ノ所有物ト爲スヘキ理由ナキヲ證ス、又町會所學校等ノ地券ハ無形人ニ與フル地券ト同一ナリ是レハ附タリノ理由トシ

テ一言シ置クモノナリ

乙第二十一號證ハ明治十九年一月四日ノ神奈川縣ノ達ニシテ、町村會ノ評決ハ縣廳ヘ報告ノ日ヨリ十五日間臨時會ノ評決ハ縣廳ヘ報告ノ日ヨリ十日間ヲ經ルニ非サレハ施行スルヲ得サルヲ證ス、又其第廿六條及廿七條ハ共有物ハ必ス町會ノ議決ニ付スヘキモノナルコトヲ證ス

乙第廿二號証ハ乙第廿一号証ヲ確カムル爲メニ提供セシモノナリ、原告人ハ或ハ本訴ノ物件ヲ以テ町會ノ議決ニ付スベシトノ異論ヲ出スヤモ計ラレサルヲ慮カリ提供シタルモノナリ、己ニ原告ハ戸長ノ管理スヘキモノニアラズトノコトハ主張セリ然ラハ或ハ、

乙第廿三號証ハ明治十二年第二百二十號ノ神奈川縣ノ達ニシテ步

合金ハ民費トシテ支出シ居ルコトヲ証明ス……然レモ取立ノ片ハ矢張歩合金ノ名稱ヲ以テスルコトヲ許セリ……而シテ此歩合金ノ名稱ヲ以テ取立ツルコトハ原告人中ナル茂木……馬越……本多……原……平沼……等ノ人々カ其筋ニ願ツテ然カセシモノナリ

關嶋曰 証據ノ説明ニ付尙補正セシ……乙第十四号及ヒ第十五號証ヲ呈出セシ所以ヲ述フルニ方リ……或ハ二十年度ノ分ガ洩レ居ルヤノ憂アリ……之ハ二十一年ニ至リ二十年二十一年度ト合セテ決議シアルヲ以テ左様御承知アリタシ尙被告ハ乙第廿四號証ヲ提供スルニヨリ前以テ之レカ説明ヲ爲シ置カン則チ本証ハ明治廿一年ノ内務省令ニシテ明治廿二年ニ係ル町費ハ四月一日以後ノモノニテモ尙町會ノ決議ヲ經テ徵集シ得ルモノナルコトヲ証スルナリ
澁谷曰 原告ハ被告ノ証據ハ悉ク之ヲ認ムレトモ……併シ被告ハ原

告ヨリ呈供セシ証據ノ中或ハ認メサルモノアルカ如シ如何

判事曰 夫レハ第何號証ナリヤ

澁谷曰 甲第十一号乃至第十五号証……

大塚曰 無論之ヲ認ム

判事曰 本日ハ之ニテ閉廷セシ次回ハ來ル十日午前九時ヨリ開廷ス

ベケレハ原被代理人ハ遅刻ナク出頭アルベシ

午後二時二十分閉廷

第四回 (七月十日)

午前十時開庭

判事曰 原被告共……新ニ証據ノ出スベキモノアラハ此際差出スベシ

澁谷曰 甲第十六號第十七號第十八號証ト共ニ甲第十九號乃至二十

三號証ヲ尊覽ニ供スヘシ

此時原告代官人澁谷健爾ハ甲第十六號第十七號及ヒ第十八號証ノ寫シ并ニ甲第十九號乃至第二十三號証ノ寫ヲ判事ニ呈供セリ

判事曰 被告代官人、

大塚曰 乙第二十五號証、

此時被告代官人大塚成吉ハ乙第二十五號証ノ寫ヲ判事ニ提供セリ
大塚曰 前回御閉庭ノ際、原告カ提出シタル證據物認否ノ御尋ニ對シ、大休ハ之ヲ認ムル旨ヲ答ヘタルカ、之ハ甲第十八號証マテノコトニシテ、今日提供シタルモノニ對シテハ、未タ之ヲ認メス、又證據物ノ効力ニ付テハ原被双方ニ大ニ議論アルベクレハ、辨論前ニ御聞取アラノコトヲ希望ス

判事曰 原告ハ本日呈供シタル證據物ニ對シテ説明スベシ

澁谷曰 證據物ノ説明前ニ豫メ御斷リ申上置クハ本日證據物トシテ呈供シタル書類ハ皆舊幕時代ニ差出セシ舊記ニ屬スルヲ以テ本証トテハ今存在セス、只タ瓦斯事件ニ於ケル訟訴ノ際、綴込ミシ書類中ニ之カ寫ノ存在セルアルノミ

甲第十九號証ハ之ヲ文面上ヨリ見ルトキハ甚奇妙ナレトモ能ク其全体ノ精神ヲ玩味スルトキハ貿易商ノ承諾ヲ得サレハ他ニ貸付チナスコトヲ得サルノ主意、申通セリ、即チ本証ハ此点ヲ証明ス

甲第二十號及第廿一號証ハ時ノ政府ヨリ歩合金中ヨリ、出金スベク迫マラレタル際ニ方リ、名主年寄等ガ答ヘタルモノニシテ、該歩合金ノ積立人ハ貿易商ナレハ一應其承諾ヲ得サレハ不可ナリ、其承諾ヲ得ルマテ七日迄ノ猶豫ヲ與ヘラレタシト求メタ

ル証據ナリ、又第二十二號証ハ、一萬三千圓ヲ出スベキ承諾ノ申立ヲナシタルニ付キ、直ニ貿易商ヲ呼出シテ直接ニ之ヲ受取り之ニ對シテ受証ヲ出シタル事蹟ヲ証スルモノナリ即チ本証ハ舊幕時代ニ於テモ歩合金ナルモノハ政府ト雖モ恣ニ處理スルコトヲ得サル所以ヲ証明スルノ一大利器ナリ、又第二十三號証モ全ク、貿易商ノ承諾ナクシテ勝手ニ處分スルコトヲ得サル所以ヲ証明スルノ要具ニシテ即チ明治五年以後年々六千圓ツ、差出スベク命セラレタルトキニ際シ成立シタル書類ナリ

大塚曰 乙第二十五號証ハ神奈川縣知事ノ達ニシテ、即チ本案物件中ノ一ナル師範學校及十全病院ノ敷地ニ關シ、本町外十三ヶ町ノ財産ニアラスシテ、縣有財産タルコトヲ達シタルノ事實ヲ証明スルモノナリ、兼テ又縣有財産タル如此モノマテチモ廿年

度ニ於ケル町會ノ議案ニ組入レシハ被告戸長ノ誤ニシテ、又其議員カ之ヲ決議セシモ甚タ疎漏ナル所以ヲ併セ証明スルモノナリ
 澁谷曰 瓦斯ノ訴訟書類ヨリ抜萃セシ書類即チ甲第十九号乃至第二十三号証ニ於ケル寫ノ原本ハ只今人ヲシテ取寄セシメ居レトモ之レニテモ宜ケレハ一應尊覽ニ供セン此時原告代理人澁谷慥爾ハ記憶ニ供スルカ爲メ携へ來リタル瓦斯訴訟書類寫本一冊ヲ判事ニ呈供シ判事ハ之ヲ被告代言人ニ示セリ

大塚曰 拜見、大畧承知セリ、併シ之ハ單ニ奉行所ニ差出セシモノナリト云フニ過キサレハ、只其差出セシト云フコトヲ見ルマテナリ、殊ニ之ハ寫ヨリ寫取リシモノナレハ、尤モ縣廳モ一昨々年火災ニ罹リタレトモ舊キ記録ハ大抵火災ヲ遁レ居ルトノコトナレハ、篤ト縣廳ヘモ照會シテ之カ取調ヲ爲スベシ、故

ニ今日ノ所ニテハ認ムルコトヲ得ス……取調ノ結果トシテ該書類
 ノ存在セルコト明ナレハ無論之ヲ認ムレトモ若シ其存在セサルニ
 於テハ決シテ之ヲ認ムルコトヲ得ス……併シ大抵ハ認メ度考ナリ
 澁谷曰 原告ハ強テ之ヲ証據トセントスルモノニアラス……殊ニ証
 據ノ認否ニ付キ徒ニ時日ヲ糜ストキハ從テ辨論モ手間取ルコトナ
 レハ只々御參考マデニ呈供スルコト、ナサン……即チ本日呈供ノ
 第十九号以下第二十三号マデノ書類ハ更ニ參考書トシテ奉呈スル
 モノナリ

判事曰 被告ガ本日呈供セシ証據ニ付原告ハ認ムルヤ

澁谷曰 認ム

判事曰 最早原被告其他ニ証據ノ差出スベキモノハアラザルヤ

澁谷曰 無シ

大塚曰 無シ

判事曰 原告代言人……少ク事實ニ付テ質問スベキコトアリ……本
 案ノ請求物件ハ甚タ夥多アルコトナルカ……從來如何ナルコトニ
 使用セルヤ……大休ニ就テ……

澁谷曰 專ラ貿易商人共ノ使用ニ供セシモノナリ……而シテ其重ナ
 ルモノハ町會所、瓦斯局、十全病院及其敷地ニシテ……其他ノ地所家
 屋ハ大抵ハ他ニ貸付ヲナシ之レカ貸賃ヲ取レリ

判事曰 從來町會所ハ何等ノ用ニ使ヒシヤ

澁谷曰 町會所ハ貿易商人ニ於ケル營業其他ノ相談ヲ爲ス集會場ナ
 リ

判事曰 然ラハ町會所ハ貿易商人以外ノモノハ使用セサリシヤ

澁谷曰 否チ貿易商人以外ノモノト雖モ使用セシコトアリ……然レ

トモ持主トナリシコトナシ貿易商人ニ於テ使用ヲ許シタルマデナ
リ

判事曰 然ラハ原告ハ……町會所ノ如キ其承諾上之ヲ使用セシメタ
ルコトアルモ……一般ニ……自由ニ……之ヲ使用セシメシコトナ
シト云フカ

澁谷曰 然リ

判事曰 瓦斯局ハ營業トナリ居ルヤ……点火料等ハ如何セシヤ……

澁谷曰 然リ一種ノ營業ナリ……尤モ点火料ハ歩合金ヲ以テ之ヲ補

助シ來レリ

判事曰 病院……學校……ハ唯リ貿易商人ノミ之ヲ使用スルヤ

澁谷曰 否ナ一般ニ使用セリ……併シ敷地ハ貿易商人ニ於テ買ヒシ
モノナリ

判事曰 瓦斯ハ一般ニ……何人ニテモ……点火シタシト云ヘハ……
之ヲ許諾スルヤ……又ハ貿易商丈カ……本町外十三ヶ町丈カ……

澁谷曰 其邊ハ分明セス原告本人ニ聞合スヘシ

判事曰 請求ノ物件中地所モ許多アルカ……右ハ明地トナリ居ルヤ
……又ハ貸付アリヤ

澁谷曰 明地トナリ居ルモノハ學校ノ跡ト……火除地ナリ……其他
ハ貸付アリ

判事曰 其他ハ一私人ニ貸付アリヤ

澁谷曰 然リ

判事曰 地代ハ何人カ之ヲ支配スルヤ

澁谷曰 共有物管理委員ヨリ之ヲ取立テ然ル後片長ニ渡スナリ

判事曰 本訴物件中ニハ一般公共ノ用ニ供シアルモノト一私人ニ貸

與シテ收益シ居ルモノトノ二類アルニヤ

澁谷曰 然リ、、、、兩様ナリ

判事曰 被告ノ意見ハ如何

大塚曰 被告戸長ハ本訴所有物件ハ悉ク之ヲ公共ノ用ニ供シ居レリ
、、、第一、、、町會所ハ其用途唯リ貿易商人ノミニアラスシテ本町
外十三ヶ町ノ公共ノ用ニ供セシモノナリ、、、又第二、、、境町二丁
目一番地ノ明地ハ元横濱區役所ノアリシ處ニシテ、、、太田町五丁
目八十四番地ノ土地ハポンプノ置場ニシテ警察署ニ貸與シアリ、
、、、湊町五丁目ハ荷改所ニシテ荷物ノ隠匿ヲ防クカ爲メニ設ケタ
ルモノナリ、、、宮崎町二十一番地ハ鐘撞堂ニシテ、、、戸部町一丁
目九番地ハポンプノ置場ナリ、、、而シテ是等ハ皆公共用中其最モ
著キモノナリ、、、又第三、、、北仲通六丁目ハ女學校ノ敷地ニシテ

、、、其第七十六番地ハ商業學校ノ敷地ナリ、、、瓦斯局ノ敷地モ又
同所ニアリ、、、夫レ如此本訴物件ハ悉ク公共的ノ性質ヲ帯ヒサル
モノナシ、、、而シテ師範學校及病院敷地ノ如キ皆ナ貿易商人ノ有
ナラス、、、畢竟病院ヲ建設スルコト能ハサリシモノナレハ住吉町
相生町ノ地所ノ如キハ全ク不用ニ属シ偶然ニ流レ込ミシモノナリ
、、、左レトモ其最初ノ目的ハ公共ノ用ニ供スルニアリシヤ明ナリ

判事曰 花咲町ハ如何

今村曰 花咲町ハ瓦斯局ノ在ル所ナリ、、、瓦斯ハ申スマデモナク市
街全般ニ点火シアリ、、、而シテ又何人ニテモ申出チ爲スニ於テハ
容易ニ引クコトヲ得ルモノナリ、、、而モ点火料ハ一般人民ヨリ徴
収セルモノニシテ決シテ歩合金ヨリ支出セシモノニアラス
大塚曰 街燈ノ点火料ハ乙第八號証ノ通り地價割及歩合金ヨリ出セ

シモノナリ、尤幾分カ貿易商人ノ補助ナキニアラスト雖其補助タル歩合金ノ名稱ヲ變シテ町費トナリタル後ニ於テ支出シタルモノナレハ矢張一般ノ民費ト異ルコトナシ、

今村曰 住吉町ハ舊修文館ノアリシ所ナリ、今ノ師範學校ヲ野毛ノ老松町ニ移セシヨリ該館カ移轉シタルナリ、又十全病院モ元ハ住吉町及相生町ノ間ニアリシナリ、而シテ全院モ今日ハ貿易商人ノ一少部分ニ使用セシメスシテ一般ノ人民ニ貸付アリ、而シテ其収入ハ戸長役場ノ諸費、瓦斯点火料、消防費、等ノ公共ノ用ニ支出セリ

判事曰 其他ノ分ハ別ニ金ヲ取ルモノナキヤ、又其最初本訴ノ物件ヲ購買シタル精神ハ全ク公共ノ用ニ供スル積ナリシヤ

澁谷曰 其最初之ヲ購買シタル精神ハ全ク貿易商人一般ノ使用ニ供

セノカ爲ナリ、即チ本訴共有物件ハ貿易商人ノ共有財産ニナサ
ノカ爲メニ購買シタルモノナリ

判事曰 學校ノ如キモノハ如何、又病院ノ如キモノハ如何、

澁谷曰 學校敷地ノ如キモノハ勿論公共ノ用ニ供セノカ爲メニ購買

シタルモノナリ、然レトモ是等ハ一二ニ止ルノミ、單ニ貿易

商人ノ使用ニ供スル目的ヲ以テ購買セシモノ甚々鮮ラス

判事曰 夫レハ何々ノ物件ナリヤ、

澁谷曰 今一々指点スルコトヲ得ス

判事曰 瓦斯点火料ノコトハ、

澁谷曰 瓦斯ノ点火料ハ外國人ヨリ引ケハ之ヲ徵收シ、又一私人

ヨリ引クモ之ヲ徵收ス、而シテ街燈丈ケハ歩合金ヨリ補助シ來
レリ

今村曰 境町一丁目……辨天通一丁目十五番地……住吉町……相生町……太田町五丁目……ノ場所ハ皆ナ舊幕時代ニ於テ自身番ノ如キモノ設立アリシ所ニシテ……王政維新ト共ニ是等ノモノ廢滅ニ歸シ自然……當時ノ町會所カ管理スルニ至リタルモノナレハ……元ヨリ一文半錢ヲ出シタルモノニアラス……又十全病院ノ如キハ素ト義捐金ヲ以テ成立シタルモノニシテ己ニ昨年モ神奈川縣會ニ於テ大議論アリシ所ナリ……夫レ如此是等ノモノハ元ヨリ購買シタルモノニアラサルナリ然ルテ原告ハ是等ノモノマデチモ歩合金ヨリ購買シタルモノトナスニヤ其邊明瞭ニ答辨アリヌシ

大谷木曰 只今被告ノ云フ所ノモノハ倒ヘハ町會所付屬地トナリ居ル分ノコトカ……甲第十八號証ノコトヲ云フノカ……

今村曰 然リ

大谷木曰 舊幕時代ニアリテハ横濱ハ貿易商人ノミ住居セシ地ニシテ貿易商人ニアラサレハ住居スルコトヲ許サ、リシナリ……然ルニ維新ノ後ニ至リ時運ノ趨勢トシテ貿易商人ニアラサルモノモ住居スルコトヲ得ルニ至リタルナリ……夫レ然リ町會所ノ貿易商人ニ於テ設立シ其相談集會ノ場所トセシコトハ甚タ明白ナリ……實ニ町會所ハ歩合金ヲ以テ買取リタル共有物ナリ……而シテ此主タル町會所ニ付從シテ生シタルモノハ所謂從ハ主ニ依リテ合セラレノ原則ニ從ヒ凡テ貿易商人ノ共有ニ歸スベシ

大塚曰 原告呈供ノ甲第十八號証ハ原告ノ見ル所ト被告ノ見ル所トハ甚タ牴牾スル所アルヲ以テ一應御取調ヲ願ヒタシ然ラサレハ混雜ヲ成スノ憂アリ……本証ハ二十年度ニ於ケル議案ヲ發スル際ニ之カ理由書トシテ説明ヲ與ヘタルモノナルガ……勿論此案ハ戶長

一己ノ私ヨリ出シタルニ止ルモノナレハ或ハ間違ノ廉モ少ラサル
ベシ……寧ロ本証ハ被告ノ証據物トナリハセサルカ……兎ニ角原
告ノ説明ヲ得テ然ル後ニ其戸長ノ過誤ニ出テタル理由ヲ申立テ
トス……故ニ此点ハ速ニ御取調ヲ願ヒタシ

判事曰 之ハ……併シ……原告ノ積ニテハ本訴共有物件ノ沿革起源
ヲ証明スルカ爲メニ差出シタルモノ、如シ

大谷木曰 然リ……元ヨリ本訴共有物件ノ性質起源ヲ証明スルカ爲
メニ差出シタルニ過キス

判事曰 甲第十八號ノ事實ヲ証據立ルモノハナキヤ
澁谷曰 其幾分ヲ証據立ルモノハ或ハ之アラノ……

關島曰 先刻澁谷代言人ノ申立ニ依レハ……本訴共有物件ニ付テハ
共有物監理人ナルモノアリテ……貸地料ヲ取立テ居ルトノコトナ

ルカ……然ラハ該監理人ナルモノハ何人ヨリ委囑サレシモノナリ
ヤ……又如何ナル方法ニ依リテ處理シ來レルヤ

澁谷曰 小區會ニ引渡シタル以後戸長カ處分スル迄……仮ニ町會議
員ガ定メタリ

關島曰 然ラハ……町會ノ決議上ノコトナルカ

大谷木曰 然リ……甲第十八號証ニ明ナリ即チ右監理人ナルモノハ
追テ共有物ノ處分ヲ取究ル迄戸長ノ下働キ且監督ヲナサシメンカ
爲メニ町會ニ於テ決議ノ上取極メタルモノナリ……然レトモ是廿
年ノ決議迄ノコトナリ

關島曰 然ラハ瓦斯局ニ付テハ……

大谷木曰 矢張取締人ナルモノヲ置ケリ……併シ之ハ唯其名ヲ異ニ
スルマデニ止リ……其下働且監督ヲナスノ點ニ至リテハ敢テ監理

人ト異ル所アルヲ見ス

關島曰 原告ハ已ニ、、、貿易商共有財産ナリト云ヘリ、、、然ルニ之ヲ町會ニ於決議セシメ右等監理人、、、取締人ノ如キモノヲ置キタルハ訝シ如何、、、

大谷木曰 是唯假リノ處分タルノミ、、、尙被告ハ之ヲ認ムルヤ

大塚曰 認メス

大塚曰 町會決議後、、、何人ヲ管理人ニセシヤ

大谷木曰 夫レハ只今不分明ナリ、、、

大塚曰 其職制章程ハ如何

澁谷曰 瓦斯局ノ方ニハ職制章程様ノモノアレトモ共有物ノ方ニハ之アルナシ、、、而シテ之ハ町會議員カ定メタルニアラスシテ歩合總代人會議中ヨリ之ヲ撰ミ監督且下働ヲナサシメタルモノナリ、

、勿論之ハ一時仮ノ處分タルニ過キス而シテ右總代人會議ナルモノ止ムニ及ヒテ、、、町會之ヲ定メタリ

大塚曰 原告兩代言人ノ言ハ莫大ノ相違アリ、、、即チ大谷木代言人ハ町會ノ決議ニテ管理人ヲ定メタリト云ヒ、、、澁谷代言人ハ總代人會議ニテ定メタリト云ヘリ、、、甚タ矛盾セリ、、、如何

大谷木曰 町會ニテ定メタルモノナリ年度ハ十一年ナルヤ十二年ナルヤ分明セス

大塚曰 然ラハ其取扱フ事柄ハ如何

大谷木曰 戸長ノ下コ立テ働クモノナリト考フルカ故ニ其取扱ノ事柄ハ被告戸長ニ於テハ反テ知り得ヘケレ、、、尤モ瓦斯局ノ方ニハ職制章程モアルコトナレトモ、、、權限ノコトハ分明ナラス、、、兎ニ角戸長ノ下働ナリ

判事曰 被告ハ之ニ全意スルヤ

大塚曰 證據物ヲ以テ御答ヲナサン、、、瓦斯局ノ分ハ町會ニテ之ヲ定メ、、、且職制章程モアリ、、、共有物ノ方ハ來栖壯兵衛之ヲ管理シ、、、元ヨリ町會ニ定メタルモノナリ、、、之ハ公有物取扱ノ證據ノ一ナレハ後刻奉呈スベシ

今村曰 要スルニ、、、兩者共貿易商ノ人ニアラス、、、町會ノ決議ニヨリテ出セシモノナリ

判事曰 特別ノ權限アルモノナリヤ

大谷木曰 無シ、、、

判事曰 別ニ申立ルコトナキヤ

大塚曰 買入、、、下付、、、從來存在、、、等ノコトヲ尋問セラレシコトヲ望ム、、、本件物件ニ關シ、、、

判事曰 然ラハ反證アルカ

大塚曰 然リ

判事曰 然ラハ別ニ之ヲ質問スルノ必要ナキニアラスヤ

大谷木曰 原告ハ是マテ提供セシ證據物等ニヨリテ自ラ明瞭ナリト信ス、、、殊ニ原告提供ノ證據物ニ付テハ己ニ不眞正ノモノニアラストノコトハ定リ居レリ、、、故ニ被告ニ於テ相違ノ廉アリト思料セハ、、、其点ヲ指摘スベシ、、、但シ證據ノ効力ハ辨論中ニ含マル、モノナリ

判事曰 然ラハ被告ハ相違ノ點ノミヲ述フレハ可ナリ

大谷木曰 命ノ通り、、、

判事曰 然ラハ被告ハ甲第十八号證ニ對シ其相違ノ點ヲ陳述スベシ
大塚曰 相違ノ點ハ第一瓦斯ノ起源ナリ、、、同證第六七行目ニ之レ

ヨリ先キ瓦斯局事業ノ創始ニ方リ未會有ノ事業ニシテ發起人等ノ私財全ク之ヲ成就スル能ハサルニ依リ町會所歩合積立金ヲ以テ前後數回ニ九万百五十圓起業資本トシテ貸與シタリシカ云々トアリ……然レ此貸與ト云ヘルコトハ大藏省ヨリ借り來リタルコト云フモノナリ……而シテ大藏省ニハ町會所ノ積立金ヲ以テ返辨スルコトナシタルナリ……要スルニ大藏省ノ金ヲ借リテ廉價ニ買ヒ取リタル者ナリ……然ルニ今如此記載シタルハ大ナル相違ナリ……又町會所ノ起源モ相違セリ……町會所ハ横濱開港ノ當初賣込引取商即チ貿易商人カ其營業上ニ係ル公共ノ事件ヲ評議スルカ爲メ設立セシモノニシテ云々トアレトモ……其營業ニ係ルノ文字ハ甚シキ相違ナリ……該會所ハ全ク横濱全市ニ係ル公共事件ヲ評議經紀スルカ爲メニ設ケタルモノニシテ貿易商人ノミノ支配スヘキモノニ

非ス……

判事曰 町會所ノコトカ訴訟トナリ居リシコトアリヤ

大塚曰 既ニ裁判テ經テ確定シタル事實ヲ證スルノ具トナラン……有名ナル瓦斯事件ノ訴訟ハ共有物引渡ノ訴訟ニシテ十四ヶ町ニ於ケル人民代表者ノ起セシモノニシテ……決シテ貿易商ノ資格ニテ爲シタルモノニアラス……而シテ其結果ハ遂ニ十四ヶ町ノ所有物ト定リタルモノナリ……又十全病院敷地ノコトヲ述ヘンニ……明治四年横濱ニ一ノ私學校ヲ建テシコトヲ計畫シタルカ貿易商人ノ賛成シテ義捐シタル金高ハ實ニ六千圓ニ上レリ……此義捐金ト他ニ又十四ヶ町ノ公金ヲ使用シテ右ノ敷地ヲ買ヒタルモノナリ……義捐金ナレハトテ義捐者ノ意思ニ從ヒ處分セサルベカラサル理由ナシ故ニ學校建築ノ爲メニ要シタル義捐金ナリトテ之ヲ病院ノ爲メ

ニ使用セラレタル理由ナシ、然ルニ今義捐金ニヨリテ成立タル
 物件ナリトテ之カ請求ヲナスハ甚タ謂レナシト云ハサルベカラス
 ……其他積末ノ点ハ別ニ申立テス、……之ヲ要スルニ甲第十八號証
 ノ第一條ニ掲クル所ノ第七項ノ財産ハ悉ク公共ノ用ニ供スル目的
 ナリテ成立チタルモノナリ、……十四ヶ町ノ財産トシテ無代價ニテ
 下渡サレタルモノモアリ、……又現ニ今日他へ貸付アル地所ノ如キ
 モ其収益ハ悉ク町費ヲ補助シ居レリ、……實ニ本訴財産中ニハ貿易
 商人ノ私有財産トシテ買入レタルモノハ一物モアラサルナリ、…
 判事曰 原告代理人ハ辨論ヲ爲スベシ

大谷木曰 先ツ第一ニ……本訴請求ノ物件ハ本町外十三ヶ町ニ住居
 スル貿易商人ノ共有財産ニシテ本町外十三ヶ町ニ於ル一團體ノ共
 有財産ニアラス故ニ其財産ヲ占有スル戸長ハ所有者タル貿易商人

ノ請求アル以上ハ之ヲ拒ムノ權利アラサル所以ヲ辨論セ、…
 判事曰 辨論中ナルガ……少ク注意スルコトアリ、……既ニ辨論ニ入
 リタル上ハ證據ノ呈出ヲ許サ、ル積ナレハ…
 原被代言人一同敬承ノ旨ヲ答フ

大谷木曰 ……即チ此点ハ明治二十年ニ於ケル決議ノ効力如何ニ拘
 ラス主張スル所ナリ、……偕テ今本訴請求ノ物件カ本町外十三ヶ町
 ニ於ケル一團體ノ共有財産ニアラスシテ單リ本町外十三ヶ町ニ居
 住スル貿易商人ノ共有財産ナル所以ヲ主張スルニハ先以歩合金ノ
 性質ヲ論究セサルベカラス、……歩合金ノコトニ付テハ……原告人
 等ハ貿易商人等カ相議シテ積立タル共有金ナリト云ヒ……被告人
 等ハ之ヲ以テ税金ナリト主張セリ、……之ヨリ原告ハ右歩合金ヲ以
 テ貿易商人等カ相議シテ積立タル共有金ナルコトヲ論證スル五ヶ

ノ理由ヲ詳述セシ

(一)元來税金ナルモノハ時ノ政府ヨリ法律ヲ以テ賦課スルモノニシテ行政上ノ公費ニ充ツルモノナルコト論ヲ待タズ、然ルニ徳川政府ノ頃ニ於テモ、又明治政府トナリシ後ニ於テモ賣込金高又ハ引取金高ノ幾分ヲ税金トシテ政府ヘ取上ル旨ノ法律布告等ノ出テタルコトナシ、果シテ然ラハ歩合金ナルモノハ原告貿易商人等カ相議シテ積立テタル私ノ共有金ナルコト明白ナリトス

(二)歩合金ノ現状ハ如何、明治十一年大區會ヲ開キタル後歩合金ハ全ク縣廳及ヒ區役所ノ手ヲ離レ歩合總代人ヲ設ケ又歩合徵集所ヲ設ケテ今日迄貿易商人カ積立テ來リシ者ニシテ、管理ノ實權ハ貿易商人ニ在リ、而シテ又歩合積立金ノ如キハ實ニ原告貿易商人ノ手ニ存在セリ、此事實ヨリシテ推究スルトキハ維新前後

法律ノ整ハサルトキニアリテハ時々縣令等ノ歩合金ヲ濫用シテ弊害ヲ醸シタルコトアリシモ、本來貿易商人ノ積立テシ共有金ナルヲ以テ、十一年以來之ヲ改正シ明白ニ貿易商人ノ積立共有金トナシ其干涉ヲ廢シタルハ明彰ナリ、歩合金ノ税金ナラサルコトハ此事實ヨリ推スモ明白、疑ヲ容ルベカラス而テ以上ノ二理由ハ推理上ヨリ論究シタルモノナルガ之ヲ直接的ニ論究スルモ尙ホ三個ノ理由アリ

(三)被告ノ自カラ作りシ甲第十八號證ニ歩合金ハ貿易商人カ相議シテ積立云々、神奈川奉行ノ公許ヲ乞ヒ云々、トアリ然ラハ被告ハ歩合金ハ貿易商人ノ相議シテ積立テシコトヲ明白ニ認メタルモノニアラスシテ何ソヤ、即チ甲第十八號證ハ被告ガ本訴提起前、即チ今ヲ去ル十年ノ昔ニ於テ真正ニ事實ヲ取調ヘタル際ニ

ハ貿易商ノモノナルコトヲ明ニ認メタルノ確證ナリ

(四)本日參考證トシテ呈供セシ古文書、即チ乍恐云々ノ書面ニ徵スルモ明カナル如ク、幕府ノ當時歩合金ヲ行政上ノ用ニ供セシコアルモ、何レモ積立人タル貿易商人ノ承諾ヲ經テ政府ノ取シモノナルコト明白ニシテ、ツマリ政府ハ貿易商人共有金ノ内ヨリ賞ヒタルモノニシテ歩合金ノ税金ナラサルコトハ之レニ由ルモ明白ナリトス

(五)甲第十一號以下第十五號證迄ハ被告戸長ヨリ差出セシ書類ナルカ十一號ニ該協議費ハ歩合積立金ヲ以テ支拂フ様致シ度云々、ノ文字アリ又十二號ノ末文ニ其十分ノ八ハ歩合積立金ニテ補助スル様致度云々、文字アリ其他十三號十四號十五號ニモ何レモ同様ノ文字アリ故ニ歩合金ハ貿易商人間ノ共有金ニシテ從來歩合金

ヨリ補助スル丈ケノ趣意ニテ戸長ノ受取り來リシモノナリ若シ之ヲシテ税金ナラシメバ右等ノ如キ文字ヲ挿入スヘキ謂レナシ以上五個ノ理由ニヨリテ歩合金ノ税金ナラサルコト明白トナリシ上ハ次ニ本訴ノ財産ハ此歩合金ナル共有金ニ起因シテ成立シタルモノナルコトヲ論證セザルベカラズ、即チ第一本訴ノ財産ハ歩合金ヲ以テ買入レ又ハ作りタルモノニシテ、第二其他ノ共有物ハ第一ノ物ニ附隨シテ貿易商ノ所有ニナリシモノナルコトヲ論證セザルベカラズ抑モ本訴共有物件ハ此歩合金ナル共有金ニ起因シテ成立シタルモノニシテ一ハ則チ(第一)歩合金ヲ以テ買入又ハ造リタルモノニ係リ一ハ則チ(第二)右等ノ者ニ附隨シテ貿易商ノ處有ニナリシ者ナリ而シテ其第一ノ證ハ甲第十八號證ナリ、其中ニ町會所ハ貿易商人營業上ノ公務ヲ辨スル爲メニ云々ノ句アリ、又其

他ノ財産ハ町會所ノ附屬地トナリシト云ヒ又附屬地トシテ買入レ
 シト云ヒ、瓦斯局モ歩合金ヲ以テ買入レシト云ヒ、師範學校
 十全病院ハ公共ノ用ニハ供セシモノ、其敷地ニ付テ出金セシ者ハ
 貿易商人ノミナリシユヘ其敷地及ヒ之ト全性質ノ建物ハ當然貿易
 商人ノ處有物ナリトス、學校ノ如キ病院ノ如キ廣ク公共ノ用ニ
 供シ直接ニハ貿易商人ノ利益トナラサルモ、公共ノ用ニ供シタ
 レハトテ、貿易商、私人ノモノニアラストハ斷言シ難シ、
 故ニ被告ノ自カテ作りシ甲十八號ノ議案ニヨルモ、共有物ハ歩
 合金ニテ買入レシカ、又ハ造リシカ、又ハ之ニ附隨シテ貿易
 商人ノ共有物ニナリシカ、三者ノ中其一ヲ出テサルコト明ナリ
 次ニ本訴ノ財産ハ貿易商人ノ共有物ナルコトヲ主張スル爲ニ本町
 外十三ヶ町ニ於ケル團體ノ所有物ナラサル所以ヲ論ゼン

被告ノ議論ニヨレハ本訴ノ財産ハ元ト歩合金ノ中ヨリ成立セシニ
 モセヨ、協議費、民費、等ノ名ヲ以テ出シ、已ニ一旦稅
 ノ名目ヲ得タルモノニテ買入レタル共有物ナレハ十四ヶ町團體ノ
 所有物ナリト云フニアリ然レトモ税金ニ變シテ買入レシトノ証左
 ハ一モアルコトナクシテ反テ歩合金ニテ買入レタルノ証據ハ着々
 之ヲ見ルコトヲ得ベシ而シテ仮リニ被告ノ云フ如ク稅トナリシ者
 ニテ買入レシモノナランニハ決シテ十四ヶ町團體ノ所有物ナリト
 ハ云フコトヲ得サルベシ、元來十四ヶ町ハ一大區中ノ一小區タ
 ルニ過ギザルモノナレハモシ被告ノ言ノ如ク稅トナリシモノニテ
 買入レシ共有物ナリトセハ縣有財産ナリトカ大區ノモノナリトカ
 ノ議論ハ或ハ立チ得ヘキモ五小區中ノ一部ニ過ギザル十四ヶ町ノ
 共有物ナリトノコトハ如何ニスルモ言フベカラズ、又被告ハ之

ニ付キ乙第六號証、即チ十一年大區會ノ決議書ヲ出シ前項ニ掲クル地所及建物ハ買入レ金員ノ出所并ニ其性質ニ就テ見レハ一小区ノ共有物ナルコト明ナルヲ以テ其保存維持ノ方法ハ小区會本町外十三ヶ町ヲ云フニ附シ議定スベシトアルヲ楯トシ之ニヨリテ小区ノ共有物ナルコトヲ主張スト雖モ、之ハ却テ原告ノ利益ニナルベキ証據ナリ、若シ本訴共有物件ヲシテ横濱公共ノ用ノ爲メニ歩合金ノ税ト變セシモノヨリ買入レタルモノトセハ是レ大區ノ物ナリ、小区ノ物ニアラス、然ラハ大區會ハ到底如此ノ議決ハ爲シ得ラレザル譯ナラズヤ、然ルチ大區會ハ之レヲ以テ大區ノ處有物ニアラズトノ議決ヲナセリ即チ其文中ニ買入レ金員ノ出處性質云々トアルハ、之レ取モ直サス大區會ハ税金ニテ買入レシモノト認メザリシヲ証スルニ足ルノ証據ナリ、要之本訴物件

ハ十四ヶ町ニ住居スル貿易商人ノ積立金ヨリ成立セシモノ、及ヒ之ニ附隨シテ成立シタルモノ、是レ其文中ニ性質ト云ヘル文字アル所以ナリ是レ其大區ノ所有物ニアラズトノ議決ヲナセシ所以ナリ然ルチ今右ノ文中ニ「一小区ノ共有物ナルヲ以テ」ノ文句アルヲ奇貨トシテ直ニ之ヲ以テ一小区ノモノナリト云フハ是レ所謂ル文句ノ足ヲトルト同一ノ解釋ニシテ取ルニ足ラズ、蓋シ當時ニハ尙一小区ノ外ニ四小区アリ故ニ大區會ハ大區ノモノデナク又他ノ四小区ノモノデナキヲ明ニスル爲メ一小区ノ共有物ナルヲ以テト書キシ譯ニシテ、只タ五小区中ノ區別ヲ立テタルニ過ギザルナリ而シテ大區會ハ小区中ノ何人が所有スベキヤ迄ニ立チ入りテ議スルノ權ナク只タ自分即大區ノ者デナキヤ否ヤヲ決シ得ルニ止ルモノナレハ、一小区ノ共有物ト書キタルハ大區及四小区ノ物

ナラサルヲ証シタルモノナリ、而シテ買入レ金員ノ出所云々ノ
文字ヲ置キシヨリ見ルモ其金員ハ貿易商ノ外ハ出シ居ラサルコト
甚タ明ナラスヤ然ラハ貿易商ノ共有金ヨリ成立セシ共有物ナルコ
トハ争フベカラザルニアラスヤ是レ本訴共有物ハ原告ノ所有物ナ
リト主張スル所以ニシテ被告ノ占有ニ對シ其引渡ヲ請求スル次第
ノ大略ナリトス

以上論述スルカ如キ次第ニシテ、本訴ノ財産ハ貿易商ノ共有物
タルコト論ヲ待タズ、故ニ之カ占有者タル被告ハ、其請求ア
ル以上ハ強テ引渡ヲ拒ムノ權利ナシトス次ニハ二十年度町會決議
ノ効力ニ付テ論述スル所アルベシ

判事曰 最早正午ニモ近キタレハ午後ノ開廷ヲ待テ論辨セラルベシ
午前十一時三十分休廷

午後零時三十分開廷

判事曰 原告代理人、引續キ辨論ヲナスベシ

大谷木曰 敬承、既ニ第一ノ論點即共有物ハ元來貿易商ノ所有物タ
ルヘキ理由ハ午前ニ於テ陳述シ終リタルヲ以テ之ヨリ第二ノ論點
即チ二十年度ニ於ケル町會決議ノ効力ニ付キ辨論スベシ、廿年
度町會ニ於テハ本訴物件ヲ以テ本町外十三ヶ町貿易商人ノ共有物
トナシ貿易商人ノ總代人ヘ引渡スベシト議決シタリ、然ルニ被
告ハ之ニ對シ乙第一二號ノ議案及ヒ知事ノ認可書ヲ以テ其引渡ヲ
ムト雖モ、果シテ乙第一二號ノ議案ノ爲メニ二十年度町會ノ議
決ヲ無効ニ歸シ得ヘキヤ否ヤ、今其然ラサル所以ヲ二別シテ
論セントス

第一ニ乙第一號ノ議案ハ原案施行ヲナシ得ヘキ効力ナキモノナレ

ハ其之カ爲メニ甲第一號証タル廿年度町會ノ議決ハ効力ヲ失セサル所以ヲ論述セシニ其理由ニアリ

(一)乙一號ノ議案ヲ附與シテ戸長カ臨時會ヲ開キシハ實ニ廿二年三月三十一日ノミナリシ、尤モ其以前二回之ヲ開カントセシモ遂ニ開會シ得ス、即チ三度目ヲ三月三十一日ニ開キシ事實ハ被告ニ於テ先キニ原告ノ問ニ答ヘシ所以ナリ、然ルニ被告ハ其翌四月一日ニ於テ原案施行ノ上申書ヲ縣知事ニ差出シ知事ハ之ヲ認可セリ、然レトモ之ハ双方共ニ違法ノ取扱タルヲ免レス、曾テ立証シタル如ク被告ノ呈出セシ書面ナル甲第二號ニアル如ク臨時町會ハ神奈川縣ノ規則ニテハ三日間ノ開會期限ナルカ故ニ三月三十一日ニ開會セシトセハ四月二日迄ハ繼續シテ開會セザルベカラズ、然ルヲ被告戸長ハ三日間ヲ待タス只タ一日間開會セシ而已

ニテ議員ノ出席過半數ニ充タストノ点ヲ以テ原案施行ノ上申書ヲ出シタルハ違法ノ處分ニアラスシテ何ソヤ而シテ又縣知事ノ之ヲ認可セシモ亦タ均ク違法ノ處置タルヲ免レス、然ラハ戸長ハ何故ニ三月三十一日丈クニテ、跡ハ繼續シテ開會セザリシヤトイフニ甲第六號證ニテ證明スル如ク被告戸長ノ考ニテハ四月一日ヨリハ市町村制ノ實行ニ付キ町會ハ最早開會スルコトヲ得サルモノト誤認シタルニ依ルモノナリ即チ本月本日ヨリ新制實施ニ付キ最早此會議ヲ開クヲ得サル場合ニ立チ至リ不得止次第ニ付キ原案施行ノ義御認可相成度云々トアルニヨリテ明ナリ、而シテ縣知事ガ之ニ認可ヲ與ヘタルハ大ナル違法ナリ、四月一日以後ハ市町村制度ノ實施アリトスルモ其制度ニヨリテ組織スル所ノ議會其他ノ者ガ組織セラレテ成立スル迄ハ従前ノ議會又ハ役人等ニ於テ事務

チ取扱フベキハ論ヲ待タサル所ナリ、而シテ被告戸長ハ前述ノ如ク此場合ニ於テハ新制施行ニ付キ町會ヲ開會スルコト能ハスト認メナカラ、唯リ通常會ハ立派ニ四月一日以後モ開會シタルハ何ソヤ、即チ甲第七八九號證ヲ以テ證明スル如ク三月三十一日ヨリ通常會ヲ開キ七日間ノ開會制規通り四月六日迄開會シタルハ何ソヤ、等ク全一ノ町會ニシテ臨時會ハ開會シ難シトシ、通常會ハ開會シ得ルモノ、スルハ其理由那邊ニアルヤ、蓋シ七日間通常會ヲ開會セシ事實ヨリ推究スレハ其臨時會ヲ四月一日以後ニ開會スルコト能ハストシテ原案施行ノ上申ヲナセシハ被告自カラ其違法ナルヲ知リテ爲セシ者ト云ハザルベカラス、蓋シ四月一日以後ハ議會ヲ開會スルコト能ハサルモノトセハ戸長モ亦事務ヲ取扱フコト能ハサル次第ナラスヤ、從テ又原案施行ノ上

申ヲ爲スカ如キ事務的ノ取扱ハナシ得ラレサル譯ナラスヤ、故ニ乙第一號議案ヲ乙二號ノ如ク施行セシハ違法ノ處分ナルコト勿論ナルヲ以テ法律上無効タルコト多言ヲ要セス、
 (二) 仮リニ三月卅一日丈ケニテ會期終リシ者トスルモ、又タ戸長カ原案施行ノ上申ヲナシ知事又之ヲ認可シ得ル者トスルモ、乙第一號議案中ニアル右ハ從前ノ通り本町外十三ヶ町共有ニ据置クモノトシ云々ノ部分ハ原案ヲ施行シ得ベキ者ニアラサレハ之カ爲メ甲第一號ノ決議ハ無効トナルヘキ道理ナシ、其故何ソヤ、十七年ノ第十四號布告ノ區町村會法第十七條ニ前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタル時ハ更ニ開會ヲ命シ其再ヒ開會スル迄ハ戸長ハ經費ノ支出及徵集方法ヲ定メ知事ノ認可ヲ經テ施行スルコトヲ得云々トアリ又其第十八條ニハ區町村ニ於テ議員ヲ撰舉セ

又ハ招集ニ應セズ又ハ議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期終ル
 モ議案ヲ議定シ終ラサル時ハ前條ノ例ニヨルトアリ、故ニ被告
 戸長ノ上申シテ知事ノ之ヲ認可セシハ全ク右ノ第十七十八ノ兩條
 ニ據リシ者ナリ、然ラハ何ノ点ニ付キ原案施行ト云フカト云フ
 ニ經費ノ支出徵集方法ニ付キ施行スル者ニシテ、即チ是等ハ等
 閑ニ付シ置クコト能ハサル者ナルニヨルナリ、即チ之ヲ議決シ
 終ラサル時ハ事務澁滞ノ恐レアルカ爲メ此非常ノ場合ニ對シ一
 ノ便宜法ヲ設ケシニ過キササルナリ、故ニ乙第一號ノ議案ニシテ
 經費徵集方法ノミニ關セハ或ハ原案施行ノ議論モ立タシカナレ共
 、所有權ノ事ニ關シ貿易商人ノ共有物ニスルヤ、又ハ十四ケ
 町團體ノ共有物ニスルヤ、ノコトヲ定ムルハ決議ノ上ナラハ兎
 モ角モ、只タ漫然ト施行シ得ヘキ者ニハアラス、是レ區町村

會法ニ明定スル所ニシテ經費ノ事ハ仮リニ原案ヲ施行シ得ルトス
 ルモ所有權ノ事ハ之ヲ施行シ得ヘカラス故ニ廿年度ノ議決ハ乙一
 號ノ爲メニ決シテ其効力ヲ失フモノニアラサルナリ
 以上(一)(二)ノ理由ニヨリ乙第一號ノ議案ハ乙第二號ノ如ク原案ヲ施
 行シ能ハザル所以ヲ明ニシ從テ之カ爲メニ甲第一號ノ決議ハ其効
 力ヲ失ハサル次第ヲ明ニス
 第二ニハ乙第一號ノ議案及ヒ乙第二號ノ原案施行ハ縣知事及ヒ戸
 長カ法ニ背キテ爲シタル違法ノ取計ヒニ原因スル者ナルニ付キ甲
 第一號ノ議決ニ對抗スル効力ナキ所以ヲ論述セン之レヲ論述スル
 ニハ五ケノ理由ニ依ラントス
 (一) 區町村會法第四條乃至第六條ニ依ルニ町村會ノ議決ハ知事ノ
 認可ヲ要セスシテ戸長直チニ施行スヘキ責任アリ、只タ神奈川

縣ニハ特別ノ規則アリテ戸長ハ之ヲ知事ニ報告スルノ責務アルノ
 事、即チ全縣達町村會規則第四條ニ「町村會若クハ聯合町村會ノ評
 決ハ戸長ヨリ郡區長ヲ經由シ縣令ヘ報告シ其關係區長村ニ公告ス
 ル者トス」トアルハ是ノ謂ナリ、見ルベシ區町村會法ニヨレハ報
 告認可何レヲモ要セサルヲ又神奈川縣ノ同規則ニヨルモ只々報告
 スルヲ要スルノミニシテ認可ヲ乞フニ及ハサルコトヲ、然ルヲ
 戸長ハ二十年度ニ於テ町會ノ決議ヲナスヤ直ニ知事ニ向テ認可ヲ
 求メタリ、而シテ知事ハ之ニ乘シテ實施ヲ見合スヘキ達ヲナセ
 リ、即チ此認可願ニ對スル知事ノ達モ共ニ違法ノ取計タルヲ免
 レス

(二) 區町村會法ニハ實施期限ハ規定シアテサルモ神奈川縣區町村
 會規則ニ「報告ノ日ヨリ通常會ハ十五日間臨時會ハ十日間ヲ經サ

レハ實施スベカラストアリ、故ニ仮リニ知事ニシテ干涉シ得ル
 モノトスルモ通常會ノ議決ハ十五日以内ニ干涉スヘキニテ其後ハ
 戸長直チニ施行ノ責任生ズルハ論ヲ待タザルナリ、而シテ戸長
 ガ認可願ヲ出シタルハ廿年三月三十日ニシテ知事ノ實施見合セテ
 達シタルハ四月十五日ナレハ實ニ十七日日ニテ干涉ヲナシタルナ
 リ、故ニ四月十三日以後ハ戸長直チニ施行スベキヲ、其責ヲ
 怠リ、知事遂ニ此達ヲナスニ至リタルナリ、是レ被告及ヒ知
 事ノ違法處分ニアラスシテ何ツヤ

(三) 本訴物件ガ十四ヶ町共有物ナルニセヨ貿易商人ノ共有物ナル
 ニセヨ、殊ニ貿易商共有財産ナルニ於テハ、此財産ノ處分上
 ニ付テハ行政官タル知事ノ干涉シ得ヘキ者ニアラス、抑二十年
 度ノ町會ノ決議ハ元來貿易商人ノ處有タルベキ共有物が沿革上十

四ヶ町ノ戸長ノ手ニ存在セルヲ以テ民法上所有權ノ歸スル所ヲ定メタル者ナリ、即チ所有權ノ所在ヲ關係人ガ決議シタルマデニ止リ、行政上ノ事柄ニハ少シモ關係スル所アラサルナリ、果シテ民法上ノ權利ヲ定メシ者トセハ之ニ知事ノ干涉シ得ヘカラサルヤ論ヲ待タス然ルチ其決議ヲ不認可トシ乙第一號ノ議案ヲ施行セシメシハ是レ行政官トシテ人民ノ財産上ノ處分ニ干涉スル權ナキニ干涉シタル者ニシテ其違法ノ處分タルコト明ナリ

判事曰 十四ヶ町ニセヨ貿易商人ニセヨ何レノ場合ニテモ行政官タル知事ハ本訴ノ如キ物件處分上ニハ干涉スルコトヲ得スト云フ意ナルヤ

大谷木曰 然リ、殊ニ貿易商ニ付テハ(四)町村會ノ評決ハ三ヶノ場合ノ外ハ知事ノ干涉シ能ハサル者ナリ區町村會法第四條第五條第

六條ノ外ハ干涉ノ權ナキモノナリ、第四條ハ戸長ガ區町村會ノ決議ヲ不適當ト認メ其指揮ヲ仰キシトキ又第五條ハ違法又ハ治安ヲ害スルモノト認メシトキ又第六條ハ知事自カラ背法ト認メシトキヲ規定セリ、而シテ戸長ハ原案者ナレハ素ヨリ之ヲ以テ不適當トスヘキ譯ナシ、其證ハ報告ニ止ルベキモノヲ認可迄乞ヒタルニテモ明ナリ、又治安ニ妨害アリヤ違法ナリヤト云フニ知事モ然リト云ハズ、戸長モ又然リト云ハズ、故ニ二十年度ノ決議ハ第四條第五條第六條ノ場合ニアラスシテ知事ニ干涉ノ權ナキ場合ナリトス然ルニ知事カ漫リニ之ニ干涉シタルハ甚ダ不當ナリ

(五) 知事が廿年度ニ於ケル議決ノ實施ヲ見合スベシト達セシ際ニ該議案ニ相當ノ修正ヲ加ヘ再議セシムベシト命シタルニ被告戸長

ハ廿二年ニ於テ右ト正反對ナル乙第一號ノ議案ヲ出セリ、即チ修正ニアラサル正反對ナル議案ヲ提供セリ、故ニ仮リニ知事ノ干涉ハ違法ナラストスルモ戸長ノ議案ノ出シ方ハ知事ノ内命ニ背キタルモノト云ハサルベカラス

以上(一)(二)(三)(四)(五)ノ理由ニヨリ乙第一二號ノ議案及ヒ認可ノ書面ハ甲第一號ニ對抗スル効力ナキコト明ナリ故ニ原告ハ一ハ共有物ハ元來貿易商ノ所有物ナリトノ論点ヨリ一ハ廿年度町會ノ議決ハ有効ナリトノ二点ヨリ被告ニ向テ其引渡ヲ請求スルモノナリ
 澁谷曰 原告辨論ノ大概ハ相代言人タル大谷木ニ於テ盡シタリト信スルヲ以テ當代言人ハ管理權ノ点ニ關シ少ク陳述スル所アルベシ被告代言人ノ答辨ニレハ本訴財産ハ法律上戸長ニ於テ正當ニ管理スルノ權別アルモノ、如ク唱道スレモ決シテ然ラズ、原告代言

人ハ飽マテモ戸長ニ管理權ナキコトヲ主張スルモノナリ、今被告即チ行政官タル戸長ニ於テ果シテ之カ管理權ヲ有セルヤ否ヤヲ決センニハ先ツ本訴ノ共有物ハ民法ニテ支配セラルヘキ者ナルヤ將々明治九年太政官第三百三十號布告明治十二年同第二十二號布告并ニ區町村會法等ノ支配ヲ受クヘキ者ナルヤ否ヤヲ審ニセサルベカラス如何トナレハ本訴ノ物件ニシテ右太政官ノ布告并ニ區町村會法等ニ依リ支配セラルヘキ性質ノモノトセハ行政官吏ニ於テ管理スルヲ得ルモ若シ然ラスシテ民法上ノ支配ニ屬スヘキ性質ノモノトセハ行政官ニ於テ之ヲ管理スルノ權ナケレハナリ、抑モ本訴ノ物件タル之カ起原性質沿革等ニ就テ視ルモ本町外十三ヶ町貿易商人等ノ共有財産ニシテ本町外十三ヶ町團體ノ共有財産ニ非ラサルハ是迄數回ニ陳述シタル事實并ニ之ヲ證明スル甲第一號

及ヒ甲第十一號乃至十五號甲第十八號并ニ參考第十九號乃至二十
 三號證等ニ徴シテ明白ナルナル所ナリ、殊ニ甲第十八號證ノ如
 キハ被告戸長ノ手ニ成リタルモノニシテ本訴ノ財産カ貿易商人ノ
 共有ニ屬スルコトハ被告自ラ認メ居ルモノナリ、然ルニ被告代言
 人ハ今日ニ至リ甲第十八號證ハ被告ノ誤テ調製シタルモノナルヲ
 以テ、當時其非ヲ悟リ之ヲ取消ス積リニテ縣知事ニ上伸セリ
 云々ト主張スルモ被告ハ今日ニ至ル迄未ダ曾テ甲第十八號證ノ説
 明書ヲ取消シタルコトモナク又修正ヲ加ヘタルノ事蹟モアラサレ
 ハ元ヨリ口頭無証ノ陳述ニシテ取ルニ足ラス又被告ハ明治廿年三
 月其非ヲ悟リタリト云ヘトモ被告ハ現ニ明治廿一年三月二十八日
 ノ本町外十三ヶ町聯合町會ニ於テ自ラ議長トナリ左ノ議決ヲ爲シ
 居ルニアラスヤ、廿年三月既ニ其非ヲ悟リタル者カ廿一年三月

ニ至リ斯ノ如キ議決ヲ爲スノ道理アラシヤ

明治二十一年三月廿八日本外町外十三ヶ町聯合通常町會議事筆

記 援 萃

五番(島田)曰ク二十年度通常町會ニ於テ共有物件名稱區分ノイテ
 議決シ縣知事ヘ認可ノ儀上申セラレタルニ其實施ヲ見合スベシ
 トノ訓令アリタル趣キナレトモ瓦斯点火料其他ニ於テモ現ニ費用
 ノ掛ル物ヲ只々詮議ノ次第ト而已ニテ等閑ニ附シ置カレ突然其
 費用ヲ賦課徵集スルコトニ至レバ甚々困難ニ付議長ヨリ其實情ヲ
 口上ニテ述ベ何ントカ速カニ所置アラシコトヲ長官ニ督促セラレ
 マシ

六番(戸塚)五番ノ説ヲ賛成ス

議長曰ク五番ノ建議説ハ六番ノ賛成ニテ議題トナリシ旨ヲ述ブ

議長曰ク他ニ發議ナクンハ決テ取ルベシ五番ノ説ニ同意ハ舉手
 スベシ總舉手議長ハ全會一致ニ付五番ノ説ニ決スト告ク
 以上述ヘタル如ク本訴ノ物件既ニ貿易商人等ノ共有財産ニシテ本
 町外十三ヶ町ナル一團體ノ共有財産ニアラサル以上ハ當然民法上
 ノ支配ヲ受クヘキモノニシテ右太政官ノ布告若クハ區町村會法等
 ノ行政法ノ下ニ支配セラレヘキモノニアラス既ニ右太政官ノ布告
 若クハ區町村會法ノ支配スヘキ性質ノ財産ニアラサル以上ハ行政
 官吏ニ於テ之ヲ管理スルノ權ナキハ固ヨリ言テ俟タス如何トナレ
 ハ明治九年太政官第三百三十號十二年第二十二號區町村會法等ニ依
 リ行政官ニ於テ管理スルヲ得ル共有物ハ行政上一團體則チ一個ノ
 無形人ト認メタル區町村ニ屬スルモノヲ指シ本訴物件ノ如キ民法
 上ノ支配ヲ受クベキ一私人ノ私有物ヲ含蓄セサレハナリ

又被告代言人ハ乙第十八號証ニ於ケル縣知事ノ達并ニ内務大臣ノ
 訓令及省令等ヲ援引シ本訴物件ヲ以テ戸長ノ管理スヘキ權利アル
 モノト主張スレトモ是レ甚キ誤解ナリ、、右ノ縣達并ニ省令及訓
 令等ヲ視レハ區町村公共ノ經濟ニ屬スヘキ共有物ニ關スル事件ハ
 渾テ區町村會ニ於テ評決セシム云々トアリ又從來各府縣下ニ存在
 スル公共ノ財産ニシテ府縣會區町村會及ヒ水利土切會ノ議定ニ付
 セサルモノハ其管理方法又ハ名義ノ如何ニ拘ラス府縣知事ニ於テ
 其管理者又ハ關係者ノ意見ヲ聞キ其所屬ヲ定メ自今府縣會若クハ
 區町村會ノ議定ヲ經テ府縣知事若クハ郡區長町長ニ於テ之ヲ管理
 スベシ云々トアリ由是看之或ハ本訴ノ物件ノ如キモ行政官吏ニ於
 テ管理シ得ルヤノ嫌ナキニアラス然レトモ當代言人ハ右ノ訓令省
 令等アルモ猶行政官吏ハ本訴ノ物件ヲ管理シ能ハサルモノト信ス

〃、成程右省令中ニハ府縣會區町村會及水利土切會ノ議定ニ付セ
 サルモノハ云々トアルヲ以テ一見或ハ從來右等ノ議會ニ付セサル
 モノト雖モ其議定ニ付シ行政官ニ於テ管理シ得ルカ如ク見ユルモ
 〃、這ハ從來右等ノ議會ニ付スヘキ性質ノ財産ニシテ未ダ右等ノ
 會議ニ付セサルモノト解釋スルヲ以テ正當ト信スルナリ如何トナ
 レハ若シ從來右等ノ議會ニ付セサリシ財産モ此省令ニ依テ府縣會
 區町村會ノ議定ニ付スルヲ得ルモノトセハ訓令若クハ省令ヲ以テ
 帝國ノ法律ヲ左右シ即チ内務大臣及縣知事一片ノ訓令省令布達ハ
 帝國ノ法律ナル府縣會法區町村會法并ニ太政官等ノ布告ヲ動かス
 モノト云ハサルヲ得ス豈ニ法律ノ範圍内ニ於テ訓令省令縣達ヲ發
 シ得ル國務大臣若クハ縣知事カ訓令省令縣達ヲ以テ時ノ法律ヲ動
 スコトヲ得ンヤ且ツ法律ノ範圍内ニ於テ發スルヲ得ル訓令省令縣

達ナレハ法律ニ抵觸スルモノハ無効ナリト云ハサルヲ得ス要スル
 ニ右ノ訓令省令縣達ハ府縣會區町村會ノ議定ニ付スヘキ性質ノ共
 有物維持處分方法ヲ規定シタルモノニシテ單ニ貿易商人等ノ共有
 スル如キ物件迄ヲモ抱括シ居ルモノニハアラサルナリ、故ニ右
 ノ訓令省令及ヒ縣達ニ依ルモ行政官ニ於テ本訴ノ財産ヲ管理スル
 ノ權ナキヤ明カナリ

前陳ノ理由アレバコソ訴狀ニモ明記シ且ツ最初ニモ述ヘタル如ク
 明治十一年度ニ於テ大區會ハ本訴ノ物件ヲ管理スルノ權ナキコト
 ナ認メタルナリ、既ニ大區會ニ於テ管理權ヲ有セサル以上ハ縣
 知事ニ於テ貿易商人等ノ財産ヲ管理スルノ權ナキハ勿論ニシテ本
 訴ノ物件カ行政上ノ規則并ニ縣達等ニ支配セラレサルハ益々明ナ
 リ

己ニ述ル如ク行政官自ラ本訴ノ財産ヲ管理スルノ權ナキカ故ニ本
 件貿易商ノ有共物ニ關シ戶長ヨリ議案ヲ發布スルニハ明治十一年
 度以來原案ヲ提出スル前豫メ戶長ヨリ貿易商總代ニ照會シ其承諾
 ナ得タル後ニ非ラサレハ原案ヲ町會ニ提出シ能ハサルノ慣行アル
 如キハ愈以テ行政官吏カ貿易商ノ財産ヲ管理スルノ權ナキヲ自カ
 認メ居ルモノト云ハサルベカラス又被告代理人ハ租稅云々ト主張
 シ本訴物件ハ租稅ニテ買入レタルモノナレハ當然戶長ニ於テ管理
 スベキモノナリト申立レトモ、、當代理人ハ未ダ曾テ之ヲ以テ、
 、即チ步合金ヲ以テ租稅ト定メタルノ法律アルヲ聞カス凡ソ租稅
 ナルモノハ其國稅ナルト地方稅ナルトニ拘ラス皆ナ法律ヲ以テ之
 ナ定メラルベキモノナリ然ルニ步合金ヲ以テ租稅トナスノ法律ハ
 當代理人ノ未ダ曾テ聞知セサル所ナリ

以上ハ正面ヨリ本訴物件ニ對シ戶長ノ管理權ヲ有セサル所以ヲ陳
 述シタルモノナレトモ原告代理人ハ尙一步ヲ讓リ之ヨリ仮リニ被
 告戶長ハ管理權ヲ有スルモノトスルモ廿年度ノ決議ハ之ヲ動スコ
 下ヲ得サル所以ヲ辨論セシメ、
 區町村會法第五條ニ明示スル如ク區戶長ハ區町村會ト意見ヲ異ニ
 シタルトキハ縣知事ニ於テ區町村會ニ干涉スルノ權アルモ本件ノ
 如キ戶長ヨリ提出シタル原案ヲ町會ニ於テ議決シタル場合ハ區町
 村會法上縣知事ニ於テ干涉スル職權アルコトナシ
 前段述ヘタルカ如ク本訴ノ物件ハ元來行政官ノ管理スヘキモノニ
 アラス貿易商自カテ管理スヘキモノナルヲ明白ナリ、、現ニ明治
 廿年度町會ノ議決ハ本訴物件ノ所有權何レニ在ルヤヲ議定シタル
 モノニシテ議決夫レ自身ハ直ニ本訴物件ノ所有權カ貿易商人等ニ

在ルコトヲ認メタルモノナレハ此他行政上戸長ニ於テ施行スヘキ職務アルコトナシ單ニ議決ノ結果トシテ本訴ノ物件ヲ原告等ヘ引渡スヘキ義務アルノミ

明治十九年一月四日神奈川縣達乙第一號ニ依レハ通常會ノ評決ハ縣廳ヘ報告ノ日ヨリ日數十五日ヲ經過スレハ實施スルヲ得ルノ規定アリ故ニ縣知事ニ於テ評決ノ執行ヲ停止セント欲セハ須ク右十五日以内ニ其手續ヲ爲サ、ル可カラス然ルニ明治廿年四月十五日達乙第七十號ハ廿年度町會ノ議決ヲ縣廳ヘ報告ノ日即チ同年三月三十日ヨリ既ニ十七日目ニ在リテ十五日間ノ期限ヲ經過シ居レハ停止ノ効ナシ

假ニ一步ヲ讓リ停止ニ効アリトスルモ縣知事ハ會テ明治廿年度町會ノ評決ヲ取消スヘシト達シタルコトナシ既ニ評決ノ取消ナキ以上

ハ行政上ヨリ云ヘハ第參者タル原告等ニ對シテハ原告等ノ請求アルト同時ニ本訴物件引渡ヲ爲サ、ル可カラス明治廿一年十月廿三日附甲地第二十二號ノ訓令アレハトテ之ヲ以テ廿年度ノ評決ヲ取消シタルモノト爲スヲ得ス

又廿一年十月廿三日ノ訓令ハ良シヤ取消ノ意味ヲ含蓄シ居ルモノトスルモ戸長ハ未ダ曾テ修正案ヲ設ケ議會ニ附シタルコトナシ如何トナレハ乙第二號證ハ追加町費収支案ニシテ處分案ノ修正ニ非ラサレハナリ故ニ之ヲ以テ引渡ヲ拒ムノ理由ト爲ス可カラズ

又廿年度ノ議案ハ處分案ナルニ廿二年度ノ原案ハ追加町費收支案ナレハ廿年度ノ原案トハ全ク其性質ヲ異ニスルヲ以テ良シ正當ノ手續ヲ經タル議決トスルモ廿年度ノ評決ハ之ヲ動カスニ足ラサルナリ

又神奈川縣ノ議事規則ニ依レハ臨時會ハ三日以内トアルヲ以テ三月三十一日ヨリ更ニ臨時會ヲ開クトキハ同日ヨリ三日間ハ開會スルヲ得ルハ勿論ナルニ三十一日ニ開會シ其當日出席議員過半數ニ充タストテ新制施行ヲ理由トナシ直ニ原案執行ヲ申告シナガラ一方ニ於テハ新制ノ施行ニモ拘ハラヌ四月三十一日ヨリ四月六日迄通常會ヲ開設セリ四月一日ヨリ新制施行ニ付キ臨時會ハ開會スルヲ得サルモ通常會ハ差支ナシト云フノ理萬々之アルベカラス

判事曰 只今ノ澁谷代言人ノ辨論中管理權ナキ理由及ヒ租税ニ關スル駁論ヲ除クノ外ハ大体大谷木代言人ノ說ヲ敷延シタルニ過キサルカ

澁谷曰 自然ノ順序上或ハ敷延モアラソ

判事曰 被告代言人

大塚曰 先刻來ノ辨論ニ對シテハ大ニ駁論ヲ加ヘ度點モアリ又新ニ辨論ヲ爲シ度點モアレトモ最早時限モ迫リ居ルヲ以テ今日ハ之ニテ閉廷サレタシ
今村曰 答辨モアリ、、、駁論モアリ、、、恐クハ大塚ノ述ル丈ニテモ二三時間ハ費ユルナラン依テ今日ハ之ニテ閉廷アラソトテ望ム

午後二時三十分閉廷

第五回(七月十一日)

午前九時三十五分開廷

判事曰 被告代言人ハ辨論ヲナスベシ

大塚曰 被告ハ本訴ニ付テハ先ツ事件總体ノ辨論ヲ爲シ然ル後ニ原告所論ノ不當ヲ辨駁セントス、、、而シテ本件ニ付被告カ總體論トシテ申立ル事柄、、、即チ併セテ御裁判ヲ仰クノ要點ト思考スルモ

ノハ大凡五クノ論旨ニ過キス即チ左ノ如シ

第一 本訴ノ物件ハ戸長ノ管理スヘキモノナリヤ否

(一) 本訴物件ノ性質上ヨリ……

(二) 本訴物件ノ沿革上ヨリ……

(三) 法律上ヨリ……

第二 二十年度ニ於ケル聯合町會ノ議決并ニ二十一年ニ於ケル原案施行ノ所分ハ適法ナルヤ否

第三 本訴ハ行政訴訟ナルヤ將タ民事訴訟ナルヤ

第四 行政訴訟トスルモ民事訴訟トスルモ原告ノ請求ハ不當ナリ……即チ駁論……

第五 行政訴訟トスルモ民事訴訟トスルモ原告ハ訴權ヲ有セス……即チ論結……倍テ今辨論ニ入ルニ先チ一言……御斷リ申上置ク

ハ即チ第四ノ駁論ハ專ラ今村關島ノ兩代言人ニ讓ル積ナレハ……自分ハ只タ其大要ニ止メン

第一 本訴ノ物件ハ戸長ノ管理スベキモノナリヤ否

(一) 本訴物件ノ性質上ヨリ……

本訴ノ物件ヲ戸長ガ管理スルハ性質上相當ナル所以ハ事實開伸ノ際ニモ又證據説明ノ時ニモ既ニ其大要ヲ申立タル如ク元來本訴ノ物件ハ舊幕府ノトキヨリ租税……即チ公費ヲ補助スルノ目的ヲ以テ當時ノ行政官吏乃チ名主輕部清兵衛ナルモノガ彼ノ長崎ニ於テ行ハル、五厘税ノ制ヲ此地ニ移シ奉行所ノ許可ヲ得テ歩合金ヲ徴収シタルニ起因スルモノナリ……然ルニ萬延元年以來貿易商ノ數漸次ニ増加シタルカ爲メ其徴収スル處ノ歩合金ヲ以テ町費ヲ支辨スルモ尙ホ過分ノ餘剰金ヲ生ズルニ至レリ……

尤モ最初ハ賣込品ニ對シテノミ歩合金ヲ課シタレトモ此時ニ至リテハ外國人ヨリ引取ル所ノ品ニ對シテモ歩合金ヲ課スルニ至リタルヲ以テ其餘剰金ヲ生スルニ至リタルモ元ヨリ怪ムニ足ラサルナリ依テ其餘剰金ヲ以テ貧民ヲ救助スルコト、ナシタリ而シテ是等ハ皆官民共ニ承諾セシ所ニシテ其町費支辨ノ傍公益事業ヲ行フハ貿易商人等ノ最モ賛成シタル所ナリ而シテ如此町費支辨ノ餘剰金ヲ以テ公益事業ヲ行フノ政畧ヨリシテ遂ニ今日ノ如キ百萬圓以上ノ財産ヲ生スルニ至リタルナリ而シテ又當時ノ理事者カ公益事業ヲ擴張セシニハ尙其徵取セシ所ノ歩合金ニ向テ殖利ノ道ヲ計ラサルベカラサルコトヲ心付タルヨリ時ノ奉行ヨリ之ヲ三井銀行ヘ貸付ケタルカ如キコトアリ是レ恰モ東京ニ行レタル勅倉ノ制ト一般ナルモノナリ而シテ其殖利ノ法宜ヲ得

タルノ結果トシテ明治五年ニ至リテハ乙第三號証ノ如ク早ク已ニ十餘萬圓ノ金額トナレリ、然レトモ未タ是位ノ金高ニテハ町會所敷地代金及建築費用ニ充ルニ足ラサルヲ以テ元トノ町役所ヲ賣却シ其代金ヲ右ノ金高ニ加ヘ一坪五拾圓ニテ町會所ノ敷地ヲ買入レ又之ヲ新築セリ、而シテ是實ニ原告カ請求スル甲第一號証第一項ノ物件ニ該當スルモノナリ、夫レ如此性質ヨリ成立セシ歩合金ナレハ歩合金ハ純然タル公費即チ税金ナルコト爭フベカラス故ニ此時ニアリテモ歩合金ハ單リ原告貿易商人等共ヨリ徵収シタルニアラス乙第三號証ニ明記シアル如ク三十餘科目ノ多キヨリ徵収セリ然ルニ原告ノ如キ難者ハ歩合金ヲ以テ租税ニアラズトナシ論據ヲ法律ナキニ借り喋々論難スレドモ是レ大ナル誤解ナリ、當時ノ税制トシテ決シテ今日ノ町村費

ノ如キモノニ對シマテ税ノ名ヲ以テ取立テサリシナリ加之今日
 ノ正租ト唱フル者ニ付テモ別ニ法律ノ規定アラサリシナリ、
 運上金、冥加金、甚キハ御用金、御年貢、杯ト稱ヘ徵
 収セシ程ナレハ正租ハ勿論、町村費等ニ對シ其之ヲ徵収スル
 ノ法律ナカリシハ毫モ怪ムニ足ラス蓋シ租税ノ稱呼出テシハ區
 町村會法發布以後ニ係レリ左レハ今其歩合金ニ法律ナキノ故ヲ
 以テ税金ニアラズト云ヘルハ畢竟原告カ能ク既往ノ事實ヲ知ラ
 サルノ過ニ坐スルノミ、己ニ述フルカ如ク歩合金ハ元ト町費
 ヲ支辨スルノ目的ヲ以テ徵収セシモノナレハ純然タル租税ニシ
 テ實ニ行政官ノ管理セシ所ナリ如此、論シ來ラハ人或ハ當時
 ノ名主年寄ノ如キモノハ行政官ニアラストナサン、又當時ノ
 神奈川奉行ノ如キモノハ純粹ナル行政官ニアラストナサン、

然レトモ名主ニセヨ年寄ニセヨ又町役人ニセヨ苟クモ行政官ト
 シテ官治事務ヲ行フ以上ハ之ヲ行政官ト稱フル又何ノ不可カア
 ラン、今日ノ如ク行政ノ發達セシ時代ニハ行政ノ事務ニモ官
 治事務ト自治事務トノ區別アリテ其自治事務ヲ行フ所ノ市長參
 事會等ノ如キモノハ或ハ之ヲ行政官ト稱スルコト能ハスト雖ト
 モ其一朝官治事務ヲ行フニ方リテハ尙且純然タル行政官タリ、
 、夫レ如此行政發達ノ今日ニアリテモ官治事務ヲ行フニ方リ
 テハ之ヲ目スルニ行政官ヲ以テスルコト毫モ不可ヲ見サルニ其
 以前、即チ行政思想ノ冷淡ナル舊幕時代ニ於テ之ヲ行政官ト
 稱フルノ不常タラサルハ又多言ヲ要セサルナリ、而シテ若シ
 又タ右ノ歩合金ハ神奈川奉行ニ於テ之ヲ直轄セスシテ名主年寄
 町役人ノ輩ニ於テ管理シタルモノトスルモ以上詳述スルカ如ク

彼等ハ官治事務内ノコトヲ行ヒタルモノナレハ之ヲ目シテ行政官カ行政事務ヲ取扱ヒシモノトスルニ於テ何ノ不都合カ之アラソ而シテ又其後ノ沿革ニ於テモ、乙第四號第五號第六號証ノ如ク或ハ縣廳ニ於テ之ヲ管理シ或ハ區長ニ於テ之ヲ管理シタルノ事例ハ着々トシテ見ルコトヲ得ベシ就中乙第七號証乃至乙第十五號証ノ如ク戸長ニ於テ法律上之ヲ管理セシコトハ最も明白ナル事實ナリ、以上述ルカ如キ事實ナルヲ以テ被告戸長カ歩合金ノ性質、即チ本訴物件ノ性質上ヨリシテ之ヲ管理スルノ相當ニシテ不當ナラサルハ知者ノ言ヲ待テ後知ラサルナリ

(二) 本訴物件ノ沿革上ヨリ、本訴ノ物件ハ以上述ヘタル性質ヨリ胚胎シ來リタルモノナルカ故ニ其沿革ノ點ニ至リテモ、乙第四號及ヒ第五號証ノ如ク縣

廳區長等ニ於テ管理セシノミナラス乙第七號証乃至第十五號証ノ如ク戸長カ管理シタルコトハ最も明白ナル事實ナレハ、被告戸長カ今之ヲ管理スルハ沿革上相當ノ事柄ナリト思考ス

(三) 法律上ヨリ、

之ヨリ戸長ハ法律上本訴ノ物件ヲ管理セサルベカラサル理由ノ大要ヲ述ヘンニ、乙第十八號証ニヨレハ明治十七年四月神奈川縣達第十號ニ「町村公共ノ事件ハ戸長ニ於テ管理スベキモノニ有之」云々トアリ由是看之町村ニ於ケル公共事件ノ戸長ニ於テ管理セサルベカラサルコトハ又争フベカラス加之乙第二十二號証、即チ明治十八年神奈川縣訓示第九號ニモ「區町村共有物該費目範圍内ニ属スルモノハ會議ニ付シ處分スルハ勿論トス」トアリ又單純共有物ト雖モ從前會議ノ評決ヲ取り處分シ來レルモノ及

會テ區戸長ニ於テ管理セシモノハ尙會議ニ付シテ處分スルヲ得
 ベシトアリ由是看之モ法律上之ヲ會議ニ付スルハ論ナキモ又其
 之ヲ管理セサルベカラサル所以モ甚々明白ナラン、其
 大臣等ノ訓令等數通アリテ單純ノモノト雖モ又ハ其レヨリ町費
 ナ出スモノト雖モ皆戸長ニ於テ町會ノ決議ヲ經由スルノ仕來リ
 ニナリ居レリ而シテ乙第十六號證并ニ乙第十七號證ニヨレハ戸
 長ハ當然本訴ノ物件ヲ管理シ其處分并ニ徵費ノ取立方法ハ之ヲ
 町會ノ決議ニ委スルモノナルコトハ殆ント爭フベカラザルナリ
 之ヨリ一步ヲ進メテ歩合金ノ性質ヲ變シタル事柄ヲ簡單ニ述ヘ
 ントス、是蓋シ辨論上最モ利益ナリト信スレハナリ、年度
 ヨリ云ヘバ安政六年、安政六年始メテ横濱ノ開港アリ次テ萬
 延元年ニ及ヒ町費支辨ノ目的ヲ以テ歩合金ノ制度ヲ起シ之ヲ賣

込品ニ課シ其後四年ヲ經テ更ラニ引取商人ヨリモ徵收スルコト
 、ナシ爾來明治九年迄ハ已ニ屢々開陳スル如ク租稅トシテ之ヲ
 扱ヒ官治事務トシテ縣廳區長等之レヲ管理シ來レリ、然ルニ
 全年度ニ至リ總代人或ハ代議人ノ制ヲ設ケタルニヨリ此際一變
 スル筈ナリシカ途ニ十一年迄ハ其儘ニ打チ過キ全年度ニ至リ始
 メテ代議人ヲ設ケ大區會ヲ開キ共有物件ハ一小區即チ本町外十
 三ヶ町ニ移スベキノ議決ヲナセリ、而シテ右大區會ノ議員乃
 チ代議人ト稱フルモノハ大小區ノ別ヲ置カレタルニ際シ其區町
 村内ニ於ケル自治ノ事務及官治ノ事務ノ幾部ヲ議決セシムルノ
 精神ヲ以テ設ケラレタルモノナリ、而シテ右大區會ハ本訴ノ
 物件チ一小區ニ引渡スノ議決ヲナシタルナリ、而シテ其他難
 波町部内ノ吉田學校野毛町ノ老松學校ノ如キモノモ皆本訴ノ物

件ト共ニ全時ニ處分セリ、一、大區内ニハ五小區アリテ本町外十三ヶ町ハ一小區ニシテ吉田町野毛町ハ二小區ニ屬シ難波町ノ如キハ三小區ニ屬セリ、即チ大區會ハ各小區ニ對シ夫レ々々其土地ニ屬スル物件ヲ議決シテ引渡セシナリ而シテ本訴物件又其中ニアリ、其引渡ノ議決ヲナシタル根源ハ之ヲ大區ニテ取扱フハ甚々不便ナリトノ点ニ出テタルニ外ナラス即チ今日ノ如ク諸般ノ制度綿密ナラサシテ以テ從テ費用支出ノ方法等モ甚々明瞭ナラサル所アルヲ以テ之レ等ノ不便ヲ避ケンカ爲メナリ、而シテ此時ニ方リ本訴共有物件ヲ右大區會ニ於テ十四ヶ町ニ引渡スニ至リシ所以ヲ尋ルニ本訴物件モ今日ニテコソ百有餘萬圓トナリ居ルモ其當時ニアリテハ今日ノ如ク利益ナキノミカ現ニ瓦斯局ノ如キモ更ニ利益ナク反テ大藏省ニハ十餘萬圓ノ負

債アリ其維持法サヘ定ラス費用ノ徴収其他面倒ナル事多カリシナリ、又共有物中ニハ一小區ニ屬スルモノモアリ又二小區ニ屬スルモノモアリ又三小區ニ屬スルモノモアリテ其之ヲ維持スル費用ノ分賦法ニモ頗ル困難ヲ感シタルヲ以テ遂ニ各小區ニ對シ之レカ引渡ヲ議決シタルナリ、尙此ニ一言スベキハ原告代言人ハ大區會ノ性質ヲ間違ヘ居ルコト是ナリ被告代言人ハ原告ハ此大區會ヲ以テ貿易商ノ會議ノ如ク云ヒ做シタルヤニ聞キ取リタルカ是ハ大ナル誤謬ナリ、大區會ハ決シテ貿易商ノ會議ニアラス原告ニシテ乙第三號及第四號證ヲ參照セハ蓋思ヒ半ニ過キノ、尤モ此際ニ於ケル大區會ノ議員中ニハ今日ノ原告人中ニテ勢力アル人其多數ヲ占メ居リタルコトハ既ニ証据説明ノ際ニ述ヘタリ、而シテ此大區會決議ノ結果ニヨリ本訴共有物

ハ官治事務ノ範圍ニ屬スベキモノニアラサルコトガ明白ニナリ
 遂ニ民有ニ歸シタルナリ即チ之ヲ換言スレバ區長ノ手ヲ離レテ
 人民自ラ之ヲ管理スルコトヲ得ルニ至リタルナリ、而シテ是
 レ實ニ彼ノ有名ナル瓦斯事件ニ於ケル訴訟ノ結果ナリ、瓦斯
 ノ訴訟ハ十四ヶ町ノ代表者ヨリ區長ニ係リテ起セシモノナルカ
 、此訴訟ハ始審ニテ敗訴ニ歸セシヲ以テ控訴ヲナセシナリ、
 然ルニ其控訴中ニ又モヤ十四ヶ町ノ代表者乃チ當時ノ代議人
 ハ尙當御應ニ向テ共有物引渡請求ノ訴訟ヲ提起セリ而シテ其被
 告ハ矢張區長ナリシ、而シテ其訴訟ノ結果ハ瓦斯訴訟ノ和解
 ニ歸スルト同時ニ願下ヲナシテ事落着チ告ケタリ、即チ共有
 物件ノ訴訟ハ、共有物件ハ全ク區長ノ管理ヲ離レテ明ニ十四
 ヶ町ノ人民カ處理スルモノナリトノ協議調ヒタルヨリ和解ニ歸

セシナリ、由是觀之本訴ノ共有物件ハ本町外十三ヶ町ノ戸長
 タル資格カ管理スルモノナリトノコトハ明瞭ナラン、即チ大
 區會ノ決議ヨリスルモ、又訴訟ノ媾和ニナリシ結果ヨリスル
 モ、明瞭ナラン、右等ノ顛末ニヨリ被告戸長ハ明治十二年
 以來引續キ管理シ來リタルモノニシテ爾後今日ニ至ルモ尙法律
 規則ニヨリテ管理ヲナセルナリ、即チ町費ヲ支辨セシメサル
 べカラサルモノナレバ區町村會法其他ノ規則ニヨリテ管理スベ
 キモノナリ

第二 二十年度ニ於ケル聯合町會ノ議決并ニ二十一年度ニ於ケル
 原案施行ノ所分ハ適法ナルヤ否
 二十年度ノ原案并ニ其之ヲ發スルニ付呈供シタル説明書モ兩者皆
 被告戸長ノ手ヨリ出テタルニ相違ナシ、即チ被告戸長ハ本訴ノ

物件ヲ貿易商人ニ引渡スヲ以テ相當ナリト信シ、又之ニ對シテ
 説明書ヲ付シタルハ全ク其失誤ニ出テタルニセヨ、鬼ニ角原案
 ヲ發シテ町會議員ノ意見ヲ聞カセシトシタルハ事實ナリ、而シ
 テ戸長カ本訴ノ財産ヲ貿易商人ニ引渡スヘシトノ議案ヲ發シタル
 ハ、假令誤信ニモセヨ、其行フ所ノ事務上ノ便利ヲ謀ラシメ
 爲メニ出テタルニ相違ナシ、其故何ソヤ、近年ニ至リ戸長カ
 歩合金ヲ取立ル上ニ付キ甚ダシキ困難ヲ感シタルハナリ即チ之カ
 困難ヲ服却センカ爲メニ行ヒタルモノナリ、即チ近年ニ至リテ
 ハ人文ノ進歩ヨリシテ單ニ歩合金ナド、唱フル漠然タル稅ヲ出ス
 コトヲ厭フノ風盛ニ行ハレ、正直ナルモノハ之ヲ支出スレトモ
 不正直ナルモノハ之ヲ支出セス專ラ脫稅ヲ謀ルト云フカ如キ結果
 ヲ見ルニ至リタルヲ以テ戸長カ其徵收法ニ苦ミシモ又深ク怪ムニ

足ラサルナリ、其所以ハ、曾テ述ヘタル如ク歩合金ヲ納ムル
 モノ、中ニハ取引者自身ノ懷ヨリ出スモノト荷主乃チ客人ヨリ出
 サシムルモノトノ二種アリテ、本訴原告中ノ重モナルモノハ生
 糸商人ナルカ元ト是等ノ商人ハ自分ノ懷ヨリ歩合金ヲ出スモノニ
 アラス加之歩合金ノ爲メニハ常ニ非常ナル利益ヲ占斷セルモノナ
 リ之ヲ詳言スレハ原告中ノ生糸問屋ハ生糸賣捌ニ付テハ一割ノ手
 數料ヲ取り其七分ヲ以テ口錢ニ充テ三分ヲ以テ歩合金ヲ支拂フモ
 ノトセリ、今日ニテハ一割ヲ以テ悉ク手數料口錢ト云ヘトモ以
 前ニアリテハ歩合口錢トテ三厘ハ明ニ書付テ以テ客人ヨリ取立タ
 ルナリ然レトモ如此シテハ後々ノ苦情アルベシトテ單ニ一割ト書
 クニ至リタルモ其實ハ矢張七分三分ノ割合ニテ毫モ以前ト異ル所
 アラス而シテ此ニ尤モ注意スベキハ斯ク三分ハ歩合金ニ出スモノ

トナリ居レトモ今日ハ其三分ナリトテ悉ク皆出スニハアラス其内
ヨリ一分若クハ一分五厘ヲ補助スルニ過キス而シテ今日マテモ未
ク歩合金ヲ以テ公費ナリトハ云ハサルナリ、蓋シ一分ナリ一分
五厘ナリヲ歩合金トシテ取立テ、之ヲ戸長ノ手ニ引渡シ此ニ始テ
公費ノ性質ニ變スルモノナリ、又今日ニテハ戸長ハ直ニ歩合金
ノコトニハ關係シ居ラサルナリ、是等ノ点モ原告ニハ往々誤解
アルモノ、如シ、夫レ如此原告中ニテモ生糸商等ノ一派ハ荷主
乃チ客人ノ勘辨ニヨリ巨益ヲ壟斷セリ、然レトモ如此不都合ナ
ル手數料ハ永ク繼續スルモノニアラス今日ニ至リ往々ニシテ脱歩
合ノ形遺ヲ見ルニ至リタルハ蓋シ之カ爲ナリ而シテ其脱歩合ノ實
象ハ之ヲ統計年鑑ニ徵スルモ又之ヲ税關ノ調査ニ徵スルモ明ナリ
賣込引取ノ物品ト歩合金ノ額トカ相匹敵セサルハ是レ著名ナル事

實ナリ、然ラハ此三分ノモノヲ取リ如何ニスルヤト云フニ割預
ト稱ヘテ貿易商ニ返スナリ夫レハ倍テ置キ原告中某ト云ヘル生糸
問屋ノ如キハ一年ニ付六七千圓ツ、ノ歩合金ノ割預アリト云ヘリ
而シテ如此問屋ノ巨益ハ皆ナ習慣上、荷主ヨリ取立タルモノナ
レハ其利實ニ思フヘシ然ルニ反之自ラ引取チナス所ノ商人ハ全ク
歩合金ハ已レノ懐ロ合ヒヨリ出スモノナレハ其不利又察スルニ堪
ヘタリ故ニ其是等ノ人ニ脱歩合ヲナスモノアルハ毫モ訝ルニ足ラ
ス加之東京又ハ神奈川ヨリ賣込引取チナスモノハ別ニ歩合金ヲ出
スニ及ハサルヲ以テ歩合金ノ爲メニハ或ハ利ヲ感スルモノアレハ
又タ害ヲ被ルモノアリ甚キハ利害相關セサルモノモアリテ實ニ不
都合究リナキヲ以テ歩合金ノ命脈モ早晚絶滅ニ歸スルナラント信
ス否ナ如此不完全ナル徵収法ハ學理上ヨリ論スルモ速ニ廢止セサ

ルベカラス、右等ノ事情アルカ爲メ歩合金ノ支拂ヲ厭フノ風一般ニ行ハレ原告人中ノ某々ノ如キハ之カ支拂ヲ拒ミ頑トシテ應ヒス甚キハ脅迫メキタルコトヲ行ヒタルコトアリ即チ我儘ニモ歩合金ヲ出サスシテ戸長ヲ困ラシムルノ風ハ先ツ一般ニ勢力ヲ占ムルコト、ハナリタルナリ、勢如此ニ立至リタルヲ以テ當時戸長ノ考フルニハ到底右等ノ有様コトハ所詮、即チ戸長ハ本訴物件ヲ以テ貿易商人ノ公有財産トナシ得ルモノナリト信シテ原案ヲ出セシナリ而シテ議會ハ之ヲ可決シタルモノナリ然レトモ戸長ハ之ヲ以テ貿易商人ノ私有財産トナシ得ルモノナリトシタルニハアラス全ク貿易商人ヲ以テ一團體ト見做シ即チ無形人ト心得テ之ヲ引渡スモノナリト信シタルニ相違ナシ而シテ戸長ハ之ヲ引渡シナハ公費ノ補助ヲ拒ムカ如キコトナク町費ノ徴収上甚タ便利ナリト信シ

タルニ依ルナリ、戸長カ之レヲ獲シタルノ主意ハ右様ノ誤信ニヨルモノナリト雖モ町會ニ於テ又之ヲ可決セシモ甚キ誤解ナリト云ハサルベカラス、而シテ右議案中ニハ縣知事ヨリ命令ヲ受ケテ議案ニ入ルベカラサル乙第廿五號証ノ物件モ入り居レリ即チ師範學校十全病院ノ敷地ノ如キ是ナリ、之ヲ要スルニ戸長ノ誤信ヨリシテ其説明書モ誤リタルモノヲ出シタルモノナリ而シテ當時町會議員等モ貿易商ナル無形人ヲ組織シ得ラル、コト、信シテ引渡ノ議決ヲナシ并ニ其費用ノ支辨方法ノ如キモ歩合金ヲ以テ支出スベキコトヲモ議決シタルナリ而シテ其議決ノ後縣知事ニ向テ認可ヲ仰キタルモノナリ、原告代言人ハ證據説明ノ際ニ方リ被告代言人ニ向テ議決ノ施行ハ戸長ニ於テ之ヲナスモノニシテ縣知事ニハ只報告ヲナセハ事足ルニアラスヤトノ質問アリシカ其際被告

ハ取調ノ上答フベシト云ヒタルカ、今之ニ答ヘンニ、二十年
 度ノ議決ハ如何ニモ之ヲ報告ニ止メスシテ認可ヲ仰キタリ、其
 所以ハ、戸長カ之ヲ貿易商ニ引渡スノ議案ヲ出シタルハ戸長カ
 行政上歩合金ヲ取立ルニ付大ナル便利アル主義ト又貿易商人ハ一
 團體ニシテ無形人ナリトノ思想トカ互ニ相投合シタルヨリ起リタ
 ルモノナリ然ルニ此コトノ一度世上ニ傳ハルヤ貿易商外ノ攻撃盛
 ニ起リ殊ニハ此議決中ニハ現ニ縣知事ノ命令ヲ受ケテ議案ニ入レ
 タル乙第二十五號証ノ學校病院ノ敷地等横濱全市ノ公益上非常ナ
 ル關係ヲ有スル財産モアルコトナレハ到底議決通り施行スルコト
 ナ得サルコト、ハ信シタレトモ兎ニ角大切ナル事ナレハ認可ヲ受
 ケテ其責任ヲ免ル、ニ若カスト信シタルヨリ實ニ認可ヲ仰キタル
 モノナリ然ルニ原告ハ報告ニテ事足ル、認可ヲ乞フニ及ハス、

、ナド、云ヘトモ之レハ被告ノ隨意ニテ原告等人民ノ彼是云フベ
 キニアラス良シヤ行政法上ニ於テ戸長ハ上司乃チ縣知事ニ向テ報
 告ヲナスベシト規定シアルモ苟クモ其之ヲ以テ重大ナル事件ナリ
 ト信スル以上ハ認可ヲ乞ヒタリトテ毫モ差支アラサルナリ是レ恰
 モ府縣知事カ内務大臣ニ伺ヲ爲スト一般ナリ苟クモ重大ナルコト
 、信スル以上ハ仮令ヒ報告ニ止マルモノト雖トモ認可ヲ仰クニ於
 テ決シテ不可ナル所ナシ、蓋監督權上當然ノ手續ナリ、而シ
 テ原告ハ如此コトヲ答ムルノ權ナキ理由ハ訴權論ヲ述フルニ方リ
 テ詳述セン、偕テ如此二十年度ノ議決ハ間違ナルヲ心付タルヨ
 リ之ヲ縣知事ニ上申シテ認可ヲ乞ヒタルニ果シテ知事ハ此議決ヲ
 以テ公益ニ大害アリト認メ其施行ヲ見合スベシトノ訓令ヲ發シタ
 リ、被告戸長モ事此ニ至テハ又之ヲ何如トモスルヲ能ハス而シ

テ此訓令タル監督權ヲ有スル知事ニ於テナシタルモノナレハ元ヨリ適正ナルコト論ヲ待タス且ツ己ニ誤信ヲ悟リタル戸長ノコトニシアレハ此處置ヲ以テ正當ナリト信シテ遵守セシモノナリ、然ラハ何故ニ縣知事ハ其監督權内ニ於テ如此命令ヲ發スルコトヲ得ルヤヲ査究セサルベカラス、抑モ本訴ノ物件ハ其價實ニ百萬圓ノ上ニ超過セリ而シテ十四ヶ町ノ町費ハ右ノ物件ヨリシテ其八分ヲ補助セラレ居ルナリ然ルチ今右ノ物件ヲ舉ケテ一町一市人タル貿易商人ニ引渡ストセンカ其不都合如何ソヤ、蓋シ如此議案ノ失誤タルハ論ナキニモセヨ其失誤ニ乘シテ之ヲ可決シタル議決ノ恐ルベキハ論ナキノミ、而シテ其物件中ニハ學校病院ノ如キモノモアリ又町會所ノ如キ横濱全市ノ町會所ニシテ單リ貿易商ノ干知スベキニアラサルモノモアリ又瓦斯局ノ如キ之ヲ町會所ニ比ス

レハ最著ク、日常切迫、公共ノ用ニ供シ居ルモノモアリ若シ夫レ如此公有財産ヲ舉ケテ一私人タル貿易商人ニ引渡スコトアリトセンカ知事ハ一日モ行政事務ヲ執ルコト能ハス如此ハ實ニ行政官タル知事ノ職務ヲ行フニ方リ大ナル障壁ト云ハサルヘカラス即チ右ノ議決ハ公益ニ大害アル議決ナリ公益ニ大害アル議決ハ知事カ有スル監督權内ニ於テ當然差止メサルベカラス夫レ然リ此差止ノ正當ナルコト又爭フベカラサルナリ殊ニハ此中ニハ區町村會法ニ背戾セル乃チ乙第二十五號證ニ於ケル縣有財産ノ如キモノマテチモ包容シテ議決シアルモノナレハ其認可ヲ與ヘスシテ差止ノ處分ヲナシタルハ全ク知事カ公益ヲ保護スルノ精神ニ出テタルモノニシテ監督權上當然ノ處分ナリト信ス而シテ被告戸長ノ之ヲ遵守シタルハ最モ正當ノコトナリト信ス、而シテ其後戸長ハ縣知事

ヨリ相當ノ修正ヲ加ヘテ再議ニ付スベシトノ訓令ヲ受ケ、又催
 促ヲモ受ケタルヲ以テ更ニ初メノ誤ヲ正シ二十二年度ノ議案ヲ發
 シタルナリ、然ルチ原告等ハ之ヲ以テ相當ノ修正ヲ加フベシト
 ノ訓令ニ對シ正反對ナル議案ヲ出シタリト難スレトモ之レ原告獨
 己ノ考ニシテ被告ニ於テハ毫モ差支ナシ被告ハ之ヲ以テ相當ノ修
 正ナリト信スルナリ、即チ始メハ貿易商ヲ以テ無形人ナリト信
 スル等ノ誤解ヨリシテ二十年度ノ議案ヲ發シタルモ本町外十三ヶ
 町ナル貿易商外ノ攻撃ヲ受クル激キヨリ忽チ其非ヲ悟リ従前ノ如
 ク本町外十三ヶ町ノ共有財産ト信シテ二十二年度ノ議案ヲ出セシ
 モノナリ實ニ被告戸長ノ如キモノハ改過不吝モノト云フベシ故ニ
 其議案中ニハ乙第二十五號證ニ掲クル縣有財産ノ如キ嫌ヒアルモ
 ノハ全然之ヲ除去セリ、戸長ハ議案ヲ發スルノ權アルモノナレ

ハ、正反對ノ議案ヲ發シタリトテ決メ他人ノ容喙スベキ限ニア
 ラス、只々怪ム可キハ三度マデモ招集セシ町會ニ貿易商人等ノ
 議員カ打揃フテ出席セサリシ一事是ナリ、當時十二名ノ議員中
 七名ハ原告等貿易商撰出ノ人ナリ、即チ過半数ヲ占メ乍ラ欠席
 シタルハ當代言人ノ甚々怪訝ニ堪ヘサル所ナリ、己ニ過半数ノ
 人アル上ハ本訴ノ物件ヲ自己等ノ有ニ歸セシムルノ議決ヲナスコ
 ト又容易ナルニアラスヤ、原告ハ己ニ本訴ヲ起シタル上ハ本訴
 ノ物件ハ無論欲望シ居ルニ相違ナシ、果シテ然ラハ何故ニ町會
 ニ出席シテ今日原告等ノ代言人カ辨論スル如キ議論ヲナサ、リシ
 ヤ、兎ニ角判官閣下ハ當時町會議員ノ多數ハ貿易商撰出ノ人ナ
 リシコトヲ記憶セラレタシ、夫レ如此三度ノ招集ニモ應セサリ
 シ等ノ己ムヲ得サル事情ヨリシテ斯クハ原案施行ヲ行ハサルベカ

ラサルニ立至リタルナリ、然ルニ原告代理人等ハ新制施行ヲナ
 スト雖モ引續キ開會セラレサルノ理由ナシト主張シ頻リニ其臨時
 會ヲ四月ニ至リテモ尙引續キ開會シタルヲ非難スレトモ之ハ第四
 段ニ讓リ兎ニ角新制施行ノ爲メ三月三十一日ノ外開期ナシトコ
 トヲ御記憶アラシコトヲ望ム、而シテ被告カ四月一日ニ至リ原
 案ヲ施行スル手續ヲナシタルハ區町村會法第八條ニヨリ行ハサル
 ベカラサル當然ノ手續ナレハ之ヲナシタレハトテ原告等人民ノ敢
 テ啄ヲ容ルベキ限ニアラス、之ヲ要スルニ原告等カ町會議員中
 多數ヲ占メ乍ラ打揃フテ欠席シ遂ニ原案施行ノ結果ヲ見ルニ至ラ
 シメタルハ廿二年度ノ議案ヲ是認シタルカ又ハ其議權ヲ放棄シタ
 ルモノニシテ、此原案施行ノ有効ナルハ多言ヲ蒞クサルナリ
 之ヨリ第四段ニ移リ駁論ヲ呈セン尤モ之ハ今村關島両代理人ニ於

テ其詳密ヲ盡ス筈ナレハ當代言人ハ只其大要ヲ述ルニ止ルベシ
 判事曰 然ラバ第三段ノ本訴ハ行政訴訟ナルヤ將々民事訴訟ナルヤ
 ノ論点ハ後ニ廻スヤ

大塚曰 然リ、第三段ト第四段トハ前後ニ顧ヒタシ

第三 行政訴訟トスルモ民事訴訟トスルモ原告ノ請求ハ不當ナリ
 ……則チ駁論

原告代言人ハ甲第十九號証以下ニ於ケル歩合金ノコトヲ論スルニ
 當リ、是レマテ歩合金ヲ行政上ノ用ニ支辨セシコトナキニアラ
 サルモ必ス貿易商人ノ承諾ヲ得ルヲ要シタリト陳供セリ、然レ
 トモ之レハ大ナル誤解ナリ、已ニ承諾ト云ヘハ喚諾者ナカルベ
 カラス、喚諾者アリテ應諾者ナケレハ承諾ノ成立スベキ謂レナ
 シ、畢竟スルニ右等ノコトハ官治事務上ノ便宜トシテ行ヒタルモ

ノニシテ別ニ深カシキ理由アルニハアラサルナリ、然ルニ今原告代理人等カ甲十九號以下ノ參考証ヲ呈供シテ行政官ハ常ニ貿易商人ノ承諾ヲ得テ歩合金ノ經濟ヲナセリト云フハ抑モ又誤解ノ甚キモノナリ、又原告代理人ハ之ニ次テ明治十二年以後戸長カ町費ヲ徴収スル原案ヲ發スルニ方リテハ必スヤ貿易商人總代ノ承諾ヲ經ルコトヲ要シタリト論述シ爲メニ甲第十一號證及第十二號證等ヲ呈供スレトモ、之レ又只今辨論セシコト、全一ノ理由ニテ決シテ彼レ等ノ承諾ヲ得ンカ爲メニナシタルモノニハアラス只タ一片ノ慣例タルニ過キス、即チ今日ニテハ歩合金ハ原告共貿易商人等カ隨意ニ積立ルモノニシテ敢テ戸長等ノ關係シ能ハサルモノナレハ町費補助トシテ八分ハ歩合金ヨリ出サスヤトテ之カ照會ヲナスノ慣例ナリシナリ、而シテ若シ之ヲ否ンテ出サ、ルトキ

ハ本年度ノ如クナルナリ、即チ之ヲ出サ、ルチ以テ昨年ノ營業割トシテ取立テタリ、故ニ戸長ハ彼レ等ノ承諾ノ如何ニ拘ラス取立ヲナスニ於テ顧慮スル所アラサルナリ左レハ之ヲ承諾シタルハトテ敢テ難有トモ思ハス又之ヲ否ミタレハトテ苦ニモ思ハス要スルニ被告ニ於テハ何等ノ頓着モアラサルナリ、而シテ此ノ慣例ハ小野光景カ戸長タリシトキニ於テ行ヒ始メタル者ナリ、右ノ次第ナルカ故ニ曾テ澁谷代理人ノ年々戸長カ共有物件ニ關シ入費議案ヲ發セントスルニハ先ツ貿易商惣代人ノ許可ヲ得ルノ慣例ナルカ被告ハ之ヲ認ムルヤトノ問ニ對シ然ラスト答ヘタルナリ、要スルニ甲第十一號證ノ如キモノハ一片照會ノ書タルニ過キス然ルチ今之ヲ以テ貿易商人様ノ御承諾ヲ得サレハ議案ヲ出スコト能ハサルノ証據ニ供セントスルハ間違ノ尤モ甚キモノナリ又原告代

言人ハ歩合金ハ町費ヲ補助スル恩惠ノ金ナリト云ヘリ、然レトモ是ハ原告ノ臆説ニテ、歩合金自身ハ決シテ町費ヲ補助スルモノニアラス、成程本町外十三ヶ町ニ壹萬圓ノ町費ヲ要スルコトアラシキハ其内八千圓ハ歩合金ヨリ差出ストセハ出スキハ或ハ補助トカ恩惠トカ見ユルナラン然レトモ一旦戸長ノ手ニ入レハ其性質ヲ變スルモノニシテ、營業割、則チ營業割トナルナリ既ニ營業割トシテ戸長ノ手ニ入ル以上ハ補助ノ範圍ハ此ニ脱却スルモノナリ、出ストキハ何ニテモ可ナリ入ルトキニシテ町費支辨ノ目的ナランニハ是レ純然タル町費ニシテ決シテ補助、甚キハ恩惠、ナド、云フコトヲ得サルナリ、又原告代理人ハ本訴ノ物件ハ歩合金ニ起因シ歩合金ヲ以テ買ヒ入レ又ハ作り出シタルモノナレハ本訴ノ物件ハ悉ク原告ノ所有ナリト論辨スレトモ、之ハ

原告ガ一片ノ申立ニテ証據ノ憑ルベキモノナケレハ之ヲ駁スルノ要ヲ見ズ只タ其証據トスル所ノモノハ二十年度ニ於ケル被告ガ失誤ニ出テタル説明書アルノミ併シ此説明書ハ失誤ナルニモ拘ラス寧ロ原告ニ利ナク反テ被告ニ利ナル所多シ、兎ニ角歩合金ニテ買取リシ物件ハ本訴請求財産中ニハ一モ存在セサルナリ、若シ夫レ町會所瓦斯局ノ敷地ヲ買ヒ入レシハ行政官カ官治事務内ノ一事業ニ屬スルモノナリ又學校ノ敷地ヲ無代ニテ下渡シタルハ學制ノ然ラシメタルモノナリ又自身番ノ敷地ハ偶々不用ニ屬シタルヲ以テ町會所ノ付屬地トシテ付與セラレタルモノナリ、然レトモ右等ノモノハ一トシテ貿易商人タル一派ニ對シテ買入下渡若クハ付與シタルニハアラサルナリ蓋シ行政官ノ眼中ニハ只一ノ十四ヶ町團體ノ公利公益アルノミ、則チ當時行政官ノ考ハ右等ノ財産

二百
ク二十年度ノ決議ハ有効ナルモノナリトスルモ則チ被告戸長ハ背
法ナル知事ノ訓令ヲ遵奉スルノ義務ナシトスルモ、然レトモ未
タ以テ二十二年度ニ於ケル原案施行ヲ無効ナリトハナスコト能ハ
ス其所以ハ、二十二年度ニ至リ三度聯合會ヲ開キタルハ原告モ
認ムル所ナラスヤ但シ其結果タル原案施行ニハ異論アルニモセヨ
、已ニ之ヲ認メタル以上ハ單ニ其開會ト云フ丈ニテ二十年度ノ
決議ハ其効力ヲ失フモノナリ、原告代理人ハ頻リニ原案施行ノ
所置ヲ非難スレトモ未タ廿二年度ニ於テ開キタル三度目ノ開會ハ
不當ナリトハ非難セサルナリ、而シテ縣知事ノ所置ハ其監督權
ヲ以テ區町村會法第七條及第八條ニヨリ公益ニ害アリト認メテ實
施見合ノ訓令ヲナシタルニ止マレハ之ヲ以テ不當ナリトハ云フベ
カラス、又次ニ原告代理人ハ臨時會ノ開期ハ三日間ナレハ三月

三十一日ニ開會シタルニ尙引續四月二日迄開會セサルベカラス然
ルニ三月三十一日ノミニテ開會シ四月一日ニ至リ直ニ原案施行ノ
認可ヲ求メタルハ不當ナリ又之ニ反シ通常會ハ四月ニ至ルモ尙之
ヲ開會シ成規通り舉行シ獨リ臨時會ニ限リ三月三十一日丈ニ止メ
成規ノ期日間開會セサルハ甚タ矛盾ノ處置ナリト辨論スレトモ、
、是レ最モ不當ナル申立ナリ、神奈川縣ニテハ本年四月一日ヨ
リ市制ヲ布カル、ノ達ヲ受ケタルコトナレハ四月以後ハ同制度ノ
下ニ立タサルベカラス從テ從來行レタル區町村會ノ如キモノハ三
月三十一日限り凡テ其効力ヲ失フモノナルコトハ市制ノ明文上甚
タ明白ナリ果シテ然ラハ四月二日以後ハ法律上之ヲ開クコトヲ得
サルヤ論ヲ待タズ即チ三月三十一日限り區町村會法ナル行政令ハ
消滅ニ歸スルモノナリ、夫レ然リ戸長ノ三月三十一日限ニテ臨

時町會ヲ閉チタルハ法律上尤モ正當ナル所置ニシテ何人モ非難チ容ルベキニアラス、若シ原告ノ言ノ如ク三月三十一日ヨリ引續キ四月二日マテ開會シタテシニハ其レコソ違法ノ所置ナルベシ、殊ニ三日ナル期限ハ「必ス三日間」ト云フノ意味ヲ含ムモノニアラスシテ只臨時會ハ三日間開クコトヲ得ルト云フノ意味タルニ外ナラサルナリ、免ニ角市制ノ實施ト共ニ區町村會法消滅スル上ハ到底四月ニ涉リテ開會スルコトヲ得サルヤ論ヲ待タサルナリ、如此論シ來ラハ原告ハ又通常會ハ如何トノ質問ヲ起スナラン、通常會ハ臨時會ト異リ乙第二十四號ヲ以テ立証スル如ク四月以後ト雖モ之ヲ開クコトヲ得ルノ法律アルナリ其法律トハ所謂ル明治二十一年內務省令第四號ニシテ其第一條以下第四條マテヲ熟誦スレハ直ニ被告辨駁ノ不當ナラサルコトヲ知ルヲ得ベシ、即チ該

省令ニヨレハ四月以後ニ通常會ヲ開キタリトテ越權トモナラス又不法トモナラサルナリ、若シ通常會ト雖トモ四月以後ハ開クコトヲ得サルモノトスルトキハ到底行政事務ハ之ヲ舉クルコトヲ得ザルベシ、之ヲ要スルニ十四ヶ町聯合町會ノ議員等カ通常會及臨時會ノ議案ヲ議セサリシハ其如何ナル理由ニヨルモノナルカハ之ヲ知ラスト雖モ其議セサリシ結果ハ原案ニ對シテ議決ヲナシタルモノト全一ナルニ歸着スベシ、果シテ然ラハ之ニ對シ認可ヲ求メタルハ決シテ不都合ナル所措ニハアラサルベシ況ヤ之ニ認可ヲ與ヘタル縣知事ノ所置ハ公益ヲ保護スルト云ヘル職權上ヨリ出テタルモノナルニ於テチヤ之ヲシモ非利不法ト云フニ至テハ原告ノ辨論モ又誣妄ノ極ト云ハサルベカラス尙此点ニ付テハ今村關島ノ兩代人ヨリ詳密ナル辨論ヲナス筈ナリ

第四 本訴ハ民事訴訟ナルヤ將タ行政訴訟ナルヤ
 本訴ノ行政訴訟ナルヤ將タ民事訴訟ナルヤヲ論定スルハ第五段ニ
 於テ辨論セント欲スル訴權論ニ大關係ヲ關スルモノナルヲ以テ今
 之ヲ以テ第四段ノ論点トシテ聊カ論スル所アラントス、而シテ
 其之ヲ論スルニハ民事訴訟ノ何物タルヤノコトハ別ニ説明スルヲ
 要セサルベシ只タ行政訴訟ノ本性ヲ明ニシ元ト行政訴訟ナルモノ
 ハ如何ナル場合ニ於テ起ルモノナルヤヲ明ニスレハ可ナリト信ス
 、即チ此コトニシテ明ナルコトヲ得ハ本案訴訟ノ行政訴訟タル
 コトハ直ニ了解シ得ラルベシト信ス、抑モ法律ハ行政官ニ委ス
 ルニ凡ソ行政事務ニ付テハ隨意ニ事ヲ處理スルノ自由ヲ以テセリ
 即チ行政官タルモノカ公益ヲ目的トシテ行政上ノ事務ヲ取扱
 フニ付テハ專ラ處理ノ自由ヲ與フルヲ以テ原則トセリ、若シ如

此ノ自由ニシテ莫ランカ行政事務ハ一日モ之ヲ擧グルヲ得ス此原
 則ノ正當ナル疑ヲ容レサルナリ、而シテ行政官カ行政事務トシ
 テ公益公益ヲ保護スルニ付テハ時ト場合トニ應シテ自由自在ニ運
 動處理スルノ自由ナカルベカラス、而シテ今此自由ヲ働カシメ
 ンニハ迅速ナル主義ニヨラサルベカラス蓋シ迅速ニアラサレハ、
 、機ヲ失シ、變ニ應スルコト能ハス、自由迅速ハ實ニ行政上
 ノ大管鍵ナリ、右等行政官ニ於テ有スル權利ハ法律語ノ所謂專
 理權ナルモノナリ、然レトモ濫リニ行政官ヲシテ專理權ヲ理用
 セシメテ少許ノ成限ヲモ設ケサルトキハ時ニ或ハ民權ヲ傷ヒ時ニ
 或ハ專横ニ流ル、ノ憂ナキヲ保セス、從テ又法律若クハ規則ヲ
 以テ之ヲ束縛スルノ必要ヲ生スベシ法律語ノ所謂ル規定權ナルモ
 ノ是ナリ、而シテ一朝人民カ行政官ノ爲メニ不利益ノ處分ニ逢

フコトアルモ其事柄ニシテ專理權内ニ屬スルモノナルトキハ人民ハ只哀願ヲナスニ止リ訴訟ヲ起スノ權ヲ有セサルナリ、然レトモ事若シ規定權ニ背クモノナルトキハ茲ニ始テ行政訴訟ヲ起スノ權利ヲ生スベシ、然ルニ本件ハ素ト專理權内ノコトニアラサルヲ以テ哀訴哀願ヲナスニ及ハスト雖トモ、己ニ原告ニ於テ被告戸長ノ爲メニ權利ヲ侵害セラレタリトテ二十年度ノ決議ヲ根據トシ區町村會法ヲ利器トシテ喋々論述スル所ヲ見レハ原告ハ被告ヲ以テ規定權ニ背戻スルモノトナスヤ明ナリ、果シテ然ラハ本訴ハ純然タル行政訴訟ニシテ民事訴訟ニアラサルヤ明ナリ、然レトモ原告ノ論点ハ至極曖昧ニシテ或ハ二十年ノ決議ヲ根據トスルモノ、如ク(過日判官ニ答ヘタル所ニヨレハ)或ハ元來原告等貿易商人ノ積立タル歩合金ヲ以テ成立シタル財産ナレハ原告ノ所有ナリ

ト主張スルモノ、如ク(昨日ノ辨論ニ至テハ)被告代言人ハ殆ト其論点ヲ慥ムルニ苦ムナリ、併シ後者ノ論点ニ付テハ別ニ證據モナキコトナレハ被告ハ前者ノ論点即チ二十年度ノ決議ヲ根據トセルモノトシカ見ルコト能ハス、果シテ然ラハ本訴ノ目的ハ知事戸長ノ所置ハ區町村會法ニ抵觸セサルヤ否ヤヲ定ムルニ過キサルベシ、夫レ然リ之ヲシモ行政訴訟ト云ハスシテ何チカ行政訴訟ト云ハシ、右ハ本訴ノ民事訴訟ニアラスシテ行政訴訟ナル所以ノ大要ナリ

第五 行政訴訟トスルモ民事訴訟トスルモ原告ハ訴權ヲ有セス、
、即チ論結

己ニ第四段ニ於テ論述シタル如ク本訴ノ行政訴訟タルコトハ殆ト疑ナキコトナレトモ仮スニ一步ヲ以テシ暫ク民事訴訟トスルモ原

告ハ到底本訴物件ヲ請求スルノ訴權ヲ有スル者ニアラス、其理由、原告ハ、本訴物件ニ對シテ有スル所ノ權利ヲ以テ連帶權トシテ訴フルカ、又ハ本訴物件ヲ以テ共同所有物ナリトシテ訴フルカ、連帶權ヲ以テ訴ヘタルモノトセンカ連帶權ハ互ニ代用スルコトヲ得ルヲ以テ或ハ、併シ原告ノ主意ハ第二ノ点乃チ共同所有物ナレハ之カ引渡ヲ要求スト云フニアルモノ、如シ、抑モ本訴ノ物件ハ可分的ノ物件ナリ然ルニ今原告ハ五百余名ノ人アルニ抱ラス之ヲ措テ單ニ三百三十六名ヲ以テ之カ請求ノ訴ヲ起セリ三百三十六名ニシテ五百餘名ニ於ケル全部ノ物件ヲ請求スルハ共有權上到底ナシ得ラレサルノ業ナリトス、如此論シ來レハ原告ハ或ハ之ヲ以テ不可分的ノモノトナスナラン不可分的ノモノナルカ故ニ三百余名ニテ五百余名ニ於ケル全部ノ財産ヲ請求シタリ

ト云ハ、然レトモ之ハ所謂ル不能ト困難トヲ混合スルモノナリト云ハサルヘカラス、兎ニ角本訴物件ハ可分的ノモノナレハ五百余名ノ財産ヲ三百余名ニテ請求スルハ法理ノ許サ、ル所ナリ、原告ハ貿易商人ト云ヘル名義ニテ訴ヲ起スト云ヘトモ貿易商人ナル名義ノ無形人ニアラサルコトハ勿論ノコトナレハ此名義ヲ以テ訴訟ヲ起スコトヲ得サルハ争フベカラス、抑モ名義ニ何等ノ權利義務アル乎、原告ハ何ノ爲メニ如此コトヲ云ヒ出セシ乎、被告代理人ニハ頓ト解釋シ得サルナリ但シ貿易商人ニシテ別ニ無形人ヲ組織スレハ或ハ訴訟ヲ起スコトヲ得ルナランナレトモ、大谷木代理人ハ訴訟中ニ貿易商ヲ止メタルモノハ尙共有權ヲ有スルモ反之新ニ貿易商ニナリタルモノハ訴權ヲ生セスト云ヘリ、尤モ之ハ後ニ至リ正誤シタレトモ、之ヲ要スルニ共有權ト

シテ訴フルトスルモ元下本訴物件ハ可分的ノモノナレハ五百余名ノ者ノ全部ヲ三百余名ニテ請求スルハ不當ナリ三百余名ハ三百余名ノ分ニ對スルノ外ハ請求スルノ訴權ナシ、左レハトテ本訴物件ハ連帶權ノモノニモアラサレハ三百餘名カ五百餘名ヲ代理スルコトモ又到底能ハサルノ業ナリ、夫レ如此理由ナルヲ以テ本訴ハ之ヲ民事訴訟トスルモ原告ニハ訴權ナキモノナリ、殊ニ本訴物件ハ公會ノ上ニ於テ無代價ニテ讓與スルコトヲ議決シタル所ノ物件ナリ、而シテ其議決ノ精神ハ暫ク措キ、此議決ニ對シテハ貿易商人等ハ第三者ノ地位ニ居ルモノナルコトヲ注意セサルベカラス、普通一私人間ニ於テ議決シタル事柄ト雖トモ第三者ヨリ其議決ヲ利器トシテ請求ヲナスコトヲ得サルハ論ヲ待タサル所ナリ、此ニ一例ヲ取ラン、甲乙相契約シテ曰ク丙若シ之ヲ承

諾スレハ或ル物件ヲ丁ニ讓與スベシト、而シテ此例ニ於テ仮リニ甲ヲ以テ聯合町會若クハ議員トナシ乙ヲ以テ戸長トナシ丙ヲ以テ之ヲ監督スル縣知事若クハ法律規則トナシ丁ヲ以テ本訴原告ノ地位ニアルモノトナサン、而シテ今仮リニ斯ル契約アリトセンニ右等ノ契約ハ丙ノ承諾ナクシテ直ニ其効力ヲ生スベキモノナリヤ多言ヲ待タスシテ其無効力タルコトハ明ナリ、而シテ今仮リニ右ノ甲乙ノ契約ニ對シ丙ノ承諾アリタリトスルモ丁ハ第三者ナリ豈ニ直ニ甲乙ヲ被告人トシテ物件ノ引渡ヲ請求スルノ訴權アラフヤ何トナレハ第三者タル丁ハ右ノ契約ニハ干與シ能ハサル地位ニアルモノナレハナリ、況ヤ本件ハ公會カ貿易商ト云ヘル第三者ニ讓與センコトヲ議決シタルモノナリ即チ貿易商等ハ恩惠ヲ受ケル地位ニ立テルモノナリ其恩惠ヲ受ケルモノカ何條彼是引渡請

求ナド、大袈裟ナルコトヲ云フヲ得ンヤ、要スルニ右等ノ場合ニアリテハ甲等ヨリ一ノ喚諾アリテ第三者タル丁ニ於テ應諾スルニアラサレハ決シテ契約ハ成立セサルナリ然ルニ今原告等ハ之ニ應諾ヲ與ヘスシテ只タ利益ノ点ノミニ對シテ喚諾ヲナシ其喚諾ノミヲ以テ本訴ヲ起セルモノナリ不當モ極レリト云フベキナリ、以上ノ譯合ナルヲ以テ之ヲ公會ノ議決トスルモ又私人間ノ契約トスルモ第三者ノ地位ニアル丁ハ決シテ之カ請求ヲナスコトヲ得サルナリ、右ハ本訴ヲ以テ民事訴訟ト假定シテノ論ナレトモ之ヲ行政訴訟トスルニ於テハ尙更テ原告ハ被告戸長ニ對シテ請求スルノ權利アラサルナリ、而シテ己ニ第四段ニ於テ縷述シタル如ク本訴ハ純然タル行政訴訟ニシテ又此ニ再述スルノ要ヲ見サルナリ、抑モ戸長カ本訴ノ物件ヲ本町外十三ヶ町ナル貿易商人ニ引渡

ス旨ノ議案ヲ發シタルハ其職權上ニ於テナシタルモノニシテ、町會議員ハ區町村會法ニヨリテ組織セラレタルモノニシテ實ニ本町外十三ヶ町人民ノ代表者タリ、而シテ此代表者タル議員カ三度モ召集セラレナガラ之ニ應セサルヨリ遂ニ原案施行ト云ヘル結果ヲ見ルニ至リタルナリ是レ豈ニ原告等カ求メテ爲シタルコトニアラスヤ、兎ニ角本訴物件ヲ第三者タル貿易商人ニ讓與スルコトヲ議決シタルハ町會ナリ、今原告等第三者タル貿易商人ニ於テ町會ノ議事ノ結果タル議決ヲ利器トシテ直ニ被告戸長ニ係リ本訴ヲ起セシハ所謂行政ト人民ノ權利トヲ混同セルモノト云ハサルベカラス、誤レル哉原告、町會議員夫レ自ラニ於テステラ是等議決ニ於テル施行ノ請求ハナシ得ラレサルニ今原告等第三者タルモノニ於テ、人民ノ資格トシテ容喙ヲナストハ誤レルモ又甚

シト云フベシ、已ニ然ラハ今原告等ニ於テ當御廳ニ向ヒ議決ノ執行タル物件ノ引渡ヲ請求スルノ不當タルコト益々明彰ナリ、又民事訴訟トスルモ原告ハ第三者ニシテ未ダ應諾ヲナサズ單ニ喚諾ヲナシタルニ止ルヲ以テ請求ノ訴權ハ万々有セザルモノナリ、上來ノ理由ニヨリ當代言人ハ本訴原告ハ共有物件引渡請求ノ訴權ヲ有スルモノニアラサルコトヲ主張ス尙里リニ一言スベキハ本訴ノ物件ハ實ニ偶然ニ得タル良結果ナルコト之ナリ、最初ハ町費支辨ト云ヘル理事者ノ目的ヨリ成立タル歩合金ニ淵源シタルモノニシテ、其町費支辨ノ結果ハ無慮百餘萬圓ヲ餘スニ至リタルナリ、而シテ貿易商人ハ開港以後幾干ノ變遷アリシヤ、其變遷ハ實ニ夥キモノナラン、本訴ノ物件ハ實ニ安政以來萬ヲ以テ數フル先人ノ恩惠ヨリ成立シタル財産ナリ、而シテ中ニハ荷主

ノ恩惠ニ出テタルモノモ又甚ダ僅少ナラサルベシ、其レハ倍テ置キ今日ハ御承知ノ如ク市制ヲ布カレントスルノ横濱ナリ即チ自治制ヲ行レントスルノ横濱ナリ、而シテ此自治制ヲ布クニ付尤モ必要ナルモノハ基本財産ナリ、原告中ニハ所謂豪商紳士ナルモノ多シ是レ等ノ人ハ自治體ヲ希望セサルヤ殆ト之ヲ希望セサルモノハ一人モナカルベシ、然ルニ今此自治ノ事務ヲ舉クルニハ十分ナル資料アリテ其基本財産ニ充ツベキモノアルニモ拘ラス之ヲ以テ私有財産トナサントシテ訴訟ヲ起スカ如キハ不當モ又甚シト云フベシ、原告中ノ有力者ハ今日ハ堂々タル市會議員ニシテ以前ハ區會議員又ハ町會議員タリシ人々ナリ、其區會議員タリシトキニハ一タヒハ十四ヶ町團體ノ共有物ナリト議決シ乍ラ其後二十年度ニ至リテハ其偶々出テタル議案ヲ奇貨トシテ更ニ貿易商

人己レ等ノ私有ナリト云フニ至テハ被告ハ殆ト其理由ヲ解スルコト能ハサルナリ、今日ハ昔時ト異リ、上ニ正理ヲ重スル法官アリ、法律モ又完全セルコトナレハ、假令ヒ如此不筋ノ訴訟ヲ起スモノアルモ十四ヶ町ノ人民ハ法官法律ヲ信スルノ厚キ、安シテ驚カサレトモ、堂々タル紳士豪商ニシテ甘ンテ如此訴訟ヲ起シ、公益ヲ捨テ、私益ニ趨リ、不筋ノ請求ヲナス、ニ至テハ豈ニ一言ノ難詰ナカルベケンヤ、

今村曰 大抵ハ大塚代言人ニ於テ辨論シ盡シタリト信スレトモ、乍併長キ間ナレハ或ハ其意味ノ貫徹セサル所モ之アラフ、故ニ其点ヲ補充セントス、可成重複ニ涉ラヌ様、原告ノ辨論ニ對シテ極簡單ニ其不當ナル所以ヲ反駁セントス

儲テ第一ニ原告代言人ハ本訴物件ハ本來貿易商人ノ所有ナリ然ル

チ今被告戸長ニ於テ占有セリ故ニ之ヲ引渡ヌベシト云ヘリ、之ヲ換言スレハ被告戸長ニ對シテ占有ノ恢復ヲ求ムルノ意思ニ外ナラス、抑モ本訴十六筆ノ地所ハ多クハ明治四年ヨリ同七八年ノ間マテニ成立セシモノニシテ其明治十年以後ニ成立シタルモノハ僅々三筆ニ過キス、而シテ原告ハ本訴物件成立ノ當時即チ明治四年以來今日ニ至ルマテ凡十七八年間一日タリトモ自ラ之ヲ占有シタルコトアリヤ(一)又自ラ之ヲ所有ナリト稱シテ進退シタルコトアリヤ(二)又本訴物件成立ノ當時即チ明治四年以來凡十七八年間原告貿易商人ノ三百余名ハ本訴物件ヲ保存スルニ付悉皆ノ費用ヲ負擔セシヤ(三)凡ソ是等三ヶノ要点ヲ正フセハ理否自ラ判明スベシ、然ルニ原告ハ明治四年以來爾後今日ニ至ルマテ未ダ曾テ一日タリトモ占有シタルコトナシ(一)、又原告ハ所有者ナリトシテ之ヲ

進退シタルコトアラス(二)……又原告等ニ於テ悉ク本訴物件ヲ保存スルノ費用ヲ支辨シタルコトアラサルナリ(三)……而シテ以上ノ三点ニ付テハ原告ハ未タ何等ノ舉証ヲモナサ、ルナリ左スレハ本訴物件ヲ以テ原告ノ所有ナリト云フハ元ト如何ナル理由ニ基クモノナリヤ殆ト解シ得ラレサルナリ……尙一言スベキハ原告ニ於テ占有回復ノ認求ヲナサンニハ自ラ其占有ヲナシタル事實及ヒ証據ヲ舉示セサルベカラサルコト是ナリ……然ルニ未タ其事實証據ノ舉示セラレタルヲ見ス……又原告ハ口頭ニテハ種々ナルコトヲ稱フレトモ本訴物件ヲ以テ無形人ノモノナリトハ云フコトヲ得ス左レハトテ又組合財産ノ如キモノニモアラス要スルニ一私人ノ財産ナリト見ルモノナラン……然ルニ我國ニテハ一般人民ノ私有財産ニ對シテハ……之ヲ確保スルカ爲メニ土地家屋ノ如キ不動産ニ付テ

ハ地券又ハ臺帖ナルモノ、制アリ……然ルニ本訴物件ニ付五百余名ハ愚カ原告者タル三百余名ニ至ルマテ一名モ地券狀ヲ所持スルモノナシ……又臺帖ニ何某所有ト登記セラレテ所有權ヲ確保セラレシモノモ更ニ之アルヲ知ラス……又明治四五年ノ頃ニ當リ本訴ノ物件ヲ維持スルカ爲メ保存費トシテ積立ヲナシタル貿易商人アリタレハトテ……元ト無形人的ノ組織ニアラサル貿易商ナレハ……苟クモ其反對ノ証據ナキ以上ハ……後ニ同商業ヲ營ミタルノ故チ以テ曾テ同商業者タリシ人ノ財産相續人トナルコトヲ得ベキ理由ナシ……之ヲ要スルニ原告ノ所論ハ徒ラニ口頭ノ陳辨ニ止リ一モ事實証據ノ徴スベキモノナシ

又歩合金ノコトニ付テハ原告代言人ニ於テ喋々論述スル所アレトモ本訴物件中未タ曾テ貿易商人ノ共有金タル歩合金ノ名義ヲ以テ

買入レタルモノハ一モアラサルナリ又歩合金ヲ以テ本訴物件ノ維持費用ニ充テタルモノ一モアラサルナリ、尙此ニ一言スベキハ歩合金ノコトニ付テハ往々混同シ易キガ、荷主ヨリ歩合徴収所ニ取立ル間ハ歩合金ニシテ其時マテハ貿易商人カ勝手ニ作りシモノナリ、然レトモ一旦其徴収ヲ畢ヘ戸長ノ手ニ入りタル上ハ全ク歩合金ノ性質ヲ變シテ公費トナルモノナリ、今公費タル所以ヲ明ニスルニ付最モ見易キ例ヲ擧クレハ即チ營業稅又ハ町割ト稱ヘテ上納シタルモノナルヲ以テ現ニ其金高ヲ以テ町費負擔中ニ算入シ市制第七條ニ依リ公民權ヲ得テ原告等ハ何レモ市會議員ヲ撰擧シタル實例アルニアラズヤ、其他、其公費タルコトハ之ヲ徴収支出ニ照スモ疑ヲ容レサルニアラズヤ、其證據ニハ、乙第二十三號証ヲ以テ確ムルカ如ク歩合金ノ義ハ第一營業割民費金

ト可相稱事ト云ヘル縣達モアリ、又徴収ノ際ハ歩合金ノ名義ヲ相稱候儀差支無之候得共該金ノ義ハ元ヨリ區費ノ爲メ支出スル則チ第一營業割民費金ト相心得可取扱事ト云ヘル指令モアリ、殊ニハ歩合金徴収心得法ト云ヘルモノ、下ニ立テ支配セラレタルモノナレハ、其公費タルコトハ元ヨリ爭フベカラス、然ルニ原告ハ被告ニ於テ歩合金ヲ以テ公費即チ租稅ノ一種ナリト云フニハ宜ク之カ法律ヲ示サ、ルベカラスト唱道スレトモ、之ハ大ナル誤解ニテ明治十二年度以前ニハ區費町費等ノコトニ關シ別ニ之ヲ規定シタル法律アラサリシコトハ何人モ熟知スル所ナリ地方稅ノ如キ又然リ、然ルニ今原告ニ於テ口實ヲ法律云々ニ籍リ論難ヲ試ムルハ徒ニ我法律ノ不備ヲ咎ムルモノタルニ止リ毫モ價値アラサルナリ、已ニ前ニモ陳述シタルカ如ク覺フルカ歩合金ト稱

フルコトニ付テ最モ注意ヲナスベキ要點アリ、即チ該金ノ歩合積立所ニアル間ハ貿易商ノ管掌スル所ナレハ戸長ハ未タ之ニ對シテ干涉ヲナシタルコトナシ然レトモ一旦區費又ハ町費トシテ戸長役場ニ徵収シタル上ハ其性質全ク公費ト變スルヲ以テ戸長ハ當然之ヲ管理シ又之ニ干涉セサルベカラス、而シテ已ニ區費トナリ町費トナリ戸長役場ニ徵収シタル後ニ至リテハ或ハ本訴ノ物件ヲ保存維持スルカ爲メニ支出シタル金錢モ之アラシ、然レトモ貿易商人カ未タ上納ヲナサ、ル以前ニ在ツテ町會ニモ計ラズ戸長ニモ計ラズシテ本訴物件中何ヲ買ヒ入レ何ヲ保存シタルヤ、此等ノ点ハ尤モ注意ヲ要スル所ナリ、以上ノ論駁ニヨリテ本訴物件ニ關シ一モ歩合金ナル私有金ノ性質ヲ以テ買入又ハ維持ヲナシタルコトナキヲ明ニスルニ足レリ

次ニ二十年度ニ於ケル議決ノ効力ニ付テ大塚ノ辨論ヲ補充スベシ、原告代理人ハ乙第一二號證ハ原案施行ノ効力ナシト主張セリ、而シテ二十年度ノ臨時會ト二十年度ノ通常會トヲ混合シ一ハ四月六日マテニ開會シ一ハ三月三十一日ニ止メタリトテ煩リニ論難スレトモ、之ハ畢竟法律ノ誤解ニテ論スルニハ足ラサレ共若シ原告ニシテ神奈川縣區町村會法第二十九條ヲ玩味セハ事甚タ明瞭タラン畢竟原告ノ論難ハ同法同條ノ誤解ニ出テタルモノナラン、而シテ臨時會ノ開期ハ三日以内トアレトモ必スシモ三日間開カサルベカラサルニハアラス單ニ一日ニテモ可ナルナリ殊ニ四月一日ヨリハ市制ノ實施アリテ既往ニ屬スル經費ノコト并ニ物件ノ處分ヲナスコトハ到底ナシ得ラレサルヲ以テ二十一年度ノ議案ハ斷シテ三月三十一日丈ニ止メサルベカラス、然レトモ其二

十二年度ニ於ケル通常會ノ如キハ實ニ内務省令ノアルアリテ市制實施ノ日ヨリ市稅徵收ノ日マテ將來ニ屬スル必要ノ費用ニ充ツルカ爲メ假リニ徵收スルコトヲ得ルノ特例アルヲ以テ之ヲ議スルカ爲メニハ其會議新制施行後乃チ四月以後ニ涉ルモ毫モ差支アラサルナリ、蓋シ原告カ之ヲ同一ニ見タルハ全ク内務省令ト神奈川縣區町村會法第廿九條トヲ誤解シタル結果ナリト云フベシ、次ニ又原告ハ乙第一號証ハ原案施行ヲナシ得ルモノトスルモ右同証ニ於ケル議案ハ物件ノ處分ナルガ故ニ到底原案ノ施行ヲナスコトヲ得ズト主張スレトモ、之ハ畢竟町會ハ經費ノ外評決實行スルノ權ナシト誤解シタルヨリ生シタル臆說ナラン則チ解釋ノ狹隘ヨリ生シタル誤解ナラン、蓋シ乙第十七號證并ニ神奈川縣區町村會法第二十六條及ヒ明治十七年區町村會法第一條ニ依ルモ區町村

公共ノ經濟ニ屬スベキ共有物ニ關スル事件ハ渾テ會議ニ付シ處分スベシト云ヘル規定ハ着々トシテ見ルコトヲ得ベケレハ今該臨時會ニ於テ本訴物件ノ處分ヲナシ且原案施行ノ處分ヲ求メタレハトテ決シテ背法ノ所置ナリトハ認ムルコトヲ得サルナリ、原告ハ又二十年ノ評決ニ對シ其十七日目ニ中止シタルハ違法ナルカ如ク稱フレトモ是又乙第二十一號証ナル區町村會法第十五條ヲ誤解スルヨリ生シタル辨論ナリ、抑モ該法ノ規定ハ通常會ノ評決ハ十五日ヲ經サレハ實施スベカラスト云フニ止リ十六日目ヨリハ必ラス實施セヨト云フノ主意ニハアラサルナリ、言ヲ換ヘテ云ヘハ該法ハ評決ノ報告ヨリ十五日間ハ其實施ヲ禁止シタル禁止法ニシテ更ニ施行ノ日期ヲ命令シタル命令法ニハアラサルナリ、左レハ理事者ノ都合ニヨリテ其施行方ニ遲速アリタレハトテ之ヲ以テ

背法ノ處置トハ論シ難シ殊ニ該法ニハ縣知事カ實施見合ノ訓令ヲ爲スベキ日限ノ規定トテ之レアルニアラサレハ十七日ハ愚カ五十日百日ノ後ニテモ其未タ戸長ニ於テ實施セサル間ハ何時ニテモ中止ノ訓令ヲ發スルコトヲ得ベキナリ況ヤ縣知事ノ職權タル監督權上ニ在リテモ其評決ニシテ公安ヲ害スルモノト認メタル場合ニ於テハ之ヲ中止セシムルノ當然至理ナルニ於テチヤ、要スルニ原告カ十七日目ノ中止ニ對シテ彼是苦情ヲ稱フルハ全く其誤解ヨリ來ル所ノ結果ニシテ、元ヨリ該處分ヲ取消ス丈テノ價值ナキ論辨ナルヤ明カナリ、又原告ハ二十一年度ノ原案執行ノ訓令ニ對シ喋々スル所アレトモ、然レトモ良シヤ其訓令ヲ無効トスルモ其臨時町會ヲ開キ二十年度ノ評決ヲ取消シタリトノ議案ニ對シテハ動スベカラサル事柄ナリ、而シテ又二十二年度ニ於ケル評決

ヲ無効トスルモ其二十年度ニ於ル評決實行ヲ差止メラレタル縣知事ノ訓令ニ對シテハ動スベカラサル事柄ナリ、左レハ二十二年
度ノ評決カ残り居ルト云フモ之カ實施ヲ爲サ、レハ決シテ決議ノ
効果ヲ生セシムベキモノニアラス、然ラハ則チ二十年度ノ評決
ヲ以テ本訴物件ノ所有權ハ原告ニ移リタリト云フコトハナシ得ラ
レサルベシ而シテ今原告ハ此理由ヲ以テ引渡ヲ請求セントス實ニ
不當ノ甚キモノト云ハサルベカラス
上來ノ辨論ニテ大抵ハ其要ヲ盡シタリト信ス、尙其餘ノ点ハ關
島代言人ニ讓ル、今終リニ一言セントスルハ、原告ハ今日ニ
至リ喋々廿二年度ノ原案施行ニ對シ論難スル所アレトモ該原案
ル本訴物件ハ從前ノ如ク本町外十三ヶ町ノ共有物ニ据ヘ置クトノ
主意ナリ、而シテ原告等ハ皆右ノ原案ニ對シテ賛成ヲ表シ居ル

ニアラスヤ……蓋シ原告等ノ町會議員ハ自ラ議會ニ臨ミ言語舉動ヲ以テ之ヲ贊成シタルニハアラサレトモ自ラ協賛ノ議權ヲ拋棄シ戸長カ法律ニ依リテ正當ニ開キタル議會ノ召集ニ應セサリシモノナレハ其行政官ノ爲メニ其ノ原案ヲ議會ニ於テ承認シタルモノト同一ニ見做サレシモ又是非モナキ次第ナリ否ナ行政官ハ實ニ之ヲ同一ニ見做スノ權利アルナリ……而シテ此結果ハ既ニ舊法則チ區町村會法ノ下ニ於テ完結シタルモノナレハ四月一日ニ至リテ之カ原案施行ヲ爲スハ畢竟施行ノ一部ニ屬シ毫末モ非難スベキ点アラサルナリ……已ニ原告中ノ議員ハ自ラ協賛ノ議權ヲ拋棄シ行政官タル戸長ヲシテ議會ニ於テ議案ヲ承認贊成シタル場合ト同一ノ處分權ヲ有セシメナガラ……今更本訴ヲ提起シ自己カ代議士タル本分行爲ニ反スル辨論ヲナスハ實ニ自家撞着ノ甚キモノト云フベシ

關島曰 本件ニ關シテハ……大抵ハ大塚今村ノ兩代言人ヨリ陳辨シ盡シタレトモ尙當代言人ヨリモ少ク辨論スル所アルベシ……可成重複ニ涉ルコトハ省ク積ナレトモ……牽聯關係ノ然ラシムル所時ニ或ハ重複ニ涉ルコトモアルヘシ原告代言人ノ辨論ヲ攻撃センニハ二ケノ區別ニ依ルヲ以テ便宜トス而シテ其區別トハ第一事實上ノ攻撃第二法律上ノ攻撃是ナリ……而シテ其事實ノ点ニ付テハ本訴物件ノ重ナルモノ……即チ町會所ノコトニ付テ專ラ論駁ヲ加ヘントス而テ之ヲ論駁スルニハ尙二ケノ區別ニ依ラントス則チ第一本案物件ノ遠因第二本案物件ノ近因是ナリ而シテ假リニ明治十一年以前ヲ以テ遠因トシ明治十一年以下ヲ以テ近因トナシ之ヲ論述スベシ……其遠因トハ何ゾヤ……曰ク本案ノ重ナル物件タル町會所ハ明治五年中ニアリテ之ヲ建築シタルモノナルヲハ己ニ原告ガ

提出シタル甲第十八號參考書說明書中ニアル如クナリ而シテ其町會所ヲ建築シタルハ何故ニ之ヲナシタルヤト云フノ事實ヲ取調ヘタルニ、該建築ハ縣廳ニ於テ該工事ヲ鹿島岩藏ナルモノニ受負ハシメ同人之レカ工事ヲナシ其受負金ノ如キハ縣廳ヨリ直接ニ此受負人ニ支拂ヒタルノ事實アリ、斯ク縣廳ニ於テ關係シ其金圓ヲ縣廳自ラ支拂ヒタルハ之レ何ニ據リテ然ルヤ則該物件ハ原告貿易商人等ノ共有物ニアラザルガ故ナリ、若シ原告ニ於テ論スル如ク貿易商人ノ共有物ナリトセハ何ソ縣廳ニ於テ之レニ關係スルノ理アルベケンヤ、之レニ據リテ之レヲ見レハ本案ノ物件タル本町外十三ヶ町ノ共有物タルコト掩フベカラサルノ事實ナリトス、又該共有物件ヨリ生スル處ノ収益ハ之レヲ何等ノ費用ニ支出シタルカト云フニ己ニ原告代言人ニ於テ認メタル如ク其収益ハ戶

長ノ下働キヲナスト云ヘル則共有物擔當人ニ於テ之レヲ取立而シテ之レヲ戶長ニ引渡シタリト云ヘリ、戶長ハ其収益ハ何ノ爲メニ使用シタルカト云フニ十四ヶ町ノ共有物ナル物件ノ保存費等ニ之レヲ使用シタルモノナリ、是レ實ニ貿易商人ノ共有物ニ非ルノ明證タリ、若シ十四ヶ町ノ共有ニアラザリセハ其収益ハ貿易商人ノ有ニ歸セザルベカラス蓋シ其然ラザルハ其貿易商人ノ有ニアラザルガ爲メナリ、又原告人が貿易商人ノ共有物ナリトシ引渡ヲ求ムル處ノ物件ノ内女學校敷地及商法學校敷地ノ如キハ決シテ貿易商人ノ共有物ナリト云フヲ得サルノ證據アリ、即チ女學校敷地ノ如キハ明治十三年五月廿九日當時ノ町會議員本日ノ原告人タル原善三郎其他町會議員ニ於テ横濱學校ニ接續スル處ノ元海軍省御用地ノ拂下ゲヲ願ヒタルノ事實アリ、而シテ其拂下ケヲ

願ヒタルヤ原善三郎等ノ人々ニ於テ決シテ一箇人ノ資格ヲ以テ願ヒタルニアラス皆町會議員ノ肩書ヲ以テ願ヒタルモノナリ、而シテ縣廳ハ明治十三年十月七日願ノ趣キヲ聞届ケ其拂下地ハ民有地第一種ニ編入シ其代金四百五十一圓五十錢ハ來ル十五日迄ニ區役所へ上納スベシト指令セリ、而シテ其代金ハ何レヨリ之レヲ支拂ヒタリヤト云フニ乙第十號證即チ明治十五年十四ケ町聯合町會決議書第一項ニアル如ク其購求代金ハ町會ニ於テ之レヲ議決シ町費ヲ以テ之ヲ支拂ヒタルコト明ケシ、若シ之ヲ以テ原告ノ有ナリトセハ別ニ町會ノ決議ヲ經ルニモ及ハサルベク又々町會議員ノ名義ヲ以テ願ヒ出ルニモ及マシ、又瓦斯局ノ如キハ本文高嶋嘉右衛門其他ノ人々ガ私立會社トシテ之レヲ設ケ明治八年七月ニ至リ之レヲ町會所即チ十四ケ町ニ讓渡シタルノ事實アリ、此点

ニ就テハ他ノ代言人ニ於テ未ダ論及セザルヲ以テ茲ニ一言攻撃ヲ加ヘ置カントス、即チ乙第十一號証ニ於ケル明治十六年本町外十三ケ町臨時聯合町會決議書ヲ見レハ其買入代金ハ之レヲ町會ニ於テ議決シ之レカ支拂モ亦町費ヲ以テシタルコト甚々明ナリ、夫レ如此物件ヲ稱シテ貿易商人ノ共有物ナリト云フ妄モ又甚シト云フベシ、仮リニ是等ノ物件ヲ以テ貿易商人ノ共有物ナリトセシ平、何ソ町會ノ與リテ之レヲ議決スルノ道理アルベケンヤ、而シテ其之レニ與リ之レヲ議決シタル所以ノモノハ即十四ケ町共有物ナルガ爲メニ外ナラザルナリ、又原告カ金城鐵壁トスル處ノ甲第一號証第一條ニ左ニ掲グル土地建物ハ自今横濱區本町外十三ケ町共有物件トスル云々トアリ、而シテ右文中最モ必要ナリト見認ムル處ハ自今ノ二字ニアリ、其自今トハ即チ未來ヲ指

シタルモノナルコト明カナリ、而シテ今之レヲ裏面ヨリ考レハ
 忽チ十四ヶ町ノ共有物ナルコトヲ知ルニ足ルベシ、何トナレバ
 其自今ト云フ以前ニアツテ十四ヶ町ノ共有物ナルコトヲ知リ得ベ
 ケレハナリ、而シテ前段ニ論証シタル如ク本案物件ノ重ナル町
 會所ガ十四ヶ町共有物ナルコト明カナル上ハ從テ甲第一號證ニ列
 記シアル町會所附屬地ト云ヘルモノハ相伴フテ又十四ヶ町ノ共有
 物ナルコト明カナリ又若シ原告ノ共有物ナリトセハ何故ニ該物件
 チ取扱フノ職制ヲ町會ニ於テ議セシメタルヤ甚ダ解シ得ラレサル
 ナリ、右ハ事實上ノ攻撃ナルカ之ヨリハ更ニ一步ヲ進メテ法律
 上ノ攻撃ニ論及セントス、原告ハ被告ガ呈出シタル乙第十六號
 十七號布告ハ本訴ノ物件ニ適用スベカラズト論告シタリ、是レ
 將タ何ニ因リテ然ルヤ、原告ハ本案ノ物件ヲ以テ貿易商人ノ共

有物ナリトシテ論セシガ故ニ此ノ法律ノ支配ヲ受クベキニ非スト
 云フナルベシ、然レドモ是レ最早前諸氏ノ論駁セシ所ニヨツテ
 其非チ明カニセリ、又原告ハ乙第六號証即チ明治十一年中大區
 會ニ於テ決議シタル第三條ニ前項ニ掲クル地所及建物ハ買入金員
 ノ出所并ニ性質ニ付テ視レハ一小區ノ共有物ナルヲ以テ其保存維
 時ノ方法ハ小區會ニ附シ議定スベシトアルニ乘シ之ヲ大區會ニ於
 テ議定シタルハ強ガチ之ヲ以テ十四ヶ町ノ共有物ナリト議定シヌ
 ルノ謂ニハ非スト云ヘリ、而モ如何セン該議決ノ主意ニ據レハ
 十四ヶ町ノ共有物ナリト評決シタルコトハ該証ノ第七條第八條ヲ
 通觀シテ明カナリ、又二十年度決議ヲ戶長ガ縣廳ニ報告シタル
 ハ二十一年三月三十日ナリ而シテ縣知事ガ實施見合ヲ達シタルハ
 四月十五日ナルニ依リ町村會法細則ニ戻リタル云々ト云フモ決シ

然ルニ非ラザルナリ、其所以ハ該報告及執行ノ期日ヲ定メタルハ該期限内ハ實行シ得サルコトヲ定メタルモノニシテ其期日後實行スル期限ヲ定メタルモノナリ故ニ該期日後ハ理事者即チ戸長ニ於テ之レガ實行ニ着手スル前ニ在ツテ障礙ナキ限リハ何時モ之レヲ實行シ得ベケレトモ如何セン之レガ着手前ニ在テ縣知事ヨリ訓令ヲ受ケタル上ハ其職掌トシテ之ヲ如何トモスルコト能ハザルナリ、又二十一年度ノ臨時町會ニ於テ再三議員ヲ招集シタル末二十年三月三十日猶前ノ訓令ニヨリ議會ヲ開クコトヲ議員諸氏へ通知シ及ヒ三十一日議會ヲ開キタルニ出席議員ノ少數ナルヨリ終ニ議會ヲ開ク能ハスシテ四月一日ヨリハ新制即チ市町村制ヲ施行スルノ日ニ當テ舊法ノ區町村會法等ハ凡テ廢止セラレタルニヨリ議決シタルト同一ノ結果ヲ得タル其決議ハ施行ノ一部分ノ認可ヲ經

タルモノナレバ之レヲ以テ違法ナリ不法ナリト云フコトヲ得ザルナリ、又原告代言人ガ町會ハ經費ヲ議スルノ權アルモ物件ノ處分ヲ議スルノ權ナシト論告スルハ前後撞着ノ論ナリ、現ニ二十一年度ノ評決ニ於テハ其所分チ議了シタルニ非ズヤ而テ其決議ノ如キモ二十一年ト均シク認可ヲ乞ヒタルニ非ズヤ故ニ若シモ處分ヲ議スルノ權ナシトセバ二十一年度ノ議決ハ均シク二十年度ノ決議ト共ニ無効ナリト云ハザルベカラス、然ルニ二十年度ノ決議ヲ有効ナリト二十一年度ノ決議ハ無効ナリト云フハ是レ即原告代言人ガ自ラノ論告ヲ傷クルモノナリト云フベシ、又當代言人ガ云フ處ノ遠因ニ就テ前諸氏已ニ之ヲ論シタルモ其近因ナル十一年以後ニ於テ十四ヶ町聯合町會ガ本訴物件ノ保存費ヲ年々歳々引續キ議了シ來リ町費ヲ以テ之レヲ維持シ來リタルハ是レ即チ十四ヶ町ノ

共有物ナルコトヲ証スルニ餘リアルモノトス、以上ノ理由ナルヲ以テ原告ガ引渡ヲ求ムル物件ハ徹頭徹尾原告ノ所有ナリト云フヲ得ザルニ付キ之レガ引渡ヲ求ムルノ權利ナク被告ハ之ヲ甘諾スルノ理由ナシト主張スルナリ、(此他尙陳辨スル所少カラザリシト雖モ餘リ必要トモ思ハレサレハ省略ニ付シタリ)

大谷木曰 被告代理人ノ辯論ハ之ヲ一括シテ駁撃スヘシ、(倍テ本訴ノ財産ハ一大區ノモノカ又一小區ノモノカ抑モ又貿易商人ノモノナルカ、蓋シ三者ノ中必ス其一ニ居ラサルベカラス、然ルニ一大區ハ明治十一年ノ會議ニ於テ共有ニアラサルコトヲ決議シ以テ之ヲ一小區ニ引渡シタリ而シテ一小區モ又同二十年ノ會議ニ於テ共有ニアラサルコトヲ確認シ以テ之ヲ貿易商人ニ引渡スヘシト決議シタリ、果シテ然ラハ本訴ノ物件ハ之ヲ貿易商人ノ所有

ト昇ルニ於テ何ノ差支カ之アラソ、即チ本訴物件ハ貿易商人ヲ措テ他ニ所有者ナキモノナレハ被告ニ於テ其請求ヲ拒ミ引渡ヲ肯セサルハ甚タ不道理ノ所措ナリト信ス、被告ハ常ニ一小區即チ十四ヶ町ノ共有ナリト喋々スレトモ未タ之カ明証ヲ示サス只タ僅ニ乙第六號証ヲ根據トスルニ過キス、然レトモ被告代理人ハ全ク之ヲ誤解セルナリ、尤モ此点ニ關シテハ前回來詳ニ陳述セシヲ以テ茲ニ再ヒ論駁ノ勞ヲ執ラス、此他被告代理人ニ於テハ尙、歩合金ハ租税ナリ、歩合金ノコトハ縣廳若クハ區長ニ於テ取扱ヒタリ、故ニ本訴ノ物件ハ貿易商人等一私人ノ所有ニアラス、ナド、唱道シ頻リニ論辨スル所アリト雖モ此論辨タル或ハ事實反駁論ノ一部トハナリ得ベキモ之ヲ以テ一小區即チ本町外十三ヶ町ノ所有ナリトノ議論ヲ確ムルノ基本トハナシ得ベカラサル

ベシ……次ニハ決議ノ効力ニ付テ論駁ヲ與フベシ……即チ二十年
 度ノ決議ノ効力……此効力論ニ付テハ被告代理人ノ所論皆同轍ニ
 出テタリ……被告代理人等ハ……二十年度ノ決議ハ効力ヲ有セス
 瑕瑾アルノ決議ナリ大區ノ所有ニ歸スヘキモノモ其中ニ包含セリ
 ト云ヘリ……然レトモ大區ハ既ニ自己ノ所有ニアラストシテ引渡
 シタルニアラスヤ故ニ之等ハ毫モ原告ノ關スル所ニアラス……又
 被告代理人ハ二十年度ノ議案中ヘ加ヘタル物件中貿易商人ヘ引渡
 ス可ラサルモノアルヲ以テ二十一年度ノ原案中ヘハ取除キタリト
 主張セリ……然レトモ決シテ左ルコトアラス故ニ乙第六號證乙第
 一號証ニ依リテ甲第一號證ノ通り貿易商人ノモノトスルモ毫モ公
 益ニ差支アルヲ見ス……又被告代理人ハ本訴ノ物件ハ凡テ公益ノ
 爲メニスルノ目的ニテ買入レタリ故ニ一私人タル貿易商人ヘ引渡

スヲ得スト云ヘリ……然レトモ被告代理人ノ所謂公益ナル區域ハ
 大區カ小區カ蓋シ横濱市今般ノ公共ノ用ニ供スル目的ナラン……
 左スレハ之ヲ以テ一大區全般ノ共有物ナリト論スルハ格別……單
 ニ一小區ノ共有物ナリト論スルハ少ク見當違ニアラサル耶……又
 被告代理人ハ乙第一號証ノ臨時會ヲ開キタル爲メ二十年度ノ決議
 ハ消滅ニ歸シ其効力ヲ失ヘリト云ヘリ……然レトモ其理由分明ナ
 ラス實以テ奇怪ノ申分ナリ蓋シ廿一年度ノ臨時會ニ原告等カ出席
 セサリシハ議會其者ヲ不法ト見認タルカ故ナリ若シ之レニ出席シ
 タランニハ不法ノ議會ヲ適法ト見認タルト同一ノ結果ヲ見ルニ至
 ルベシ是原告等カ出席セサリシ所以ナリ……良シ仮リニ廿一年度
 ノ議會ハ適法ノモノナリトスルモ爲メニ廿年度ノ決議ハ効力ヲ失
 スベキモノニアラス何トナレハ乙第一號証ノ議案ニ對シテハ尙二

三日間開會スヘキ性質ノモノナルニ僅ニ一日ニシテ閉會シタレハナリ、又被告代言人ハ知事カ原案ヲ認可シ得ル場合ハ經費ノ支出徴収等ニ關スル二三ノ場合ノ外ハ能ハスト云ヒシニ對シテ種々駁論ヲナセリ、然レトモ元來原案ヲ認可スルト云フコトハ非常ノコトニシテ屢々行フヘキ筋合ノモノニアラス又實際爲サ、ル可ラサル場合ニ非レハ行フコトヲ得サルナリ然ルニ今讎テ本案ノ場合ヲ見ルニ決シテ斯ル場合ニ非ス尙ホ議セシムヘキ時日アリシニ閉會シタルモノナレハ決シテ適法トハ云フコトヲ得ス、又二十年度ノ決議ノ有効ナリト云フコトニ付テハ五ヶノ理由ヲ以テ辨論セシニ被告ハ僅カニ二ヶノ理由ニ對シテ攻撃ヲ試ミシノミ、而シテ其駁論中決議ノ認可ヲ乞フハ神奈川県ノ特例ナリ又又十五日ヲ經過スルモ實施前ナレハ差支ナシト云フト雖モ、元來十七年

第十四號布告則チ區町村會法ニハ實施ノ期限ナク只報告ニ止マルモノナレハ神奈川県ニ於テモ十五日ヲ經過スレハ勿論普通ナル區町村會法ニ從ヒ直チニ實施ノ責任ヲ生スルモノト謂ハサルヲ得ス、次ニハ訴權論ニ移リテ論駁セン、原告代言人等ハ初メヨリ訴權ノコトハ本案ニ關係ナシト思量セリ、然レモ被告ハ四ヶノ理由ヲ以テ論難セシニヨリ自分モ被告ノ理由ニ就テ一言スベシ第一被告ハ原告ノ人員ニ付テ貿易商人全体ニテ訴求スルカ、今ノ原告ノ人員ナレハ其部分丈ケテ請求スルハ格別、全部ノ請求ハ五百人相揃ハサル可カラズト云ヘリ、然レトモ是レ到底ナシ能ハサルコトニテ當代言人ハ假令一人ニテモ訴求スルコトヲ得ルモノト信スルナリ、第二被告代言人ハ讓與ノ議決ナルカ故ニ受贈者ヨリ訴求スルコトヲ得サルモノナリト云ヘリ、然レモ決シテ

讓與ニアラス只引渡スヘキノ性質ヲ有スルカ故ニ引渡スベシトノ
 處分ヲ定メタル迄ナリ、而シテ其之ヲ定メタルハ聯合町會ナリ
 故ニ決議ノ効力ノ有無ニ關セス自己ノモノトシテ請求スルコトヲ
 得ルモノナリ、又第三決議ノ執行ニ付テハ人民ヨリ請求スルヲ
 得スト云ヘリ、然レモ己ニ引渡スベシト決議シタル以上ハ受取
 ルベキ正當ノ人ヨリ請求スルニ於テ何ノ不都合カ之アラン、
 澁谷曰 大塚代言人ハ本訴物件ノ性質沿革及法律上ヨリ戸長ニ管理
 權アリト申立タリ、然レモ是レ大ニ不當ナル申立ナリ依テ今之
 ニ對シテ二三ノ駁論ヲ加ヘントス、而シテ今本訴ノ物件ニ對シ
 戸長之ヲ管理スルノ權アルヤ否ヤヲ定メノニハ宜ク先ツ本訴物件
 ノ性質ヲ解剖シ公ノ共有物ナリヤ將々私ノ共有物ナリヤノ問題ヲ
 攻究セサルベカラス、原告代言人ハ之ヲ以テ私ノ共有物ナリト

シテ民法ノ支配ヲ受クベキモノト確信セリ、然ルニ被告代言人
 ハ全ク之ニ反シ之ヲ以テ公ノ共有物ナリトシテ公法即チ行政法ノ
 支配ヲ受クベキモノト抗論セリ、然レトモ本訴物件ノ私ノ共有
 物タル所以ハ之ヲ其性質ニ徵スルモ又之ヲ其沿革ニ求ムルモ甚々
 明白ニシテ一点ノ疑ヲ容ルベキモノアルヲ見ス、否ナ反テ被告
 カ之ヲ自認シタルノ証蹟ハ歴々トシテ徵スルコトヲ得ベシ、故
 ニ當代言人ハ之カ駁論ハ本訴物件ハ財産自体ノ性質上民法ノ支配
 ヲ受クベキ私ノ共有物ナリトノ一言ニテ足レリト信ス被告代言人
 ニシテ試ニ第十八號證ヲ熟讀セハ蓋シ思半ニ過クルモノアラン則
 チ同證ニ於ケル二十年度ノ議案及説明書ヲ一見セハ其性質上貿易
 商人、私ノ共有物ナルコトハ甚々明瞭ナルニアラスヤ、然ル
 ニ被告代言人ハ今日ニ至リ右ハ錯誤ニ出テタルモノニシテ取テ以

テ証トスルニ足ラスト主張スレトモ、是レハ實ニ驚キ入りタル
 勝手氣儘ナル申立ニシテ元ヨリ取ルニ足ラサルナリ、何トナレ
 ハ右ノ説明書タル爾來今日ニ至ルマテ其錯誤タルノ故ヲ以テ取消
 シタルコトモナケレハ又之ニ對スル被告ノ所論ヲ確ムベキ反証ト
 テモ之アラサレハナリ、果シテ然ラハ該説明書ハ今日ニ至ルモ
 依然其効力ヲ有スルモノト云ハザルベカラス即チ被告ハ今尙之ヲ
 認メ居ルモノト云ハサルベカラス、既ニ之ヲ認メタリトスレハ
 原告代言人ハ敢テ之ニ對シテハ多言ヲ須ヒザルベシ、況ヤ曾テ
 開陳シタル町會議事録ニ於ケル五番議員島田ノ建議ニ對スル條下
 ナ讀過スレハ其一場ノ遁辭ニ過キサレコト最モ明白ナルニ於テチ
 ヤ、以上ハ性質沿革ニ付テノ駁論ナルカ被告代言人ハ尙他ニ一
 ノ法律上管理權アリトノ理由ヲ開陳セルヲ以テ聊カ之カ駁論ヲナ

シ置クベシ、而シテ被告代言人ハ此理由ヲ支フルカ爲メニ乙第
 十八號證及第二十二號證ヲ呈供セリ、然レトモ今是等ノモノヲ
 以テ法律上管理權ノ存在ヲ主張スルハ頗ル法理ヲ誤解セルモノト
 云フベシ其理由タル元來行政官吏ノ管理スルヲ得ル共有物トハ
 明治九年太政官第三百三十號ノ布告十一年第二十二號布告及區町村
 會法ノ範圍内ニ在ルモノニ限リ本訴ノ物件ノ如キハ固ヨリ右等ノ
 範圍ニ入ルベキニアラザレハナリ又被告代言人ハ内務省令訓令等
 ナ引テ論スル處アルモ省令訓令ヲ以テ法律ヲ左右シ能ハサルコトハ
 言ヲ俟タサルコトナレハ敢テ辨駁ノ必要ヲ視サルナリ其他ハ大谷木
 代言人ニ於テ陳述シ盡シタルヲ以テ又此ニ贅セス、畢リニ臨ン
 テ一言スベキハ訴權論ノ反駁ナリ、尤モ訴權論ハ全體ヨリ云ヘ
 ハ駁撃スベキ所以ノモノニアラサレトモ折角ノ熱心ヲ無ニスルモ

如何ナレハ聊カ論難スル所アルベシ、則チ凡ソ共有物件處理上ノコトニ付キ苟クモ違法ノ所業ヲ働クモノアラソニハ敢テ全體ノ合意ヲ要セス一人ニテモ之カ救正策ヲ講シテ可ナリト云フニアリ大塚曰 原告代言人ノ論駁ハ重復ニ涉ルヲ以テ一括シテ反駁セン、大谷木代言人ハ十一年ノ大區會ニ於テハ一小區ニ引渡ベシト議決シ、又廿年度ニ於テハ十四ヶ町貿易商人ニ引渡スヘシト議決セシヲ以テ貿易商人ノ所有ナリト云ヘトモ、右ハ已ニ廿一年度ノ臨時會ニ依テ消滅シ更ニ十四ヶ町ノ共有財産ナリト決シタルモノナリ、然ルヲ大谷木代言人ハ十四ヶ町ノ共有トナスヘキ明証ナシトハ甚々奇怪ノ申立ト云ハサル可ラス、況ンヤ使用収益共ニ戸長ニ於テ之ヲ管理シ其収益ハ町費ニ充ルノ實相アルニ於テチヤ、又十四ヶ町丈ニテハ公益ト云フヲ得サルカ如キ論駁モアリ

シカ、何故ニ十四ヶ町ニ公益ナシト云フヤ、十四ヶ町モ一箇ノ無形人ナリ十四ヶ町ニ公共ノ利益ナシトハ甚々解セラレサルホリ、又二十年度ノ決議ハ有効ナル故二十一年度ノ會議ハ違法ノ議會ナリ故ニ出席ヲ要セスト主張スレトモ、町費ヲ議スルカ爲メニハ出席スヘキ責任アルニ非スヤ故ニ是等ニ對シテハ又反駁ノ勞ヲ取ラズ、又十四ヶ町ノ聯合町會ハ本訴物件ノ如キ共有物件ニ處分スルヲ得ルト主張スレトモ、元來區町村會法設定ノ當時ニ在テハ町村ニ本訴物件ノ如キ百有餘萬圓ノ公共ノ財産アルトモ思料セス、若シ當時斯ル財産アリト思料セハ決シテ幼稚ノ町村會ニ其處分ヲ委任セサルヤ明ナリ、良シ之レヲ委任スルモ二十年度決議ノ如キ場合ニ在テハ監督官ヲシテ之レガ執行ヲ差止ムルモ認可ヲ與フルモ隨意ニ干涉セシムルノ精神ナルヤ明ナリ、故ニ

區町村會法第六七條中ニ明文ナキモ明カニ該條ニ前陳ノ特權ヲ包含シアルト云フテ可ナリ、故ニ原告代理人ノ論駁ハ一モ價値アルモノナシ、

今村曰 最早重複ニ涉ルノ嫌ヒアレハ當代言人ハ別ニ申立ヲナサス關嶋曰 大塚代言人ノ辨駁ヲ一言補充セン、區町村會法ニハ實施ノ期限ナシ故ニ十五日ナル神奈川縣ノ特例ヲ過クレハ直チニ實施ノ責任アリ故ニ知事ノ訓令ハ無効ナリ、ト主張スレトモ之ハ前段ニモ述ヘタル如ク該期日タル決シテ實施ヲナスヘシト命シタルニアラサレハ大谷木代言人ノ論駁ハ採ルニ足ラス、又二十年度ノ説明書ニ反對ナリトノ論駁アレトモ、之ハ廿一年度ノ上申中ニ据置云々トアルヲ以テ反證トスルニ足ラン、又大谷木代言人ハ處分權ニ對シテハ議スルヲ得スト主張スレトモ、二十年度ノ

議決ハ處分權ニ關スルニ非スヤ、又廿一年度ノ原案施行認可ハ無効ナリト主張スレトモ、二十年度ニ於テモ亦認可ヲ乞ヒタルニアラス二十年度ノ認可ヲ無効トセハ該決議モ無効ト云ハサル可ラス二十年度ノ認可ヲ有効ナリトセハ廿一年度ニ原案施行ノ認可ヲ乞ヒタルモ正當ト云ハサル可ラス其他ハ重複ニ涉ルノ恐アレハ最早是ヲ以テ終結トナスベシ

判事曰 今日ニ在テハ歩合金ハ如何ナル取扱ナルヤ

澁谷曰 十年四月以來歩合總代ニ於テ之ヲ管理シ戸長ハ一切之ニ關

セス

大塚曰 然リ十年以來ハ官ノ手ヲ離レ歩合總代ニ於テ取扱フモノナリ、則チ戸長ハ只町費ニ入用ノ分丈ケ歩合金ヨリ支出セシムルモノナリ

今村曰 歩合ノ名ノ存スル間ハ戸長ニ於テハ關セサルナリ
判事曰 本案ノ審問ハ是ニテ終結スベシ、併シ重大ノ事件ナルカ
故ニ更ニ召喚スルコトアルモ計ラレス、裁判ハ追テ達スベシ

午後五時四十分閉廷

法學卒業生 花井卓藏筆記

裁判言渡書寫

明治廿二年行政第壹號

裁判言渡書

原告人横濱貿易商

小野光景

外三百三十五名

右代言人

大谷木備一郎

澁谷健爾

被告人元横濱區本町外十三ヶ

町戸長

津田輝坦

右代言人

大塚成吉

今村角太郎

關島宇兵衛

右小野光景外三百三十五名ヨリ津田輝坦ニ係ル共有物引渡請求ノ訴訟ヲ審理シ双方代言人ノ陳述ヲ聽クニ
原告代言人陳述ノ要旨ハ本訴ノ物件ハ悉ク原告等貿易商ノ積立ニ係ル歩合金ニ起因スルモノナレハ固ト原告等貿易商ノ共有物ナリ然ルニ明治四年中町村ニ大小區劃ヲ設ケ舊來ノ名主年寄ヲ廢シ區戶長ヲ置クニ當リ行政事務ト町村限リノ事務トヲ混同シ町會所歩合金并ニ其他貿易商ノ共有物ニ係ル事務ノ如キモ區戶長ノ掌握スル所トナリ共維持處分方法ヲ定ムルニ區會ノ議決ヲ要スルニ至レリ然レモ固ト

右歩合金并ニ歩合金ヲ以テ購求シタル貿易商ノ共有物處分方法等ヲ大區會ノ評決ニ任スルノ理由ナキニヨリ明治十一年ノ大區會ニ於テ町會所及町會所附屬地瓦斯局等ハ大區會ノ關係ス可キモノニ非ラス小區會即チ本町外十三ヶ町ニ於テ議定セシムルヲ當然ナリト議決セリ其後一昨廿年ニ至リ右明治十一年ノ大區會決議ニ基ツキ本町外十三ヶ町聯合町會ニ於テ右共有物處分案ヲ提出シタル處甲第一號ノ如ク評決ノ結果本訴ノ物件ハ本町外十三ヶ町貿易商ノ共有物ナルヲ以テ之ヲ貿易商總代人ヘ引渡ス可ニ議決セリ故ニ被告ハ今日本訴ノ物件ヲ本町外十三ヶ町ノ共有物ナリトシテ管理ス可キモノニ非ラサルニヨリ被告ハ目下故ナク之ヲ占有スルモノナリ依テ被告戶長ニ對シ之カ引渡ヲ請求スルト云フニアリ其請求物件左ノ如シ
一本町壹丁目五番地町會所敷地建家及同町六番地町會所火除地

二境町壹丁目壹番地辨天通壹丁目十三番地住吉町六丁目五十五番地
 相生町六丁目八十四番地太田町五丁目八十四番地及建家港町五丁
 目二十三番地及建家花咲町五丁目六十九番地宮崎町廿一番地及建
 家戸部町壹丁目九番地以上九項町會所附屬地ト稱セルモノ
 三北仲通六丁目七十五番地女學校敷地同町七十六番地商法學校敷地
 四花咲町五丁目七十一番地瓦斯局敷地及建家
 五老松町十一番地十全醫院敷地及付屬地師範學校敷地并ニ敷地ト同
 性質ノ建物
 被告代官人陳述ノ要旨ハ元來本訴ノ物件ハ本町外十三ヶ町ノ公費ヨ
 リ成立チタルモノニシテ原告等一私人ノ積立ニ係ル歩合金ニ起因ス
 ルモノニ非ラス抑モ歩合金ニ起因スルモノニ非ス抑モ歩合金ノ性質
 マル其初ハ一種ノ租稅ニシテ萬延元年中町費ヲ支辨スルノ目的ヲ以

テ其徴収ヲ初メタルモノナリ故ニ其取扱ヒ他ノ稅金ト共ニ常ニ官ノ
 掌トル所ナリシ本訴ノ物件ハ悉ク此公費金ヲ以テ買入レ又ハ建設シ
 タルモノナレハ本町外十三ヶ町ノ公共財產ニシテ原告等貿易商ノ私
 有物ニ非ラス殊ニ明治十一年ノ大區會ノ決議ニ基ツキ本町外十三ヶ
 町ニ引渡サレタル以來被告ハ之ヲ十四ヶ町ノ共有財產トシテ管理ス
 ルモノナレハ被告カ今日之ヲ管理スルハ法律ニヨリ職務上之ヲ爲ス
 モノニシテ故ナク之ヲ占有スルモノニ非ス然ルニ原告ハ明治廿年度
 本町外十三ヶ町聯合町會ノ評決ニヨリ本訴物件ノ引渡ヲ請求スルト
 雖モ右評決ハ乙一二號証ノ如ク其後廿一年度ノ臨時聯合町會ニ於テ
 本訴ノ物件ハ從前ノ通本町外十三ヶ町ノ共有ニ据置クトノ原案ヲ出
 シタル末其筋ノ認可ヲ得テ原案執行ヲ爲シタルモノナリ故ニ今日ニ
 在テハ被告ハ法律上原告ノ請求ニ應スルヲ能ハス仮リニ甲一號ノ評

決ハ今日猶効力ヲ有スルモノトスルモ右評決ハ單ニ本町外十三ヶ町
 聯合町會ノ評決タルニ止リ未タ原告ニ對シ物件引渡ノ申入ヲ爲シタ
 ルモノニ非サレハ原告ハ之ヲ以テ本訴物件ノ引渡ヲ求ムルノ權利ヲ
 有セス且現時貿易商ノ數ハ五百有余名ナルニ本訴ノ原告ハ三百余名
 ニ過キス其一部分ノ人タル原告等ノミニテハ其全体ノ共有物ナリト
 云フ本訴物件ノ引渡ヲ求ムル訴權ナキモノナリ依テ原告ノ請求ニハ
 應シ難シト云フニアリ

依テ證據ヲ審閱シ双方代言人ノ辨論ヲ聽キ左ノ三點ニ分ツテ説明セ
 ントス

一原告等一部ノ貿易商ニ訴權アリヤ否

二本訴ノ物件ハ固ト原告等貿易商ノ共有物ナルヤ否

三原告ハ甲第一號証ニヨリ本訴物件ノ引渡ヲ受ク可キ權利ヲ得タル

ヤ否

第一點被告ハ原告カ貿易商ノ一部分ナルカ爲メ訴權ヲ有セスト主唱
 スルト雖モ原告ハ本訴ノ物件上ニ他ノ貿易商ト共ニ享受ス可キ不分
 ノ共有權アリトシテ本訴物件引渡ヲ請求スルモノナリ故ニ果シテ原
 告等ニ共有權アリトスルキハ原告等ハ自己ノ權利ヲ伸暢スルモノナ
 レハ其一部ノ共有者タル他ノ貿易商カ本訴ニ加ハラサルモ之カ爲メ
 原告等ニ訴權ナシト云フノ理アルヲ見ス依テ被告ハ之ヲ主唱シテ本
 訴ヲ却クルヲ得ザルモノトス

第二點原告ハ本訴ノ物件ハ悉ク原告等貿易商ノ積立ニ係ル歩合金ニ
 起因スルモノナルニヨリ原告等貿易商ノ共有物ナリト主唱ス依テ此
 點ニ於テ本訴物件ノ起原及來歴ヲ明カニセントス

第一本訴物件ノ起原

本訴物件ノ買入又ハ建設ノ元資ニ充テタル金員中ニハ元ト貿易商ノ
 歩合金トシテ出金シタル金額其多キニ居ルトハ事實上争フ可ラサル
 所ナルカ如シ然レモ本訴物件元資金ノ多額元ト貿易商ノ歩合金トシ
 テ出金シタルモノヨリ成立チタリト云フヲ以テ直ニ本訴ノ物件ハ悉
 シ原告等貿易商ノ共有物ナリト速断ス可ラス尙ホ左ノ數項ヲ論究ス
 ルヲ必要ナリトス

- 一 歩合金ノ性質
- 二 本訴物件ノ元資金
- 三 本訴物件ノ性質并ニ其建設ノ目的
- 四 歩合金ノ性質

今日ノ歩合金ハ純然タル原告等貿易商一私人ノ積立金ナルモ本訴物
 件建設以前ノ歩合金ハ其性質漠然タルモノニシテ殊ニ書類ノ之ヲ徵

ス可キモノ稀ナルカ爲メ之カ性質ヲ定ムルヲ極メテ困難ナリト雖モ
 今本訴ニ顯ハレタル事實及證據ニ照スニ其性質ハ原告代人ノ主唱
 スル如キ純然タル貿易商私有ノ積立金ニ非サルナリ元來歩合金ハ横
 濱開港ノ當初町費支辨ノ目的ヲ以テ之カ徵収ヲ初メタルモノナルコ
 ハ原告ガ甲第十九號參考証ニ照スモ争フ可ラサル事實ナリトス果シ
 テ歩合金ハ其初メ町費ヲ支辨スル爲メ之ヲ徵収シタルモノトスルモ
 ハ其性質今日ノ町村税又ハ從來ノ協議費ト等シク一種ノ租税ナリト
 云ハサルヘカラス只タ少シク之ト異ナル如ク見ユル所ハ租税ハ支出
 ノ多少ニヨリ徵収金額ヲ定ムルヲ常トスル爲メ多クノ剰余ヲ生ス可
 キモノニ非サルモ歩合金ハ貿易商ノ賣買金額ヲ標準トシ一定ノ割合
 ヲ徵収シタル爲メ多クノ剰余ヲ生シタルノ一事ナリトス而シテ此剰
 余金ハ則チ貿易商ノ私有金タルニ非ラサルヤノ疑ナキ能ハスト雖モ

其徴収ノ目的元ト町費支辨ニ在リ又其剰余モ本町外十三ヶ町ノ公共ノ事業ニ費消スル目的ヲ以テ積立置キタルモノナレハ爲メニ公費金タルノ性質ヲ變シタルモノト云フ可ラス是レ蓋シ其取扱モ明治ノ初年以來常ニ官吏ノ掌トル所タリシ所以ナル可シ然ラハ何故ニ獨リ貿易商ニ於テ多クノ町費ヲ支辨シタルヤ又此歩合金ノ支拂ニ關シ重立タル貿易商カ多少ノ相談ヲ受ケ居タル如キ形蹟アルハ何故ナルヤヲ探究スルニ開港ノ當時本町外十三ヶ町ニ住居シ町費ヲ負擔ス可キモノハ獨リ貿易商アルノミ他ニ之ヲ負擔ス可キ住民アルナシ是レ獨リ貿易商ニ於テ町費ヲ負擔シタル所以ナル可シ又横濱ハ新開ノ地ニシテ其隆盛ヲ計ル爲メ歩合金ノ如キ特別ノ租稅ヲ設ケ其費用ヲ支辨シタル爲メ多少今日ノ自治体ノ如キ形狀アルヲ以テ其公民トモ稱ス可キ貿易商カ其町費ノ支拂ニ付多少ノ相談ヲ受ケタルモ亦故ナキニ

非サル可シ此時ニ當テ本町外十三ヶ町ノ人民ハ殆ント皆貿易商ナリ貿易商ハ即チ本町外十三ヶ町ノ人民ナリト云フヲ得ヘキカ故ニ貿易商カ町費ヲ支辨スル爲メ歩合金ヲ出金シ之ヲ積立置キタルハ全ク自己ノ爲メニスル如キ觀ヲ爲シタルナル可シト雖モ本町外十三ヶ町ハ貿易商ノ私有物ニ非サルヲ論チ埃ヲザレハ之カ維持改良ニ必要ナル町費トシテ積立置キタル金員ハ之ヲ貿易商ノ私有物ナリト云フヲ得サルナリ又今日ノ歩合金ハ甲第十八號證ニモ在ル如ク區町村法編制後其性質ヲ變更シ全ク貿易商ノ共有金ナリトシテ之カ積立ヲ爲シ單ニ其出金ノ習慣ト其名稱トチ困難シタルニ過キサレハ本訴物件ノ元資金中ニ包含セリト云フ歩合金トハ全ク同性質ノモノニ非ラサルナリ

二本訴物件ノ元資金

本訴物件ヲ買入又ハ建設シタル金員ハ前項ニ陳フル如キ貿易商ノ出
 金シタル歩合金ノミヨリ生シタルモノニ非スシテ元町歩合職人歩合
 等二十余科目ノ税金ノ剰余ナルコトハ乙第三號証ニ照シテ明瞭ナル所
 ナリ然ラハ仮リニ貿易商ノ歩合金ハ其性質原告等ノ私有ニ屬スル積
 立金ナリトスルモ本訴物件ノ元資金トナリタルモノハ既ニ他ノ税金
 ト混淆シ其性質全ク公費金ニ變シタルモノナレハ之ヲ原告等ノ共有
 金ナリト云フ可ラス況ンヤ前項説明ノ如ク歩合金ハ固ト公費金ノ性
 質ヲ有スルモノナルニ於テオヤ

三本訴物件ノ性質及其建設ノ目的

本訴物件ノ性質タル學校病院等ノ敷地建物ハ勿論町會所及其附屬地
 等ニ至ル迄殆ント公供ノ用ニ供スルノ性質ヲ有セサルハナシ故ニ之
 ヲ買入若クハ建設スルノ目的ハ本町外十三ヶ町若クハ横濱全市ノ公

供ノ用ニ供セント欲スルニ在ルモノト云ハサル可ラス此公共ノ用ニ
 供スル財産ヲ建設スルニ當リ之ヲ一人タル原告等ノ所有物ナリト
 スルニハ殊ニ其所有權ヲ貯存シ置カサル可ラス然ルニ是等ノ證據ナ
 キ以上ハ之ヲ公共ノ財産ナリト見做スヲ當然ナリトス故ニ仮リニ本
 訴ノ物件ハ貿易商ノ共有金ヲ以テ建設シタリトスルモ其物件ヲ以テ
 直チニ貿易商ノ共有物ナリト爲ス可ラス況ンヤ前二項説明ノ如ク其
 元資金ハ固ト貿易商ノ共有金ナラサルニ於テオヤ

以上ハ本訴物件全体ノ起原ニ關シ之ヲ論シタルモノナリ猶細カニ其
 物件ノ起原ヲ釋スルキハ學校敷地病院敷地等ノ如キハ公共ノ用ニ供
 スル爲メ故ラニ官ヨリ下附セラレタルモノアリ又歩合金ト町費ト全
 ク分離シタル後殊ニ町費ヲ以テ買入レタル地所等少シトセテ是等ノ
 物件ハ原告等ノ共有物ナリト云フ可ラサルコト素ヨリ論ヲ竣タサルナ

第二本訴物件ノ來歴

本訴物件ハ主トシテ明治五六年以來ノ造設ニ係ルモノニシテ明治十一年中迄ハ第一大區即チ横濱區ニ於テ處分シ來リ同年ニ至リ大區會ニ於テ一小區即チ本町外十三ヶ町ノ共有物ナリトシ其引渡チ爲シタルヲハ乙第六號証ニ照シテ明瞭ナリ爾來本町外十三ヶ町ハ之ヲ其共有物ナリトシテ所持スルモノナリ今試ミニ所有權ノ權能タル使用収益處分其他ノ點ヨリ觀察スルニ本訴ノ物件ハ常ニ本町外十三ヶ町一般人民ニ於テ共有シ若クハ横濱全市ノ人民ニ共用セシメタルモ原告等貿易商ハ會テ之ヲ專用シタルモノニ非ス其他人ニ使用セシメテ収益アルモノ、如キ其収益ハ常ニ本町外十三ヶ町ノ公費ニ充テタルヲハ原告代言人モ承認スル所ナリ又原告ハ本町外十三ヶ町聯合町會カ

本訴ノ物体ヲ原告等貿易商ニ引渡ス可シト評決シタルヲ以テ本訴物件引渡請求ノ一理由ト爲スモノナレハ本町外十三ヶ町ニ本訴物件ノ處分權アルヲ認ムルモノナリト云フヲ得ヘシ其他物件保存ノ費用ノ如キ年々歩合金ノ補助アルモ這ハ是歩合金分離後全ク町費トシテ賦課シタルモノナルヲ乙七號乃至十五號証ニ徵シテ明瞭ナレハ其費用ハ本町外十三ヶ町ニ於テ之ヲ支辨シタルモノト爲サ、ル可ラス又物件管理ノ如キハ明治十一年以來常ニ被告戸長ノ掌トル所ナルヲハ原告代言人ノ承認スル所ナリトス

以上説明スル所ノ如ク本訴ノ物件ハ之ヲ其起原及來歴ニ徵スルニ固ト原告等貿易商ノ共有物ナリト爲スヲ得サルモノトス

第三点原告ハ甲第一號証ノ如ク明治廿年度本町外十三ヶ町ノ聯合町會ニ於テ本訴ノ物件ハ悉ク原告等貿易商ノ共有物ナリトシテ之ヲ其

總代人へ引渡ス可シト評決シタルニヨリ此評決ニ基ツキ本訴物件ノ引渡ヲ請求スルト主唱セリ依テ原告ハ甲第一號証ノ評決ニヨリ本訴物件ノ引渡ヲ受ク可キ權利ヲ得タルモノナルヤ否ヲ見ルニ元來聯合町會ハ本町外十三ヶ町ノ一機關タルニ過キス故ニ此ノ會ニ於テ甲第一號証ノ如ク一旦本訴ノ物件ヲ原告等貿易商ニ引渡ス可シトノ評決ヲ爲シタルモ其ノ評決タル唯單ニ本町外十三ヶ町内部ノ一議タルニ外ナラサレハ之ヲ以テ本町外十三ヶ町ハ原告等ニ對シ本訴ノ物件ヲ引渡ス可キ義務ヲ負フ可キモノニ非ラス從テ本町外十三ヶ町ノ代表者タルニ過キサル被告戸長モ亦原告等ニ對シ本訴物件引渡ノ義務ヲ負フモノニ非ス依テ原告ハ甲第一號証ニヨリ本訴物件ノ引渡ヲ受ク可キ權利ヲ得タルモノト云フ可ラスハ

上來說明スル所ノ如ク本訴ノ物件ハ固ト原告等貿易商ノ共有物ニ非

ス又原告ハ甲第一號証ニヨリ本訴物件ノ引渡ヲ受クルノ權利ヲ得サル上ハ被告ハ今日本訴ノ物件ヲ本町外十三ヶ町ノ共有物ナリトシテ正當ニ管理スルモノナリ依テ原告ハ被告カ本訴ノ物件ヲ故ナク占有スルモノトシ其引渡ヲ爲シシムルヲ得サルモノトス

但原告ハ甲第一號証ニヨリ本訴物件ノ引渡ヲ受クルノ權利ヲ得スト爲ス以上ハ乙一二號証ノ効力ノ有無其他甲第一號証ノ効力ニ關シ原被告代言人ノ爲シタル諸般ノ論旨ハ之ヲ判決スルノ必要ナキヲ以テ一々之カ説明ヲ爲サス

右ノ理由ナルニヨリ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟入費ハ原告之ヲ負担ス可シ

明治廿二年八月三日横濱始審裁判所公廷ニ於テ始審ノ裁判ヲ言渡

ス

始審裁判所判事

寺尾

亨印

裁判所書記

阿部榮五郎印

右正本ニ依リ謄寫下附スルモノ也

明治廿二年八月十日於橫濱始審裁判所

裁判所書記

伊東重五郎印

明治廿二年八月二十五日印刷
明治廿二年九月二日出版

發行兼
編纂者

廣島縣平民

花井卓藏

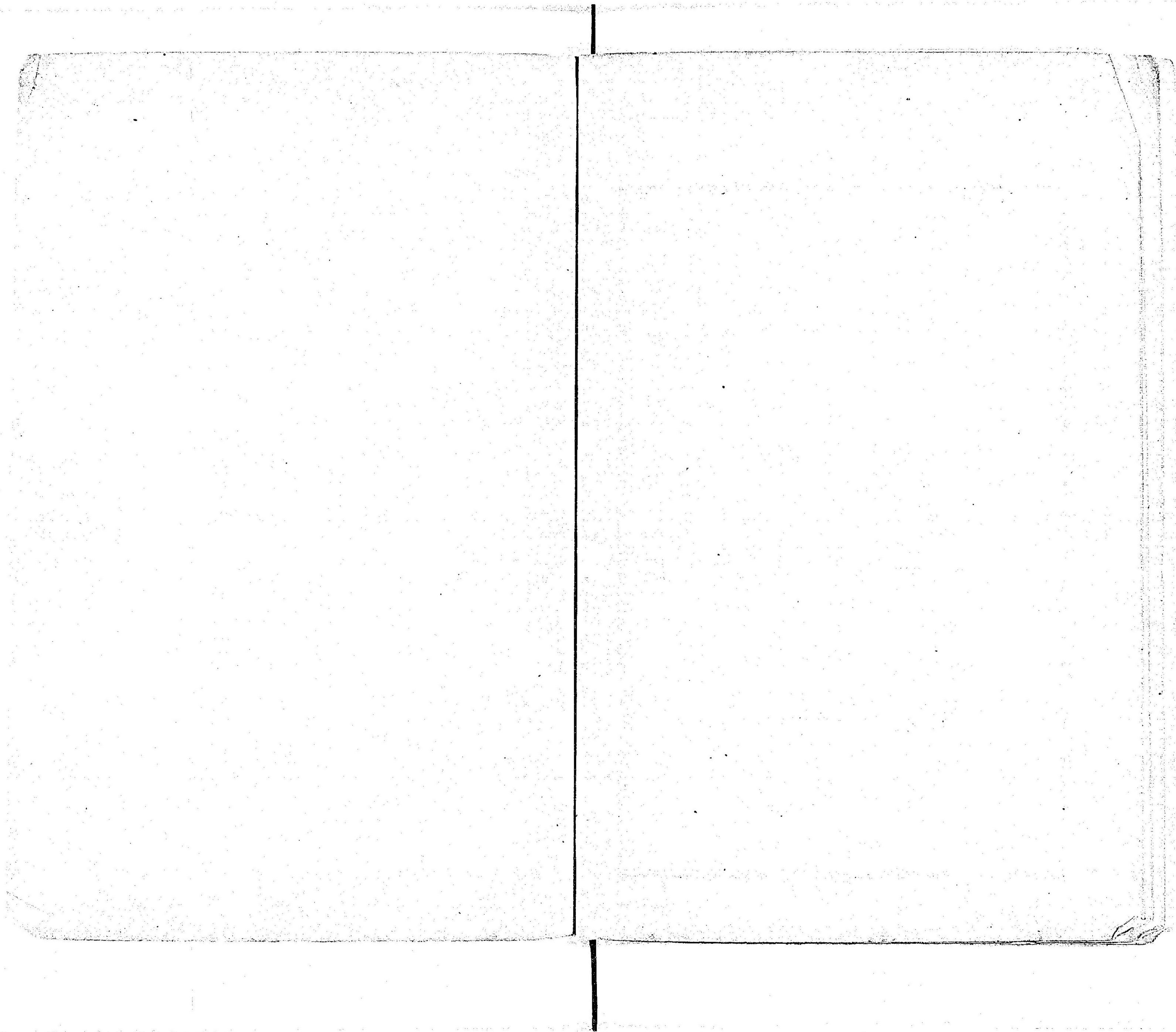
東京市日本橋區
檜物町十番地寄留

千葉縣平民

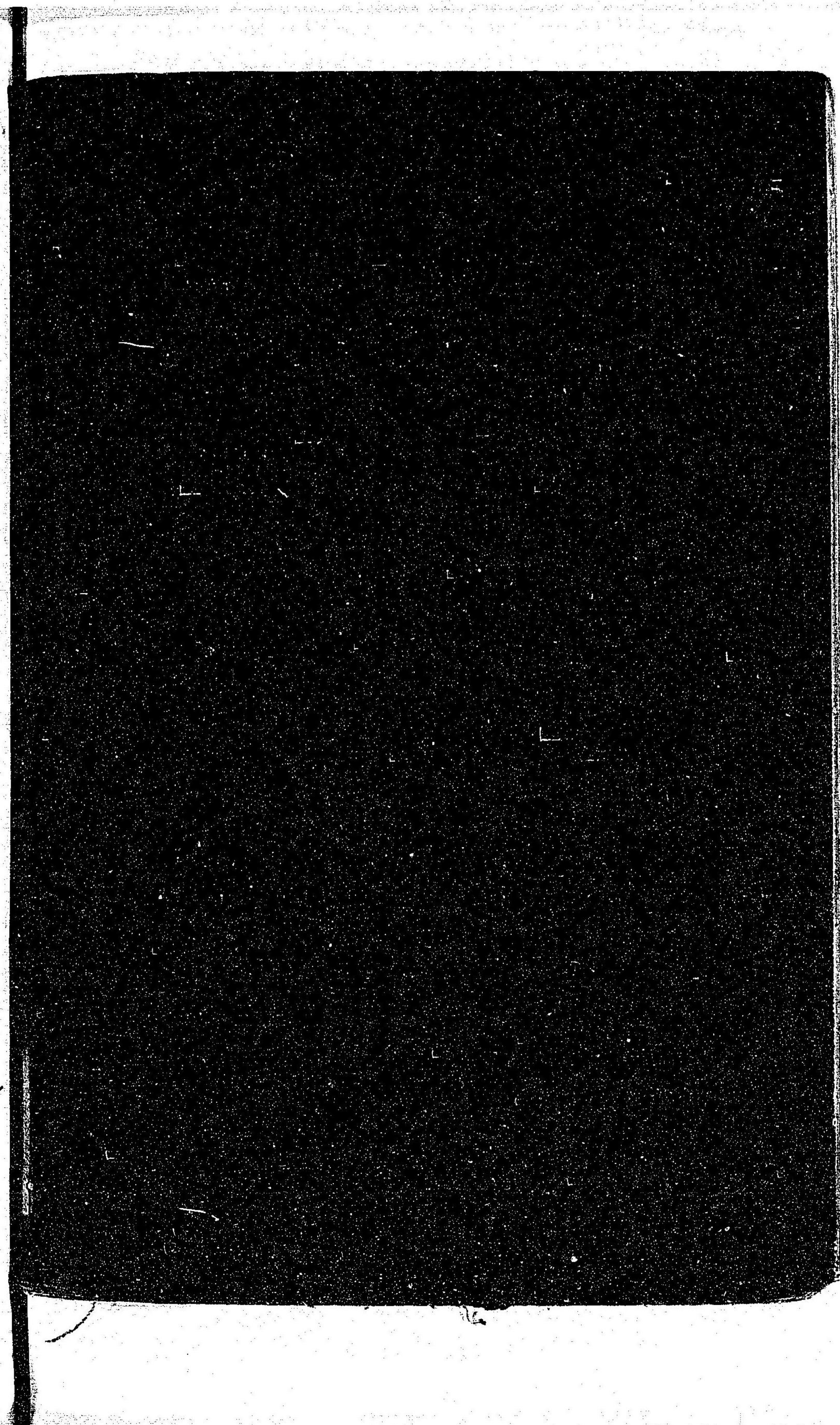
印刷者

和三四郎

東京市京橋區西紺屋町
壹番地九重活版所



33
5
194



33
194

036517-000-0

33-194

横浜貿易商共有物引渡請求訴訟始審願末録

花井 卓蔵 / 編

M22

BBR-0252



33

194

沈氏詩話卷之八

上海商務印書館

